



各務原市 「まちづくりに関する市民意識調査」の 結果報告書

平成 30 年9月
各務原市

【目次】

I	調査概要	1
1.	調査目的	2
2.	調査の概要	2
3.	報告書の見方	3
II	調査結果総括	5
1.	18歳以上市民アンケート 調査結果について	6
2.	中高生アンケート 調査結果について	12
III	調査結果	15
1.	18歳以上市民アンケート調査結果	16
1.	回答者の属性	16
2.	わたしたちのまち各務原市について	24
3.	人口減少対策について	66
4.	協働のまちづくりについて	74
5.	あなたの幸せについて	82
2.	中高生アンケート調査結果	88
1.	回答者の属性	88
2.	各務原市への愛着や住みやすさについて	90
3.	各務原市のまちの魅力について	95
4.	日常生活における満足度について	96
5.	まちづくりへの関心について	98
6.	あなたの幸せについて	101
7.	あなたのアイデアについて	104

I 調査概要

1. 調査目的

本調査は、市の施策満足度やまちづくりへの意識を調査し、各務原市総合計画後期基本計画に市民の意見を反映させることを目的に実施しました。

2. 調査の概要

- ・調査地域 : 各務原市
- ・調査対象者 : 18 歳以上市民調査 各務原市に住んでいる 18 歳以上の方から 3,000 人を無作為に抽出
中高生調査 各務原市に所在する 8 中学校の 3 年生または 2 年生 1 クラス
// 3 高等学校の 3 年生または 2 年生の内、市内在住者 60 人
- ・調査期間 : 平成 30 年 7 月 3 日～7 月 19 日
- ・調査方法 : 郵送配布・回収（中高生調査については、学校を通じた配布・回収）
- ・調査実施機関 : (株) ジャパンインターナショナル総合研究所
- ・回収結果 : 下表参照

調査票	調査対象者数 (配布数)	有効回収数	有効回収率
18 歳以上市民	3,000 件	1,058 件	35.3%
中高生	462 件	462 件	—

なお、18 歳以上市民への配布については、下記地区別人口の割合に配慮して無作為抽出を行っています。

※参考：地区別人口（平成 30 年 6 月 1 日現在）

区分	那加地区	稲羽地区	鵜沼地区	蘇原地区	川島地区	合計
住民基本台帳人口	34,374	13,360	56,273	29,669	11,435	145,111
18 歳以上人口	28,667	11,353	47,156	24,506	9,287	120,969
人口割合	23.7%	9.4%	39.0%	20.2%	7.7%	100.0%

また、18歳以上市民および中高生アンケートの設問で、住まいの小学校区についてたずねましたが、集計にあたっては、以下の地区別に集約しています。

那加地区	那加第一小学校、那加第二小学校、那加第三小学校、尾崎小学校
稲羽地区	稲羽西小学校、稲羽東小学校
川島地区	川島小学校
鵜沼地区	鵜沼第一小学校、鵜沼第二小学校、鵜沼第三小学校、緑苑小学校、八木山小学校、陵南小学校、各務小学校、中央小学校（※）
蘇原地区	蘇原第一小学校、蘇原第二小学校、中央小学校（※）

※中央小学校については、便宜上、回答数が鵜沼地区と蘇原地区で1：1となるよう按分しました。

3. 報告書の見方

- 回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の読み取り文、グラフ、表においても反映しています。
- 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- 図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- 図表中の「N（number of case）」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表しています。
- グラフ中の選択肢は、原則として調査票に記載された表現のまま、記載しています。

Ⅱ 調査結果総括

1. 18 歳以上市民アンケート 調査結果について

（１）まちへの親しみ度（問 9、問 13）

各務原市に対する愛着、親しみについて、「感じている」が 63.7%と最も高く、性別でみても男女ともに 6 割以上が「感じている」と答えています。

また、これからも各務原市に住み続けたいかについては、「ずっと住み続けたい」が 58.4%と最も高く、性別でみても男女ともに 5 割以上が「ずっと住み続けたい」と答えており、この傾向は年齢が上がるにつれて高くなっています。年を重ねるにしたがい、「自分のまち」としての愛着や親しみが醸成され、定住していきたいという思いにつながっていることがうかがえます。

5 年前の調査結果では、各務原市に愛着や親しみを「感じている」が 63.6%、各務原市に「ずっと住み続けたい」が 59.3%であり、今回の調査結果もほぼ同じといえます。性別、年齢別にみても今回の上記の傾向は 5 年前と同じですが、今回の方が 5 年前よりも 10 代と 20 代で各務原市に愛着や親しみを「感じている」が減少し、逆に 30 代と 40 代で増加しました。

（２）住みやすさについて（問 10、問 11、問 12）

各務原市の住みやすさについては、「とても住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」を合わせると 77.1%となっています。年齢別にみると、全世代で「とても住みやすい」が 20%以上と高くなっています。

住みやすい理由としては「生活環境が良いから」「買い物に便利だから」「自然環境が良いから」が高い割合となっています。日々の暮らしを取り巻く環境が良好に保たれ、日常生活に不可欠な買い物の利便性が高いことが、各務原市の「住みやすさ」を裏づけていることがわかります。

一方、「とても住みにくい」「どちらかといえば住みにくい」を合わせた割合は 9.7%となっており、住みにくい理由として「交通事情や交通の便が良くないから」「買い物に不便だから」「通勤・通学に不便だから」などがあげられています。

住みやすい理由を地区ごとにみると、「生活環境が良いから」と「自然環境が良いから」は全地区で割合が高いのに対し、交通や買い物の利便性を挙げる割合が高いのは、一部の地域に限られています。

5 年前の調査と比較して、今回の調査で上記の全体の状況はほぼ同じです。ただし、住みやすい理由について詳しくみると、全体では今回の「友人・知人が多い」と「通勤・通学に便利」が 5 年前よりやや低下しています。また、10 代と 20 代で「まちのイメージや雰囲気が良く、親しみや愛着があるから」の割合が、今回は 5 年前よりそれぞれ

10 ポイント近く低下しており、先述の各務原市に愛着や親しみを「感じている」がこれら年代で低下したと符合しています。

（３）各務原市のイメージについて（問 15、問 16）

各務原市のイメージについて「強くそう思う」と「そう思う」を合わせた『そう思う』の割合では、「自然と都市機能が調和しているまち」が最も高く、次いで「高品質のものづくりなど産業が盛んなまち」「スポーツと健康づくりを推進するまち」となっています。これは住みやすさの理由として挙げられている「環境」の良さとともに、産業やスポーツが盛んなイメージを市民が抱いていることがうかがわれます。

一方で、各務原市のイメージについて「市外から多くの人を訪れる観光などが魅力的なまち」「世界に向けて情報発信するまち」で、「そう思わない」と「全くそう思わない」を合わせた『そう思わない』の割合が高くなっています。各務原市の魅力を対外的にアピールすることが求められていると考えられます。

また、市の将来の都市の姿としては、「医療や福祉が充実し健康に暮らせるまち」「高齢になっても生きがいを持って安心して暮らせるまち」が高く、約５割の人が期待しています。年齢別でみると、20～40 代と 60 代で「医療や福祉が充実し健康に暮らせるまち」、50 代と 70 歳以上では「高齢になっても生きがいを持って安心して暮らせるまち」が最も高く、医療・福祉関連の施策の充実が求められています。

５年前と比較すると、各務原市のイメージに関して今回の調査は、『そう思う』で割合の高い上位の項目と、『そう思わない』で割合の高い上位の項目で変化がありません。ただし、項目ごとに割合の値を比較すると、５年前よりも今回の『そう思う』の割合で、「若者にとって魅力的な（個性的でおしゃれな）まち」と「高品質のものづくりなど産業が盛んなまち」の増加が目立ちます。また、５年前も今回も全体で『そう思わない』の割合が高かった「市外から多くの人を訪れる観光などが魅力的なまち」「世界に向けて情報発信する（国際的な）まち」は、それぞれの割合でみると、今回は５年前よりも減少しています。

さらに、市の将来の都市の姿について、今回の調査では５年前よりも全体で「活気のあるにぎやかなまち」が 6.0 ポイント低下する一方で、「高齢になっても生きがいを持って暮らせるまち」が 5.3 ポイント上昇しました。年齢別にみると「活気のあるにぎやかなまち」が 20 代を除く各年代で低下しており、「高齢になっても生きがいを持って暮らせるまち」では 40 歳以上の年代でポイントが上昇し、特に 40 代と 50 代の上昇が目立っています。

（４）施策の満足度、重要度（問 17）

市で実施する 37 の施策について、満足度と重要度の回答結果を点数化しました。満足度が低く、重要度が高い、今後特に重点的に取り組む必要がある施策は下表のとおり、

青少年教育、地域福祉、社会保障、高齢者福祉、障がい児者福祉、子ども福祉、交通体系、公共交通、雇用、財政運営に関するものとなっています。

■重点課題（満足度が低く、重要度が高い）に分類されている施策

番号	施策名	満足度	重要度
5	青少年教育（地域教育力の向上等）	0.41	2.65
15	地域福祉（地域福祉の担い手育成、福祉の拠点づくりの推進等）	0.42	2.32
16	社会保障（国民健康保険制度、介護保険制度等の適正な運用等）	0.28	3.01
17	高齢者福祉（地域包括ケア体制の構築、高齢者の自立支援・生活支援、高齢者の生きがいづくりの推進等）	0.36	2.92
18	障がい児者福祉（障がい児者の自立支援や社会参加の促進、障がい児者施設の充実等）	0.27	2.49
19	子ども福祉（地域ぐるみの子育て支援体制の強化、乳幼児保育・教育の充実等）	0.45	2.89
25	交通体系（幹線道路・生活道路の整備等）	0.49	2.60
28	公共交通（公共交通ネットワークの形成、ふれあいバスの運行等）	-0.12	2.64
34	雇用（多様な人材の育成、就労を支援する環境整備等）	0.13	2.58
36	財政運営（計画的な財政運営等）	0.01	2.44

5年前は44の施策に分類していたため、今回の調査と単純な比較はできませんが、5年前と引き続き「満足度が低く、重要度が高い」とされた施策は、地域福祉、社会保障、高齢者福祉、障がい児者福祉、子ども福祉、交通体系です。また、循環型社会や保健・予防、地域医療、防災体制、消防・救急、上下水道については、5年前から引き続いて「満足度が高く、重要度が高い」施策と評価されています。

（５）まちづくりの評価（問18、問19）

5年前に比べて「まちづくり」全般について改善したと思うかについては、「とても改善したと思う」「まあ改善したと思う」を合わせた『改善したと思う』割合が41.6%と約4割を占めています。

施策の改善度についてみると、ここ5年間で改善したもの、悪化したものについては以下のような結果となっています。都市空間、観光・交流、公共交通、交通体系、学びの機会については、「改善・進展した」との評価が高くなっています。公共交通および交通体系は、「悪化・進んでいない」でも上位に位置しているほか、都市ブランド、農業、雇用関連の施策も「悪化・進んでいない」が高くなっています。

公共交通、交通体系に関しては、良い面と悪い面両方に対する関心の高さがうかがわれるほか、住みやすさの理由と同様その評価には地域的な差がみられます。

■ここ5年間で改善した（進展した）・悪化した（進んでいない）と思う取り組み

順位	改善した（進展した）と思う取り組み		悪化した（進んでいない）と思う取り組み	
	項目名	割合	項目名	割合
1	都市空間（魅力的な都市空間の形成、公園・緑地の保全 等）	13.9%	公共交通（公共交通ネットワークの形成、ふれあいバスの運行等）	13.9%
2	観光・交流（観光資源のブランド化、航空宇宙博物館の充実 等）	12.8%	都市ブランド（かかみがはらブランドの形成・発信等）	9.5%
3	公共交通（公共交通ネットワークの形成、ふれあいバスの運行等）	10.9%	交通体系（幹線道路・生活道路の整備等）	9.3%
4	交通体系（幹線道路・生活道路の整備等）	9.7%	農業（農地の保全と活用、地産地消の推進等）	9.3%
5	学びの機会（生涯学習の充実、図書館サービスの充実 等）	8.3%	雇用（多様な人材の育成、就労を支援する環境整備等）	7.8%

経年変化をみると、「まちづくり」全般について改善したと思うかについて、『改善したと思う』割合は、5年前の調査の 48.3%と比べ、今回の調査では 6.7 ポイント低下しました。性別では男女とも、年齢別では 10 代を除く各年代で低下しており、特に 50 代で 9.8 ポイント、70 歳以上で 15.4 ポイント低下しています。ただし、今回の調査で「やや悪化したと思う」と「悪化したと思う」を合わせた『悪化したと思う』は、5 年前と比較してほとんど変化がなく、「変わっていない」が 5.5 ポイント増えています。

施策の改善度と悪化度は、施策の満足度・重要度と同様に、施策の分類を 5 年前の 44 項目から 37 項目に変更したことに留意する必要がありますが、交通体系が「改善・進展した」と「悪化・進んでいない」の両方で上位に位置する状況は今回の調査も 5 年前の調査も同じです。また、農業は 5 年前から引続き「悪化・進んでいない」の上位にあります。一方、観光・交流は 5 年前に「悪化・進んでいない」の上位でしたが、今回の調査では「改善・進展した」の上位にランクインしました。

（6）人口減少対策について（問 21、問 23）

各務原市の人口減少対策については、全体で「現在程度の人口を維持するように努力すべき」が 26.1%と最も高いものの、「人口が増加するよう努力すべき」、「人口減少の幅が少しでも小さくなるよう努力すべき」、「人口減少を受け入れ、それに対応した持続可能なまちとなるよう努力すべき」もそれぞれ約 2 割を占め、意見が分かれました。性別でみても同様の傾向があります。年齢別では 40 代で「人口減少を受け入れ、それに対応した持続可能なまちとなるよう努力すべき」が 27.8%、地区別では川島地区で 33.3%と最も高くなっています。しかし各年代、各地区でみても、上記 4 つの意見がそれぞれ約 2 割から 3 割を占めていることが殆どであり、突出して多い意見はみられません。

市が取り組む有効な施策として、「子育て環境の充実」が最も高く、「雇用の確保や就

労支援」「結婚・妊娠・出産・産後への支援」と続いています。就労による生活基盤の確保や、結婚から出産、子育てまでのライフサイクルへの支援といった少子化対策が期待されています。

（７）協働のまちづくりについて（問 24、問 25、問 26）

今後の各務原市のまちづくりのあり方については、「市民と行政が協力し、一体となってまちづくりを進める」が最も高く、男女ともは６割以上と高くなっています。まちづくり活動への市民参加については、10代と60代以上が「できるだけ参加したい」が最も高く、20代から50代までは「参加したいと思うが参加できない」が高くなっています。

どのような形で参加したいかについては、男女ともに「自治会などの地域活動への参加を通じて関わりたい」が最も高く、次いで「アンケートやモニターや調査などを通じ、市へ意見や意向を伝えたい」が高くなっています。年齢別では10代で「NPOやボランティアなどの市民活動団体への参加」が多く挙げられています。また、30代と40代では「意見交換会やワークショップなど行政と住民が協働する活動」も約３割を占め、他の年代よりも官民協働への意識が高いことがわかります。

５年前の調査と比較すると、今回の調査では全体で「市民や地域でできることは市民主体で行い、できないことを行政が担う」と「市民と行政が協力し、一体となってまちづくりを進める」の割合がやや低下し、「行政が主体となって、まちづくりを進める」がやや上昇しました。「市民と行政が協力し、一体となってまちづくりを進める」では特に、性別で女性の割合が、年齢別で20代から40代までの各割合が５年前より低下しています。一方、「行政が主体となって、まちづくりを進める」では、性別で男性の割合が、年齢別で20代から50代までの各割合が５年前よりも増えました。

まちづくり活動への市民参加については、今回の調査で「できるだけ参加したい」が26.6%と、５年前の34.9%から8.3ポイント低くなり、男女とも、そして全ての年代で低下しています。逆に「参加したいと思わない」は今回は20.6%で、５年前の13.2%から7.4ポイント上昇しました。男女および全年代で「参加したいと思わない」の割合が上がっています。

さらに、どのような形で参加したいかについて、今回全体では「意見交換会やワークショップなど行政と住民が協働する活動」で20.0%と、５年前の14.3%より5.7ポイント上昇し、「NPOやボランティアなどの市民活動団体への参加」では、今回は19.7%と５年前の26.6%から6.9ポイント低下しました。特に、「意見交換会やワークショップなど行政と住民が協働する活動」で30代から60代までの各割合が上がったのが目立っています。逆に「NPOやボランティアなどの市民活動団体への参加」では70歳以上を除く各年代で低下しました。

（８）幸福度について（問 28、問 29）

現在の幸福度については、全体で「５点」以上が９割近くを占めており、「７点」が 22.0%と最も高くなっています。性別では、男女とも「７点」と「８点」がそれぞれ約 2 割を占め、「９点」と「10 点」では女性の方が男性より上回っています。一方、年齢別にみると、10 代、40 代と 60 歳以上の各年代の平均値が全体の平均よりも高く、50 代はほぼ全体の平均値と同じ、逆に 20 代と 30 代は低くなっています。特に「８点」以上の割合を比較すると、20 代は 29.3%、30 代は 30.7%となり、40 代の 39.1%や 70 歳以上の 39.3%よりも約 10 ポイント低くなっています。

幸せであるために重要だと思うことでは、「自分や家族の健康状況」「家計（所得・消費）の状況」が高く、健康と経済的な豊かさが市民の幸福感の重要な要素となっていることがわかります。

５年前の調査でも「７点」が 21.0%と最も高く、今回の調査と殆ど変わっていません。「５点」以上の割合では、５年前の 86.8%から今回の 87.6%と 0.8 ポイントの上昇がみられます。しかし、「８点」以上の割合では、５年前の 35.3%から今回の 33.9%と、1.4 ポイント低下しています。全体の平均値は５年前が 6.63 点でしたが、今回の調査では 6.66 点に上昇しています。

年齢別で比較すると、今回の「８点」以上の割合が 10 代、40 代、60 代で増加しています。特に 40 代では、５年前の 32.5%から今回の 39.1%と 6.6 ポイントの上昇がみられます。一方 30 代では、５年前の 39.0%から今回の 30.7%と 8.3 ポイント低下しています。

幸せであるために重要だと思うことについては、５年前の調査でも「自分や家族の健康状況」「家計（所得・消費）の状況」が高く、今回の調査でもそれぞれの割合は５年前とほぼ同じ約 6 割となっています。そのほかの項目では、今回は５年前に比べて「自由な時間」と「充実した余暇・趣味」のそれぞれの割合がやや上昇し、「家族関係」と「友人・交友関係」の各割合がやや低下しました。年齢別では、「自由な時間」と「充実した余暇・趣味」で 10 代と 20 代のそれぞれの割合が増加しているのが目立っています。「自由な時間」は 60 代を除く各年代で増加している一方、「家族関係」は 70 歳以上を除く各年代でやや低下しました。

2. 中高生アンケート 調査結果について

（１）愛着や住みやすさについて（問５、問８、問９、問１１）

各務原市のことが好きかについて、「とても好き」「どちらかといえば好き」を合わせると 80.7%となっています。中高生別にみると、中学生で「とても好き」が 22.2%、高校生で 20.7%となっています。

中高生にとっての住みやすさについて「とても住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」を合わせると 76.4%となっており、「生活環境が良いから」が住みやすい理由で最も高く、次いで「友達や知り合いが多いから」「自然環境が良いから」が高くなっています。

各務原市に住み続けたいと思うかについては、「一度市外に出て、また各務原市に戻ってきたい」が 22.9%、次いで「市外に移り住みたい」が 20.1%となっています。約 4 割は「わからない」としていますが、「一度市外に出て、また各務原市に戻ってきたい」と「ずっと各務原市に住み続けたい」を合わせて最終的には各務原市で暮らしたいとする人は現時点で約 3 分の 1 となっています。

5 年前と比較すると、各務原市のことが好きかについて「とても好き」「どちらかといえば好き」を合わせた割合で、今回の 80.7%は 5 年前の 80.5%とほぼ同じになりました。中高生別にみた「とても好き」の割合では、今回の中学生は 5 年前とほぼ同じで、今回の高校生は 5 年前よりも 3.9 ポイント上昇しました。

住みやすさについて、今回の調査で「とても住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」を合わせた割合 76.4%は、5 年前の 78.5%よりも 2.1 ポイント低下し、「どちらかというに住みにくい」と「とても住みにくい」を合わせた割合で今回の 11.9%は、5 年前の 8.5%よりも 3.4 ポイント上がりました。今回の調査で住みやすい理由の割合が高い上位の項目は、5 年前と同じです。しかし、5 年前より今回の方が割合の値が低下している項目が多く、特に「友達や知り合いが多いから」は 5 年前の 60.8%から今回は 48.4%と 12.4 ポイント低下しています。

各務原市に住み続けたいと思うかについての 5 年前との比較では、「一度市外に出て、また各務原市に戻ってきたい」が 5 年前の 31.8%から今回は 8.9 ポイント低下しました。一方、5 年前の調査で「各務原市には住みたくない」が 5.3%であったのと比べ、今回の調査で「市外に移り住みたい」は 20.1%と、14.8 ポイント上昇しました。5 年前に 2 番目に多かった「ずっと各務原市に住み続けたい」が 14.6%であったのに対し、今回の調査では 12.6%となり、2 ポイント低下しました。

（２）まちの魅力について（問 12）

各務原市のまちとしての魅力については、「自然が豊かであること」が 52.8%と最も高く、次いで「交通の利便性がよいこと（岐阜や名古屋に行きやすい）」が 41.8%、「買い物に便利であること（大きな商業施設など）」が 28.8%となっています。市民アンケートと同様に、中高生も自然や利便性をまちの魅力として高く評価しています。

5 年前の調査でも同じ設問で「自然が豊かであること」が最も高く、今回の調査とその割合もほぼ同じですが、5 年前に 2 番目と 3 番目に割合が高かったのは「広大な公園や桜並木など、美しい景観があること」、「イベントやお祭りが盛んなこと」でした。

（３）まちの満足度、重要度（問 13、問 14）

「満足している」と「やや満足している」を合わせた『満足』の割合が高い項目は、「病院や診療所などの医療サービス」「身近な緑や河川などの自然環境」「公園や緑地、広場などの遊び場の数」となっています。一方で、「やや不満である」と「不満である」を合わせた『不満足』の割合が高い項目は「電車・バス・道路などの交通の便利さ」となっています。

生活環境を良くする上で特に重要と考える項目については、「電車・バス・道路などの交通の便利さ」が 38.7%と最も高く、「日常の買物の便利さ」、「病院や診療所などの医療サービス」が続いています。

5 年前の調査で『満足』の割合が高い項目は「病院や診療所などの医療サービス」「公園や緑地、広場などの遊び場の数」「まち並みの美しさ」で、『不満足』の割合が高い項目は「騒音・振動・悪臭などの公害対策」でした。今回の割合を項目ごとに 5 年前と比較すると、『満足』の割合では「電車・バス・道路などの交通の便利さ」と「まち並みの美しさ」の低下が、『不満足』の割合では「電車・バス・道路などの交通の便利さ」の上昇が目立っています。

生活環境を良くする上で特に重要と考える項目では、5 年前は「電車・バス・道路などの交通の便利さ」が最も高く、次いで「小・中学校での教育環境」、「病院や診療所などの医療サービス」でした。

（４）まちづくりへの関心について（問 15、問 16）

まちをより良くする活動に参加したいかについては、「積極的に参加したい」「参加したいと思っている」を合わせると 37.9%となっています。参加したい形としては、「ボランティア活動などをする」が 71.4%と高く、次いで「近所の人と、身近な地域のための活動をする」が 27.4%となっており、中高生にボランティア活動への参加意識が定着していることがうかがえます。

5 年前の調査では、まちをより良くする活動に「積極的に参加したい」「参加したいと思っている」を合わせると 41.0%であったことから、今回は 5 年前よりもやや低下

しました。参加したい形では、今回の「ボランティア活動などをする」は、5年前の「ボランティアなどをする」の 65.8%よりも 5.6 ポイント上昇しました。特に中学生では 5年前の 66.7%から今回は 77.3%と 10.6 ポイント増えています。一方、今回の「近所の人と、身近な地域のための活動をする」は 5年前の 44.0%よりも 16.6 ポイント低下しました。この低下を学年別でみると、中学生で 19.0 ポイント、高校生で 12.6 ポイント低くなっています。

（５）幸福度について（問 18、問 19、問 20）

現在の幸福度は「7 点」が 21.9%と高く、5 点以上の割合が高くなっています。また女子生徒は 5 点以上をつけている割合の合計が男子生徒より 5.3 ポイント多くなっています。高校生は 5 点以上をつけている割合の合計が中学生より 8.1 ポイント回っています。

幸せであるために重要だと思うことでは、学年を問わずに「心身が健康であること」が最も高く、5 割以上となっています。次いで「自由な時間があること」「友人に恵まれていること」の割合も高くなっています。中学生は「自由な時間があること」を選んだ割合が最も高く、高校生を上回っています。

将来が楽しみかについて、「とても楽しみ」「まあまあ楽しみ」を合わせると 61.0%と高くなっています。

今回の調査では幸福度の平均値が 6.46 点で、5 年前の 6.59 点よりもやや低下しています。「5 点」以上の割合では、今回は全体で 83.4%と、5 年前の 79.7%より 3.7 ポイント上がりました。一方、「10 点」の割合が 5 年前の 9.8%から今回の 7.1%と 2.7 ポイント低下しました。

また、5 年前の調査で幸せであるために重要だと思うことについては、「心身が健康であること」が最も高く、次いで「友人に恵まれていること」「自由な時間があること」の順でした。項目ごとに比較すると、今回の調査では 5 年前よりも「自由な時間があること」と「自由に使えるお金があること」がやや上昇し、「人から必要とされること」「将来への夢があること」「友人に恵まれていること」はやや低下しています。

最後に将来が楽しみかについて、今回の「とても楽しみ」「まあまあ楽しみ」を合わせた割合は、5 年前の 68.6%より 7.6 ポイント低下しました。

Ⅲ 調査結果

1. 18歳以上市民アンケート調査結果

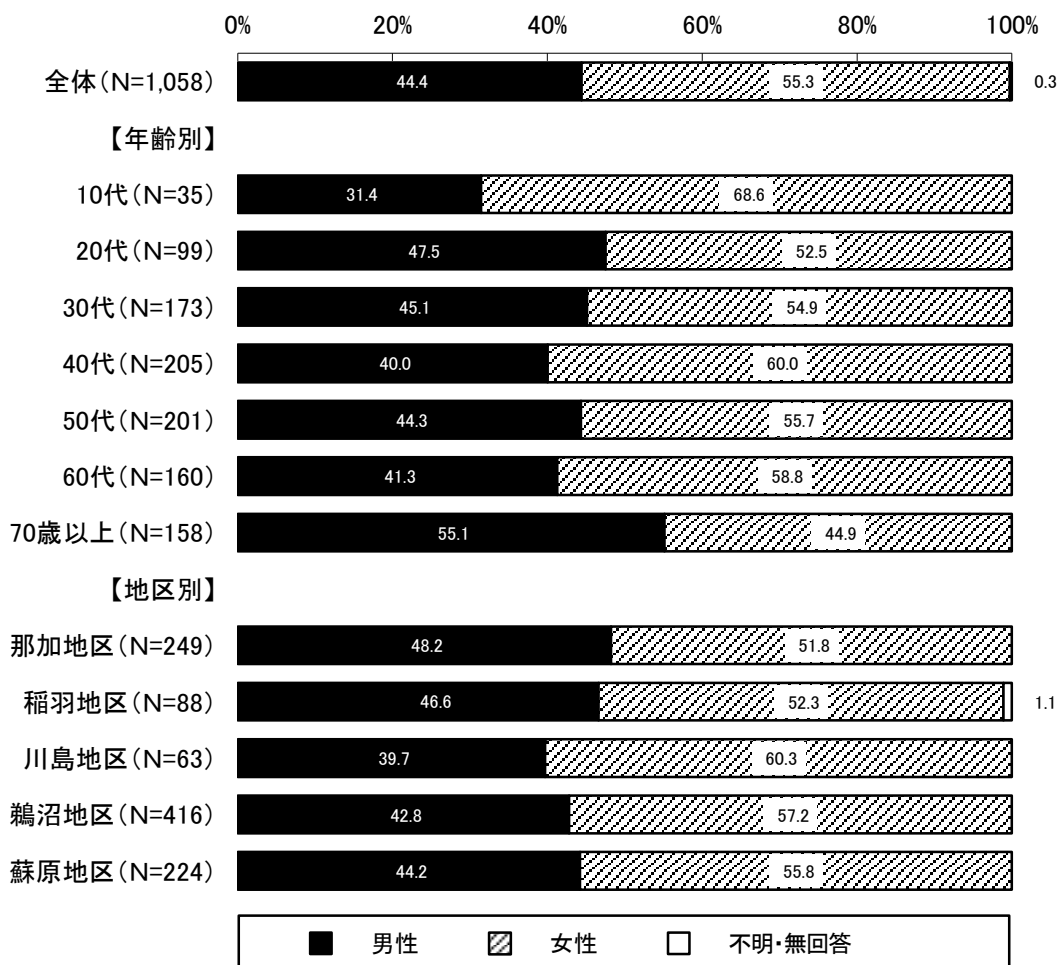
1. 回答者の属性

問1 あなたの性別をお答えください。(単数回答)

性別について、「男性」が44.4%、「女性」が55.3%と、女性が10.9ポイント上回っています。

年齢別について、10代から60代までは「女性」が男性を上回っていますが、70歳以上の年代のみ「男性」が女性を上回っています。

地区別について、全地区で「女性」が男性を上回っています。

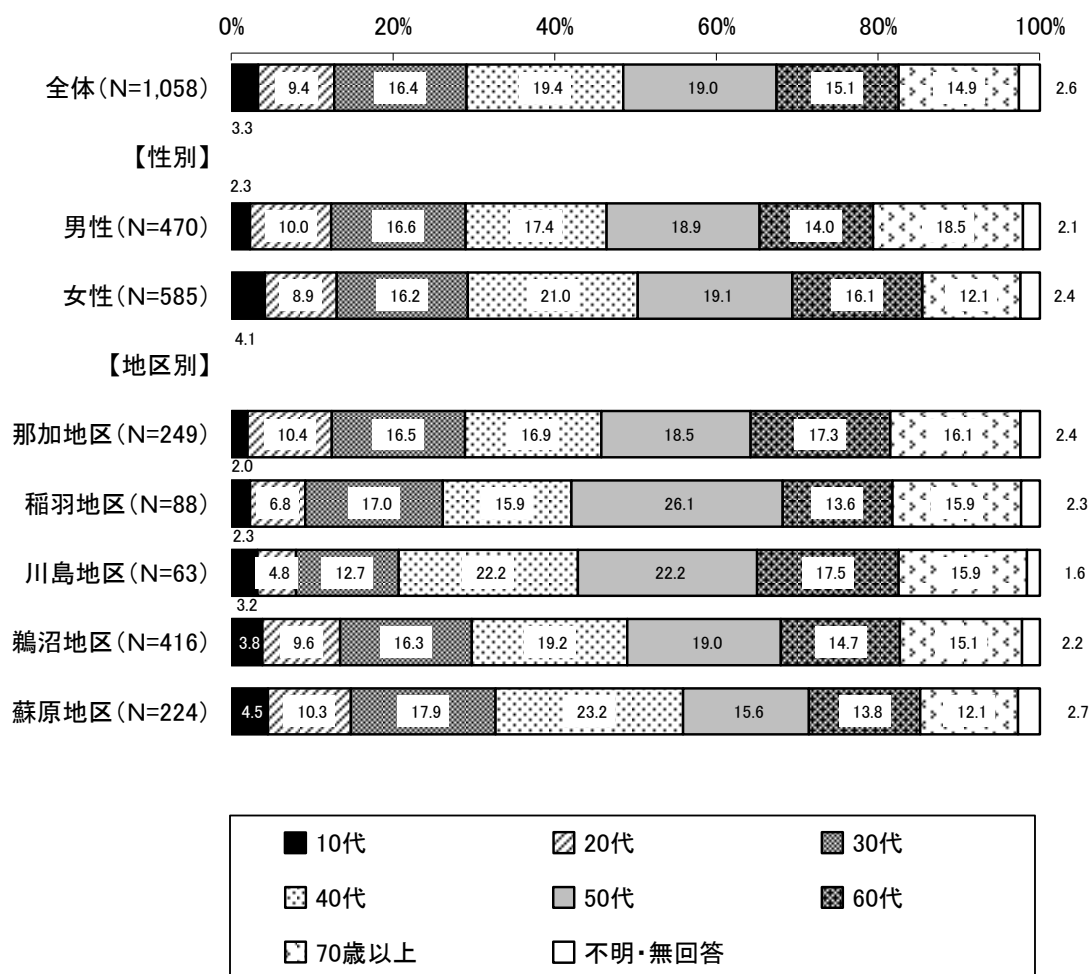


問2 あなたは何歳ですか。(数量回答)

年齢について、「40代」が19.4%と最も高く、次いで「50代」が19.0%、「30代」が16.4%となっています。

性別について、男性は「50代」が最も高く、女性は「40代」が最も高くなっています。

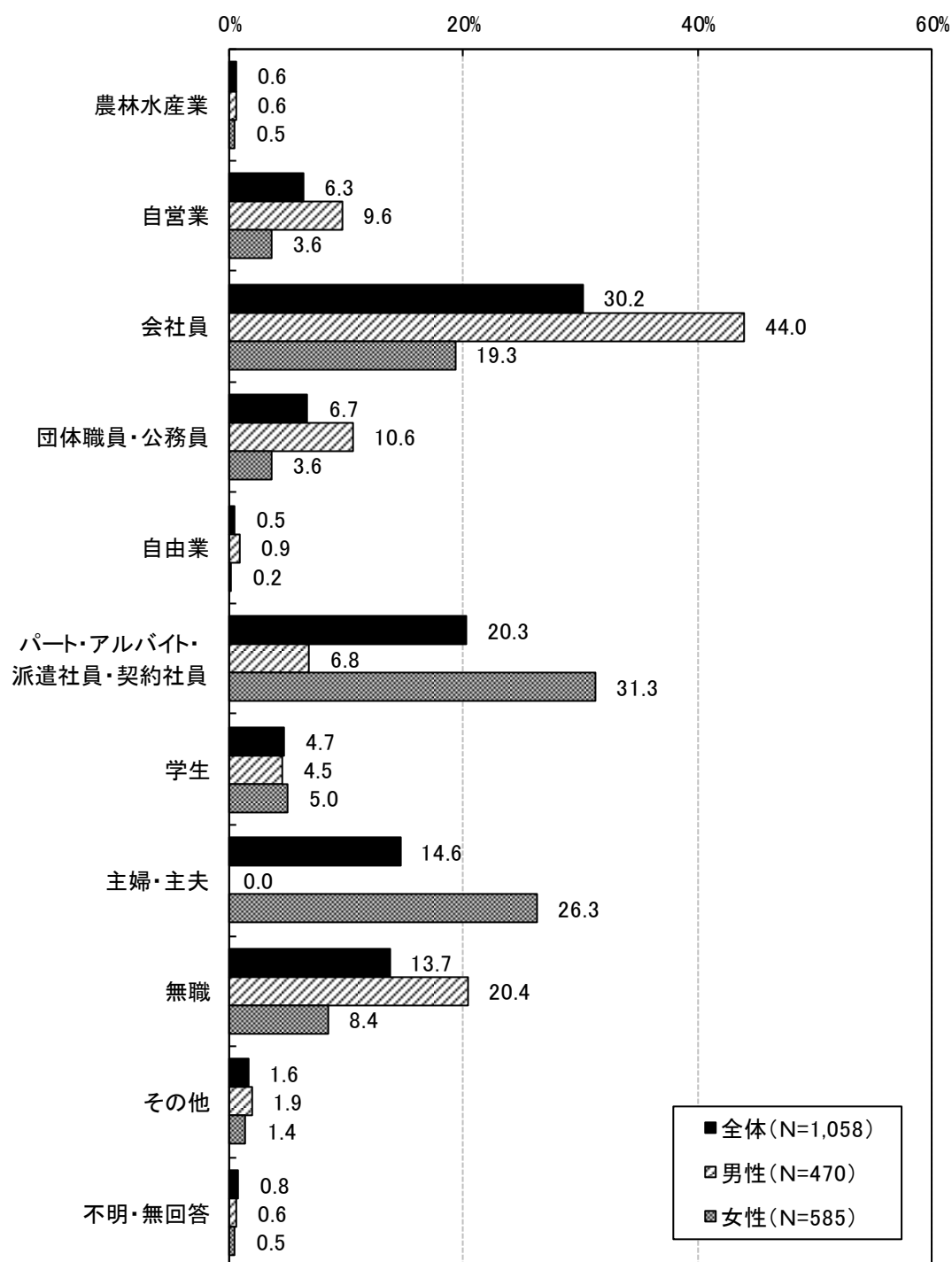
地区別について、那加地区、稲羽地区は「50代」、鵜沼地区、蘇原地区は「40代」が最も高く、川島地区は「40代」「50代」が同率となっています。



問3 あなたの職業を教えてください。(単数回答)

職業について、「会社員」が30.2%と最も高く、次いで「パート・アルバイト・派遣社員・契約社員」が20.3%、「主婦・主夫」が14.6%となっています。

性別について、男性は「会社員」が44.0%、女性は「パート・アルバイト・派遣社員・契約社員」が31.3%と最も高くなっています。



<問3で「1」～「7」と回答した方におたずねします。>

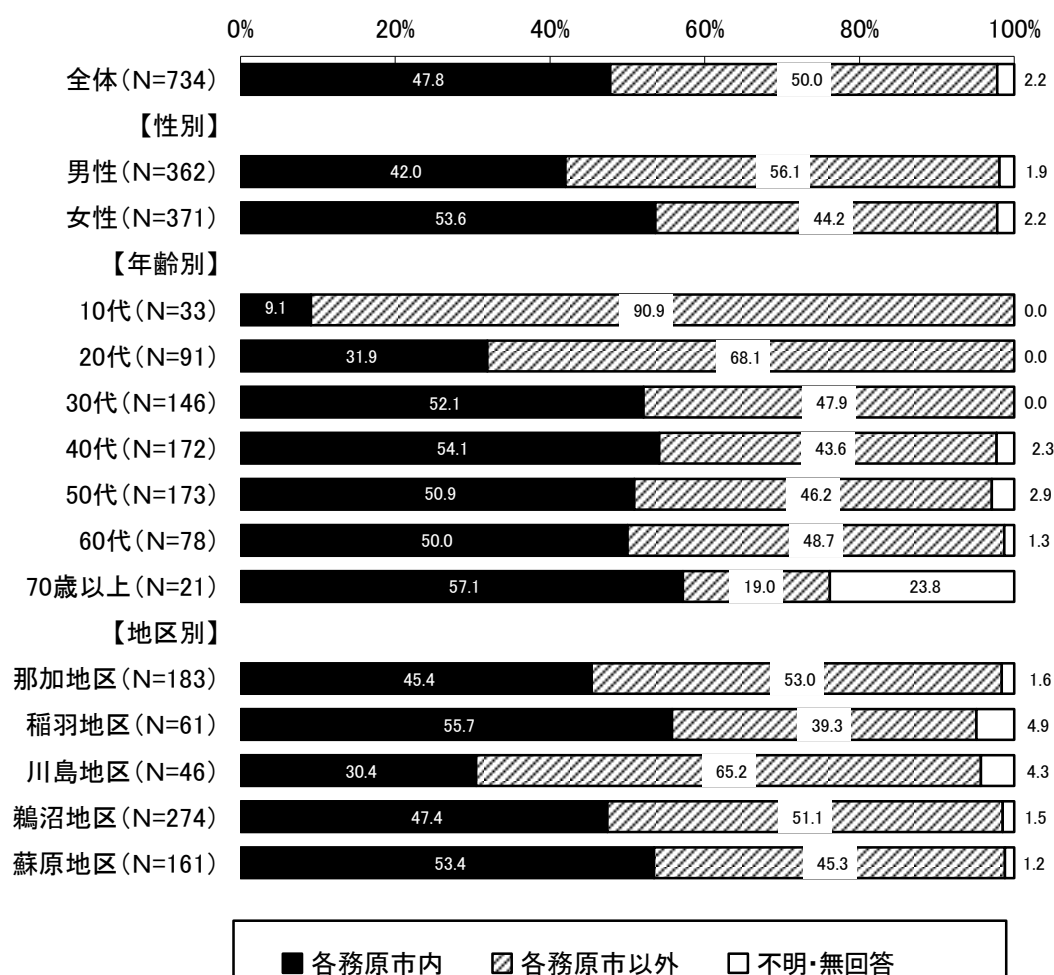
問4 あなたの通勤(または通学)先はどちらですか。(単数回答)

通勤・通学について、「各務原市内」が47.8%、「各務原市外」が50.0%となっています。

性別について、男性は「各務原市外」が56.1%、女性は「各務原市内」が53.6%と最も高くなっています。

年齢別について、10代は「各務原市外」が90.9%と最も高く、年齢が上がるにつれ減少傾向になっています。

地区別について、川島地区は「各務原市外」が他地区と比べ高く、65.2%となっています。

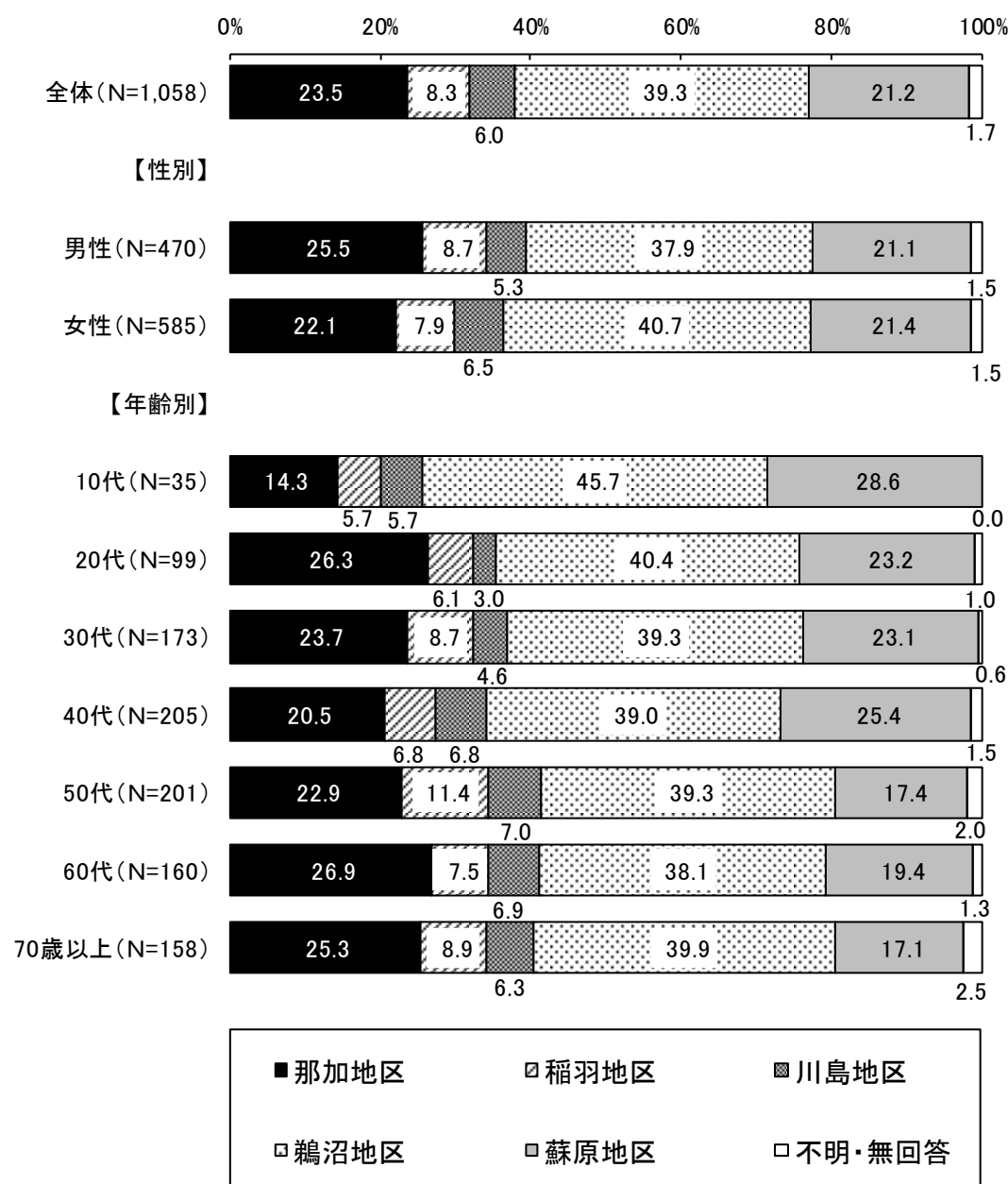


問5 あなたがお住まいの校区はどちらですか。(単数回答)

住まいの地域について、「校区」を「地区」ごとに集計したところ、「鵜沼地区」が39.3%と最も高く、次いで「那加地区」が23.5%、「蘇原地区」が21.2%となっています。

性別について、男女ともに「鵜沼地区」が最も高くなっています。

年齢別について、全年代で「鵜沼地区」が最も高く、約4割を占めています。



※「校区」から「地区」への集約については、2. 調査の概要参照

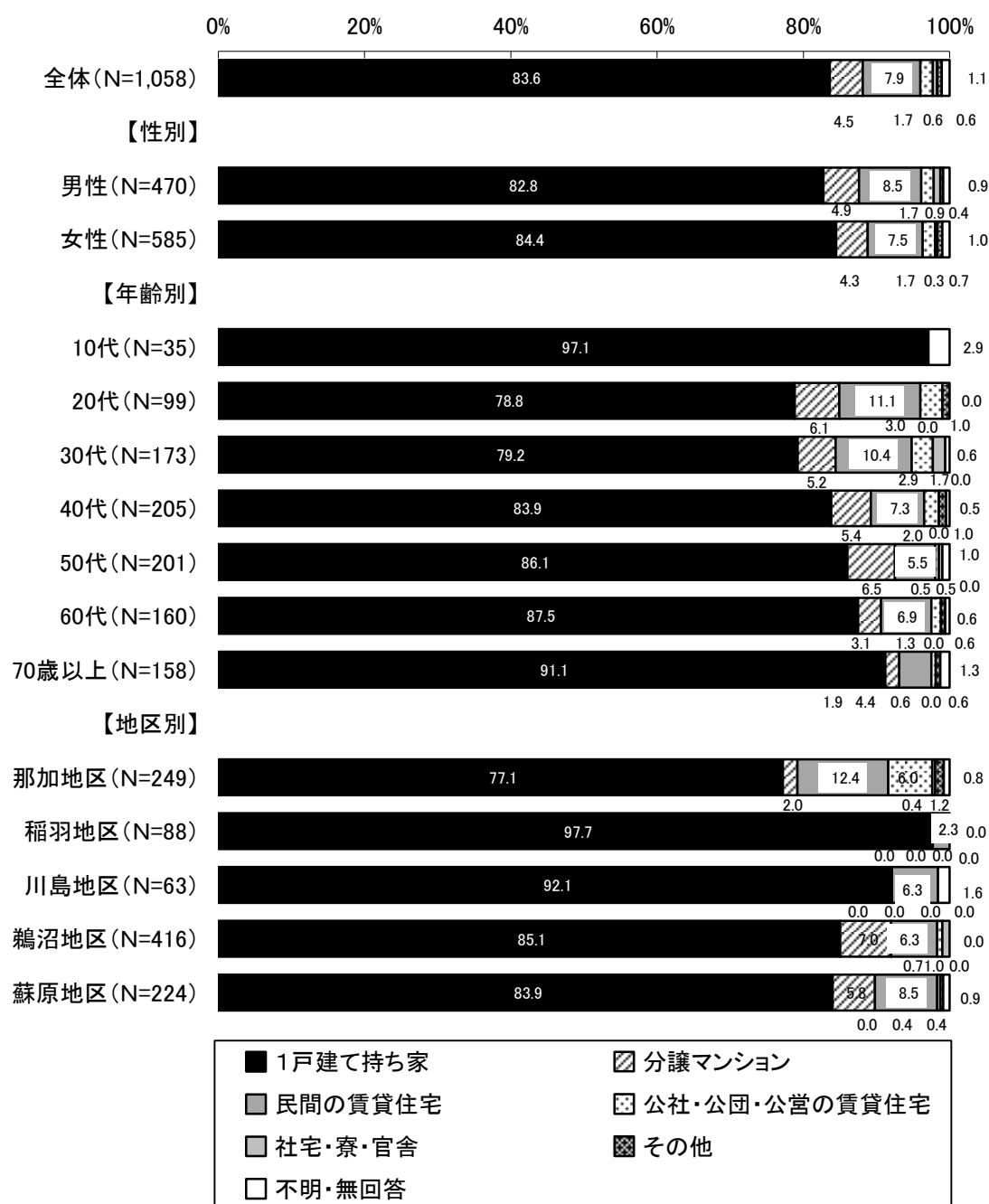
問6 あなたがお住まいの住居はどのような形態ですか。(単数回答)

住居形態について、「1戸建て持ち家」が83.6%と最も高くなっています。

性別について、男女ともに「1戸建て持ち家」が最も高くなっています。

年齢別について、全年代で「1戸建て持ち家」が最も高く、特に、10代と70歳以上は9割以上と高くなっています。

地区別について、全地区で「1戸建て持ち家」が最も高くなっています。



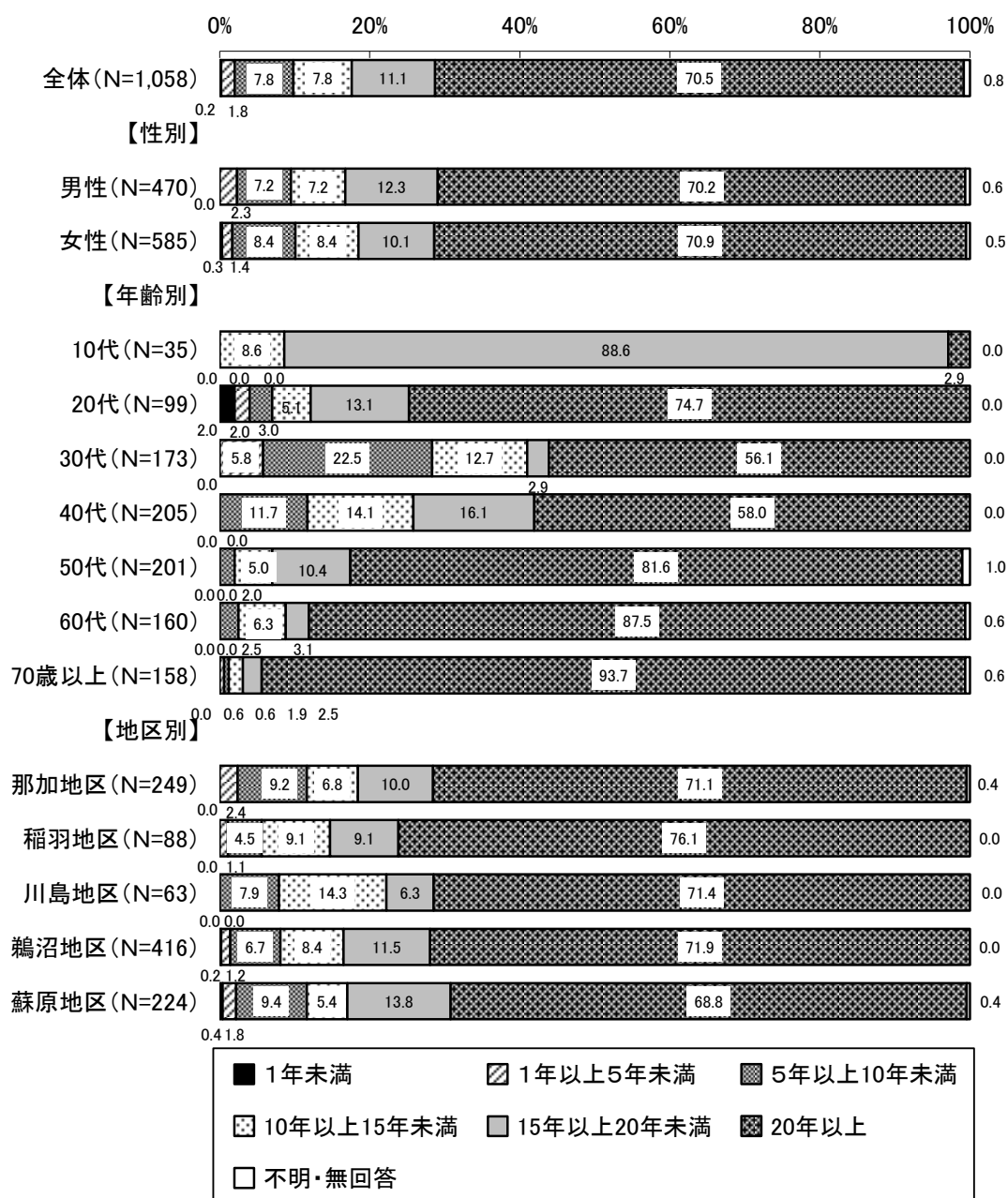
問7 あなたの各務原市での通算居住年数をお答えください。(単数回答)

居住年数について、「20 年以上」が 70.5%と最も高く、次いで「15 年以上 20 年未満」が 11.1%となっています。

性別について、男女ともに「20 年以上」が最も高くなっています。

年齢別について、20 歳以上は「20 年以上」が最も高くなっています。特に、50 歳以上は「20 年以上」が約 8 割から 9 割と高くなっています。

地区別について、「20 年以上」は稲羽地区が最も高くなっています。



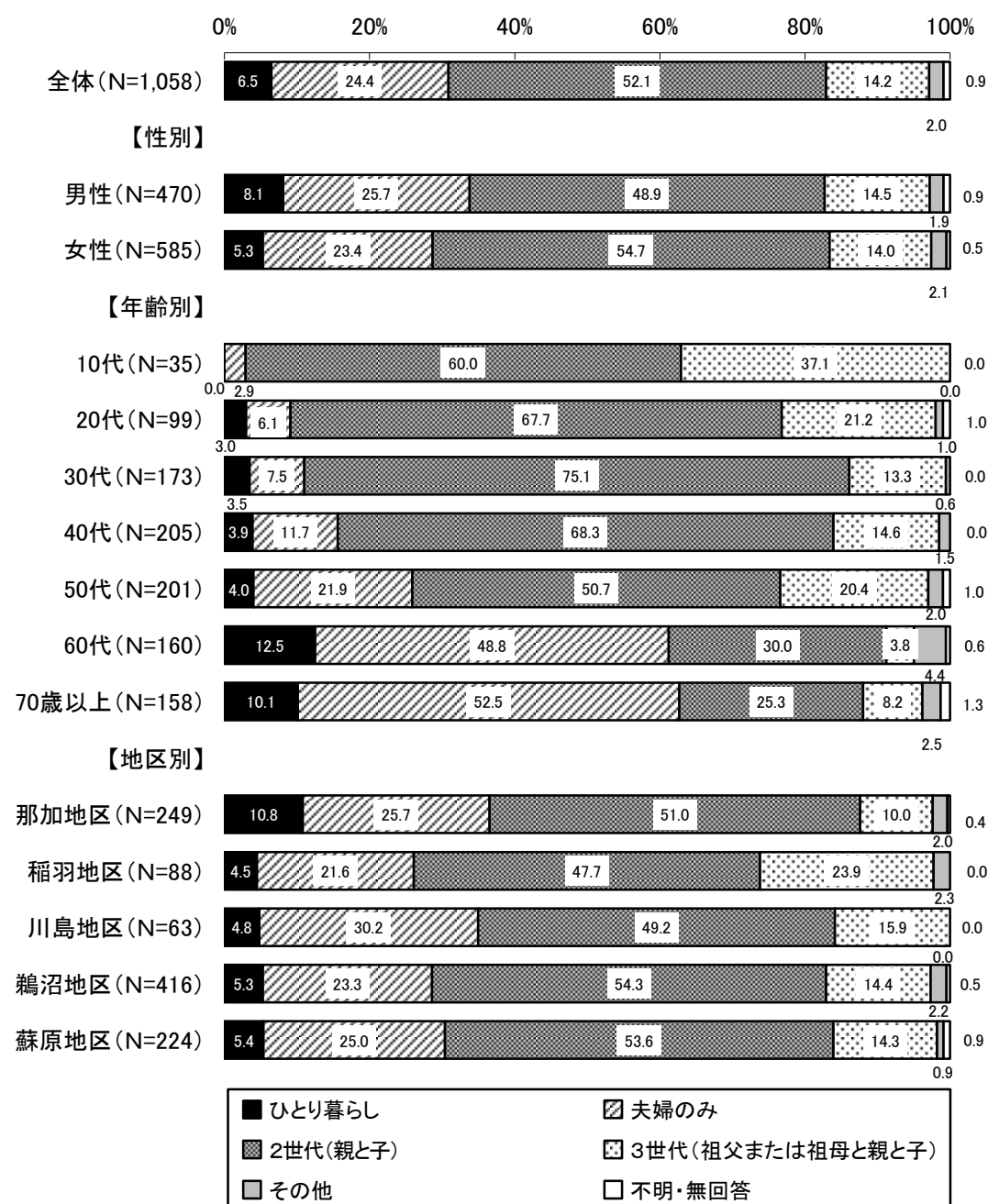
問8 あなたの世帯はどのような家族構成ですか。(単数回答)

家族構成について、「2世代（親と子）」が52.1%と最も高く、次いで「夫婦のみ」が24.4%、「3世代（祖父または祖母と親と子）」が14.2%となっています。

性別について、男女ともに「2世代（親と子）」が最も高くなっています。

年齢別について、10代から50代は「2世代（親と子）」が最も高くなっています。また、10代は「3世代（祖父または祖母と親と子）」が3割以上、60代と70歳以上は「夫婦のみ」が約5割と高くなっています。

地区別について、那加地区は「ひとり暮らし」が他地区と比べ高く、稲羽地区は「3世代（祖父または祖母と親と子）」が他地区と比べ高くなっています。



2. わたしたちのまち各務原市について

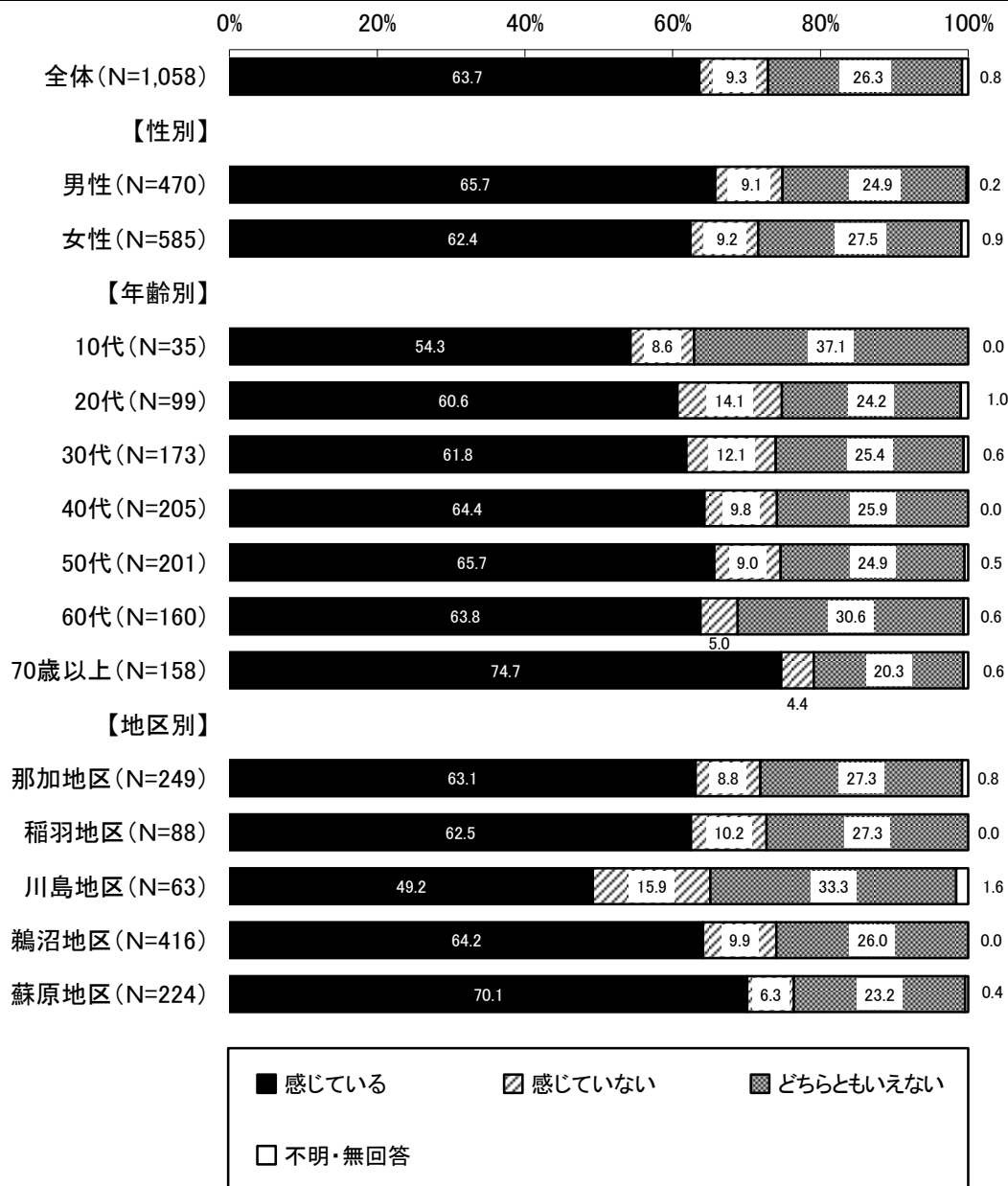
問9 各務原市に「自分のまち」といった愛着、親しみを感じますか。(単数回答)

各務原市に対する愛着、親しみについて、「感じている」が63.7%で、「どちらともいえない」が26.3%となっています。

性別について、男女ともに「感じている」が最も高くなっています。

年齢別について、年齢が上がるにつれ「感じている」が増加傾向にあり、70歳以上は「感じている」が74.7%と最も高くなっています。

地区別について、蘇原地区の「感じている」が70.1%と最も高く、川島地区が49.2%と最も低くなっています。



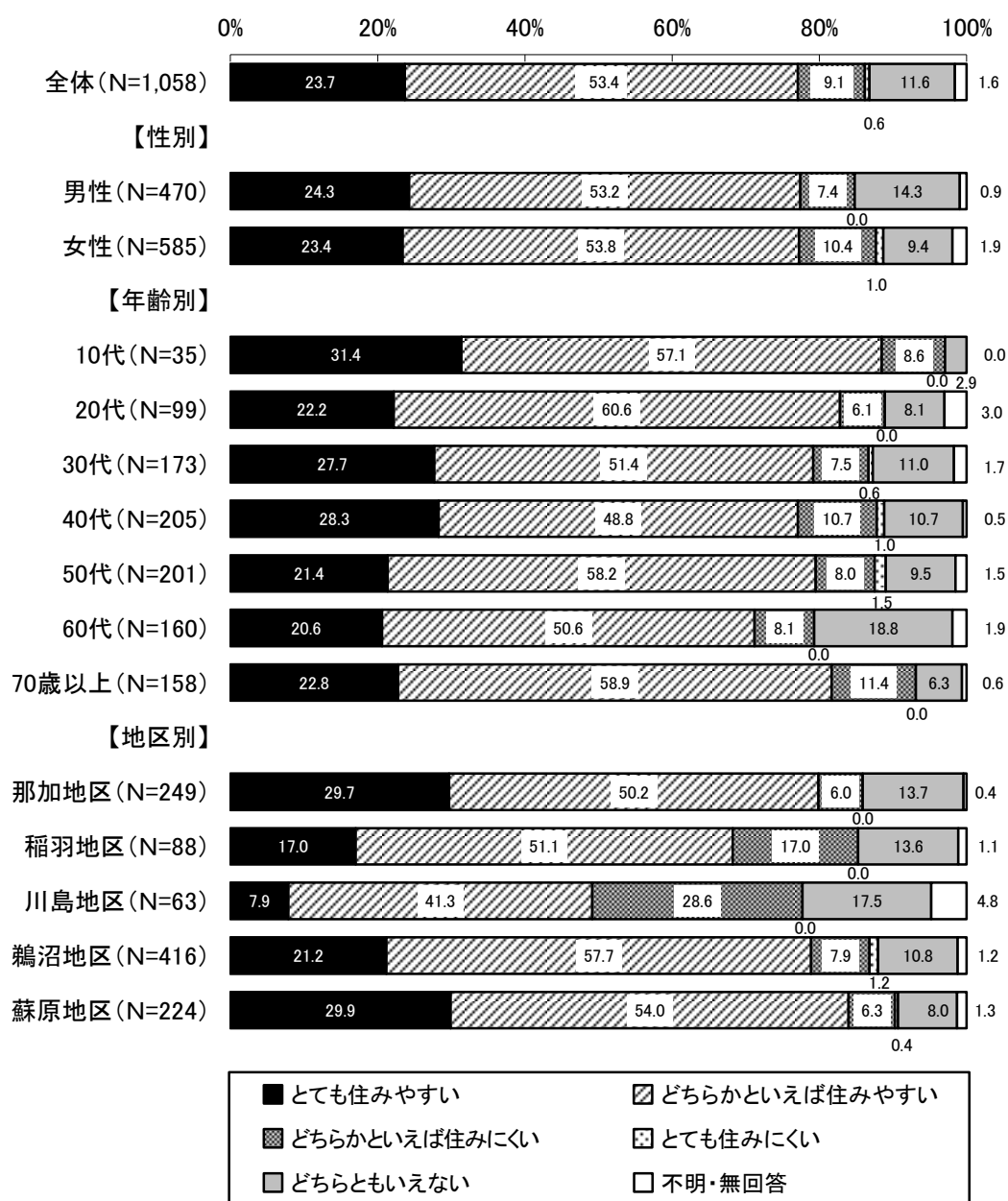
問 10 あなたは、各務原市の住みやすさについてどのように感じますか。(単数回答)

各務原市の住みやすさについて、「どちらかといえば住みやすい」が 53.4%で最も高くなっています。また、「とても住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」を合わせた『住みやすい』が 77.1%となっています。

性別について、男女ともに「どちらかといえば住みやすい」が最も高くなっています。

年齢別について、全年代で「どちらかといえば住みやすい」が最も高くなっています。また、10代、30代、40代は「とても住みやすい」が約3割とやや高くなっています。

地区別について、全地区で「どちらかといえば住みやすい」が最も高くなっています。また、那加地区、蘇原地区は「とても住みやすい」が約3割とやや高くなっています。



＜問10で「1. とても住みやすい」または「2. どちらかといえば住みやすい」と回答した方におたずねします。＞

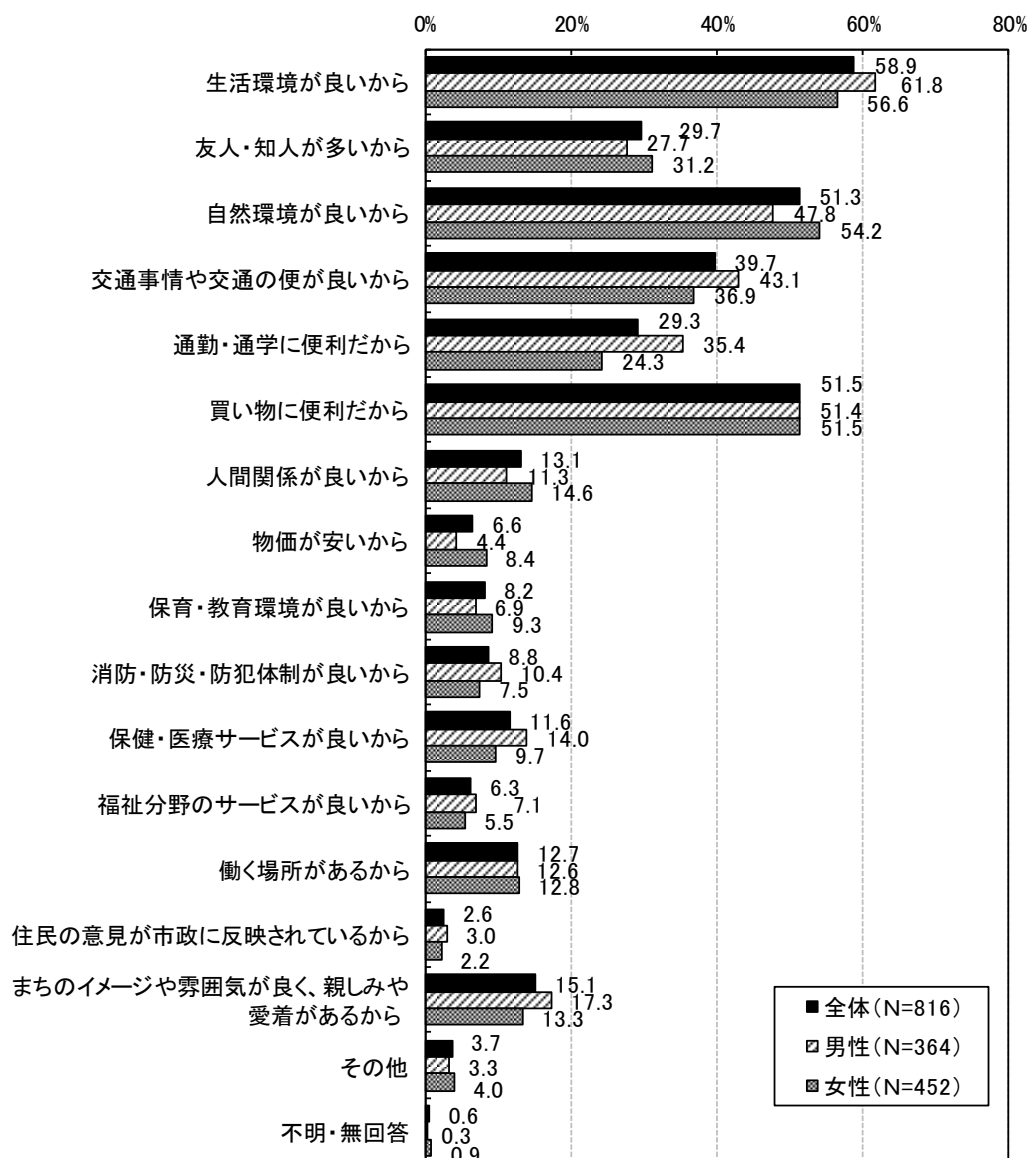
問11 住みやすいと思われる理由は何ですか。(複数回答)

各務原市の住みやすさの理由について、「生活環境が良いから」が58.9%と最も高く、次いで「買い物に便利だから」が51.5%、「自然環境が良いから」が51.3%となっています。

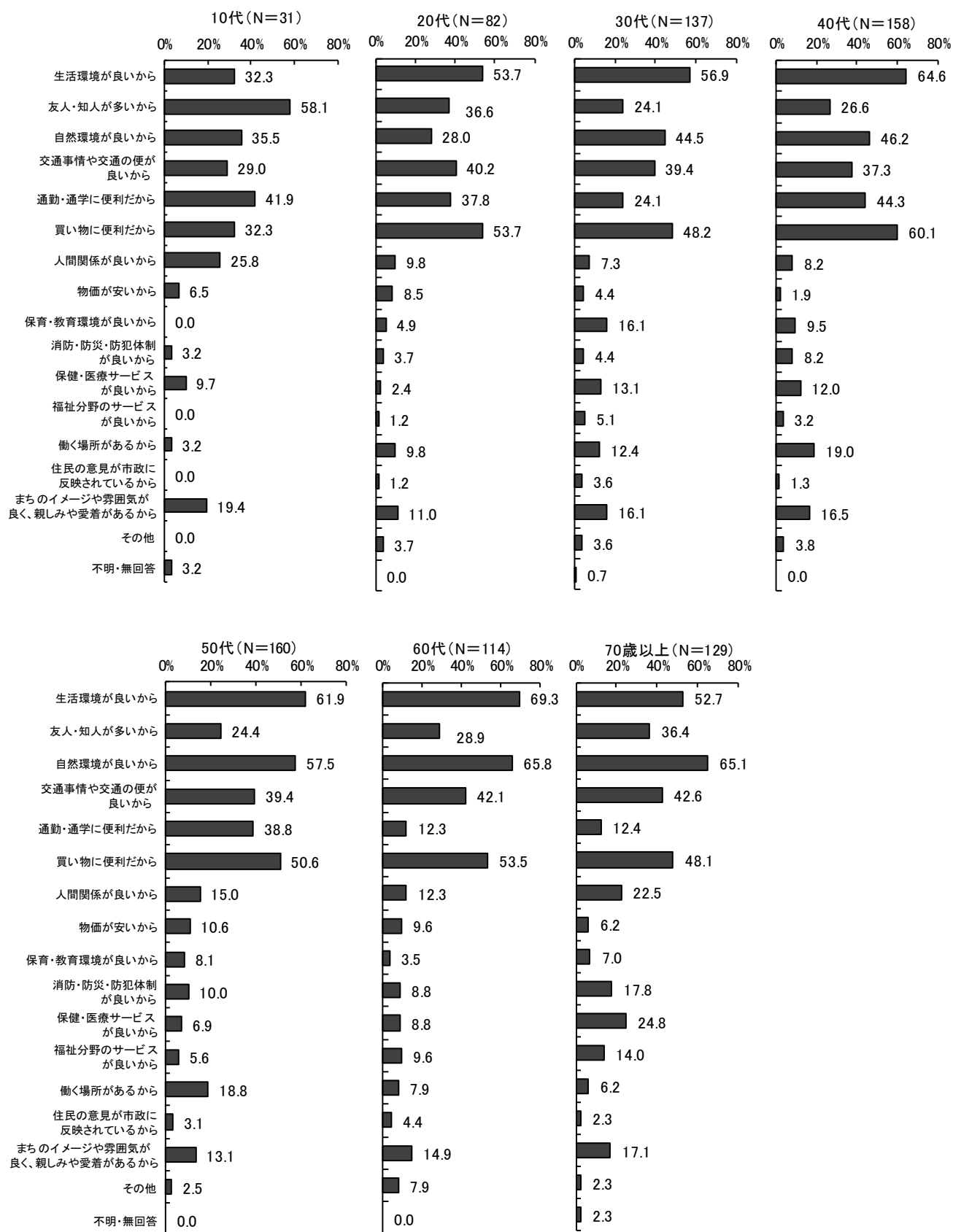
性別について、男女ともに「生活環境が良いから」が最も高くなっています。

年齢別について、10代は「友人・知人が多いから」が、20代から60代は「生活環境が良いから」が、70歳以上は「自然環境が良いから」が最も高くなっています。20歳以上で「買い物に便利だから」も約5割から6割と高くなっています。

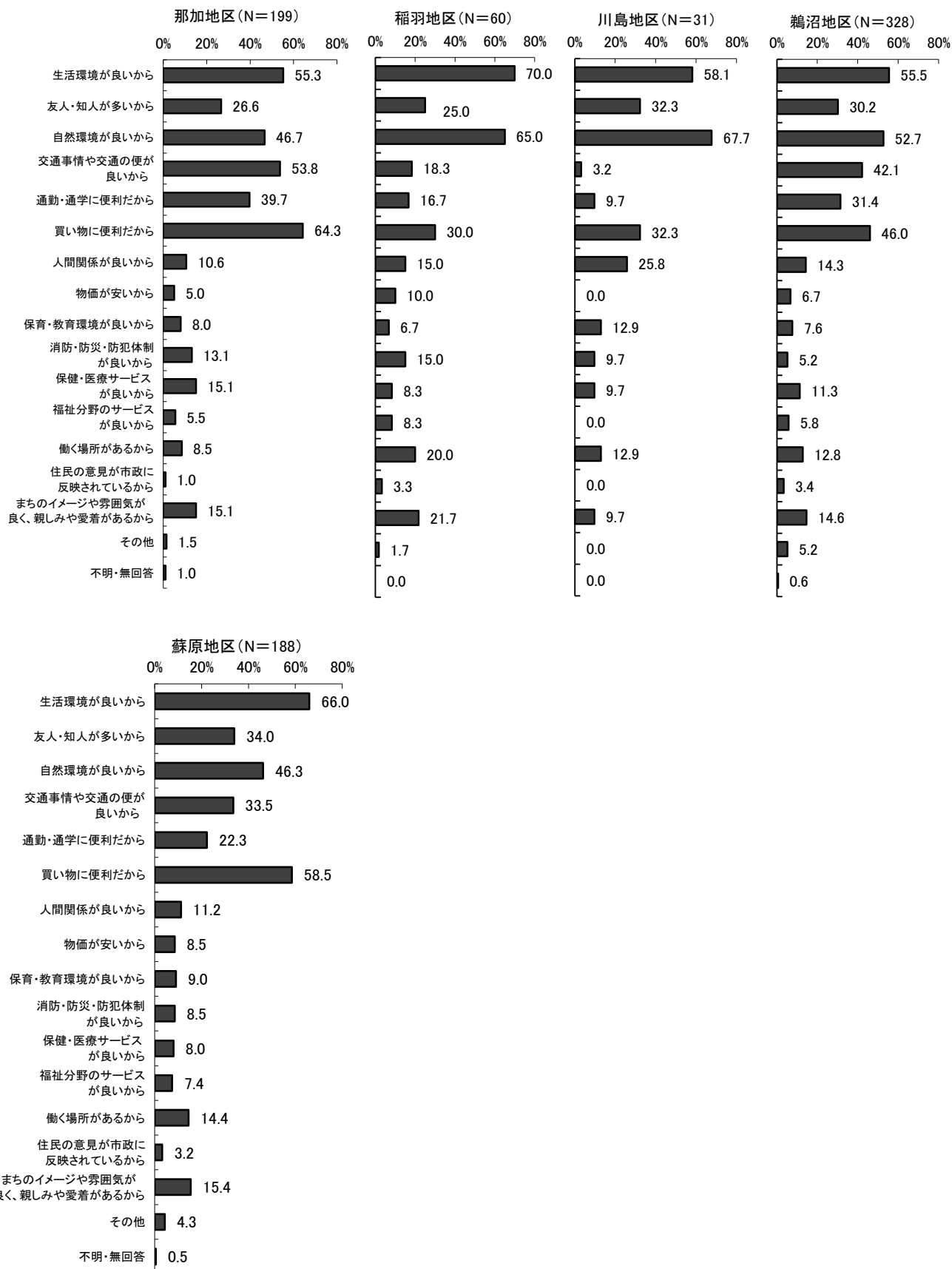
地区別について、那加地区、蘇原地区では「生活環境が良いから」「買い物に便利だから」の割合が高く、稲羽地区、川島地区、鵜沼地区では「生活環境が良いから」「自然環境が良いから」の割合が高くなっています。



【年齢別】



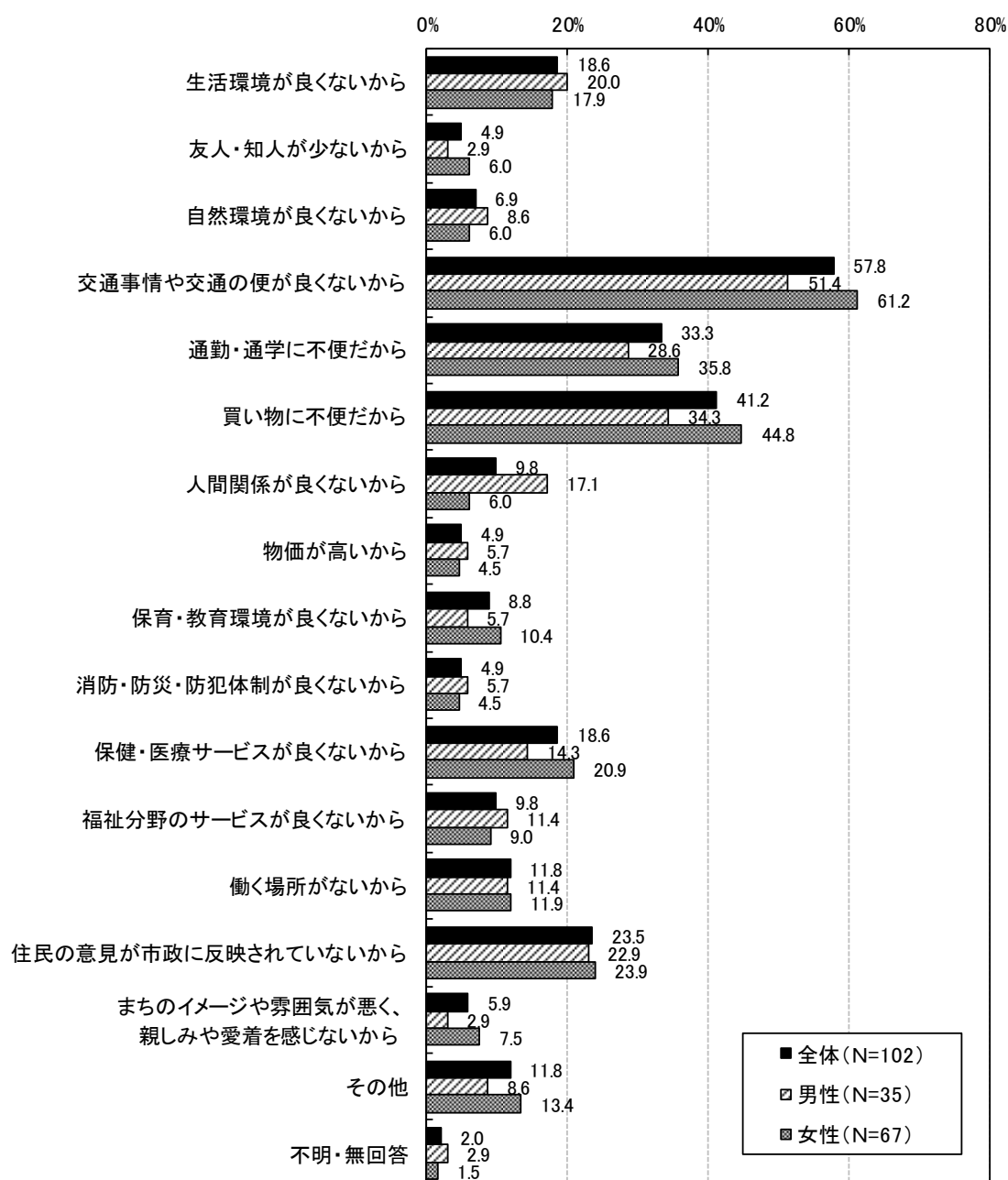
【地区別】



＜問10で「3. どちらかといえば住みにくい」または「4. とても住みにくい」と回答した方におたずねします。＞
 問12 住みにくいと思われる理由は何ですか。(複数回答)

住みにくいと思われる理由について、「交通事情や交通の便が良くないから」が57.8%で最も高く、次いで「買い物に不便だから」が41.2%、「通勤・通学に不便だから」が33.3%となっています。

性別について、男女ともに「交通事情や交通の便が良くないから」が最も高くなっています。



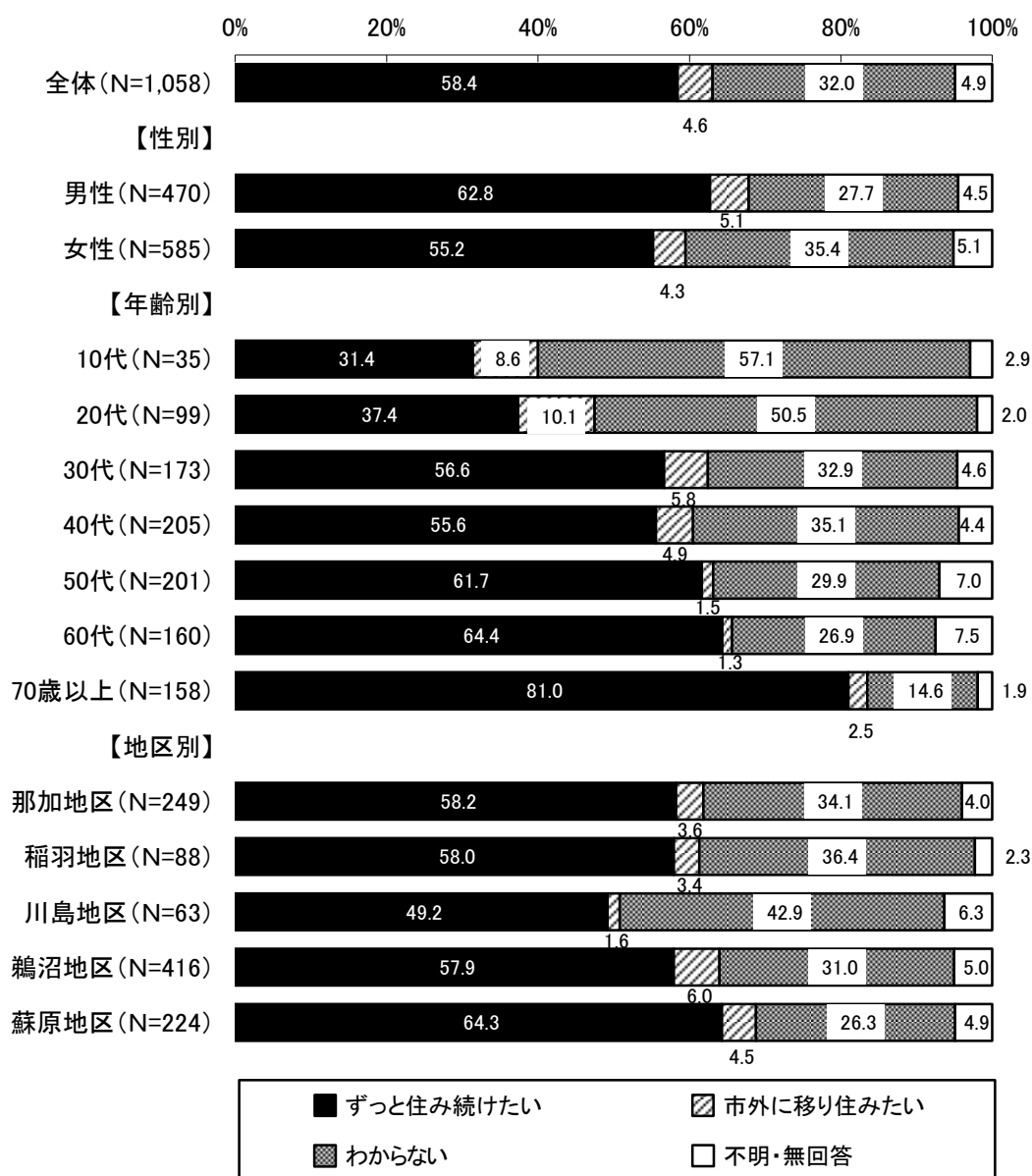
問 13 あなたは、これからも各務原市に住み続けたいと思いますか。(単数回答)

各務原市に住み続けたいと思うかについて、「ずっと住み続けたい」が58.4%と最も高くなっています。

性別について、男女ともに「ずっと住み続けたい」が最も高くなっています。

年齢別について、70歳以上は「ずっと住み続けたい」が81.0%と最も高く、年齢が下がるにつれ減少しています。

地区別について、全地区で「ずっと住み続けたい」が最も高くなっています。



自由記述のため別途「その他・自由意見集」掲載

問 14 あなたが、各務原市で最も誇れると思うものは何ですか。(自然、文化、場所、活動など、自由に記入)

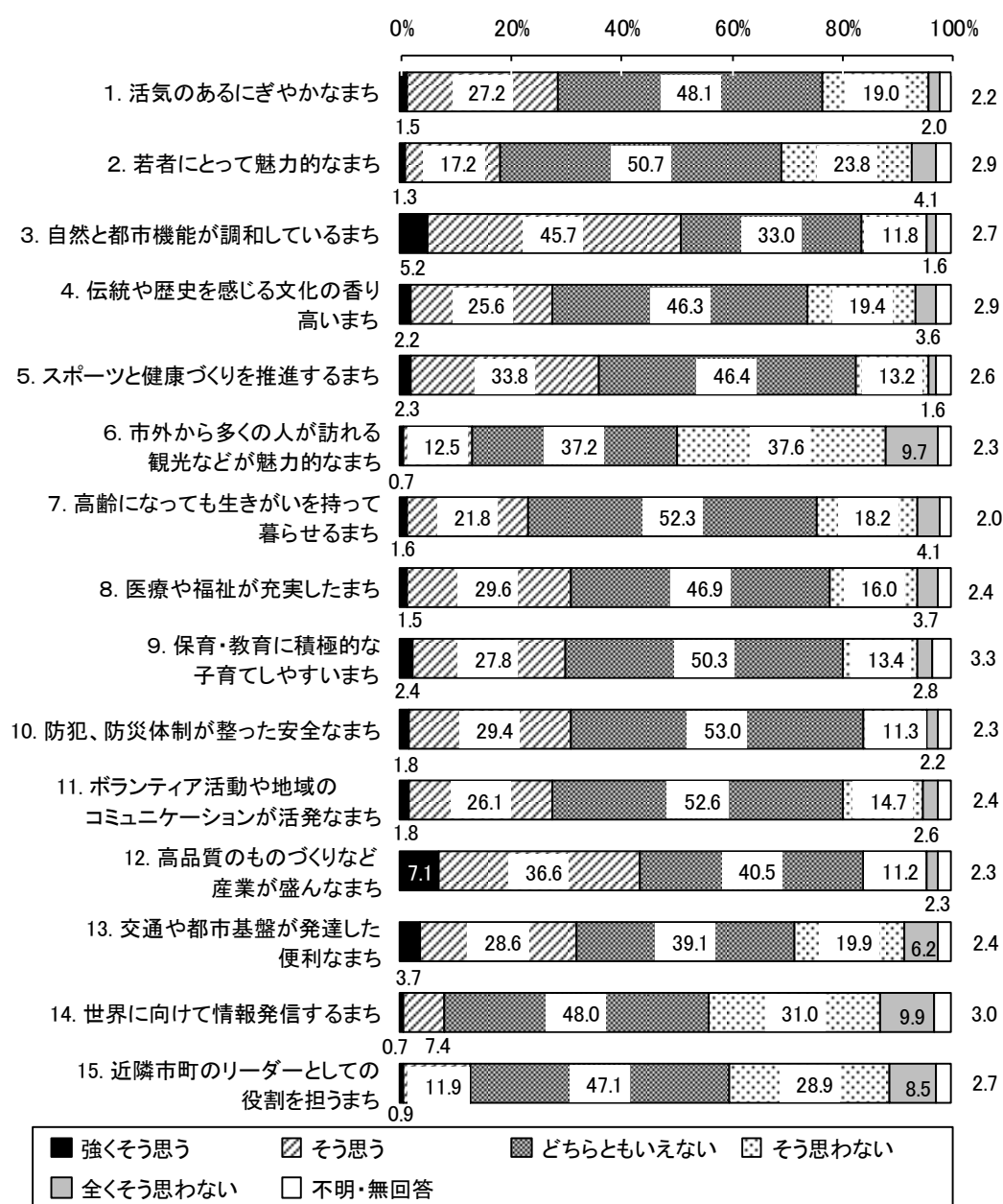
問 15 あなたは、各務原市にどのようなイメージを持っていますか。(それぞれ単数回答)

【全体比較】

各務原市のイメージについて、「3. 自然と都市機能が調和しているまち」は「強く思う」と「そう思う」を合わせた『そう思う』が 50.9%と最も高くなっています。

また、「6. 市外から多くの人を訪れる観光などが魅力的なまち」は「そう思わない」と「全くそう思わない」を合わせた『そう思わない』が 47.3%と最も高くなっています。

(N=1,058)



【属性別クロス】

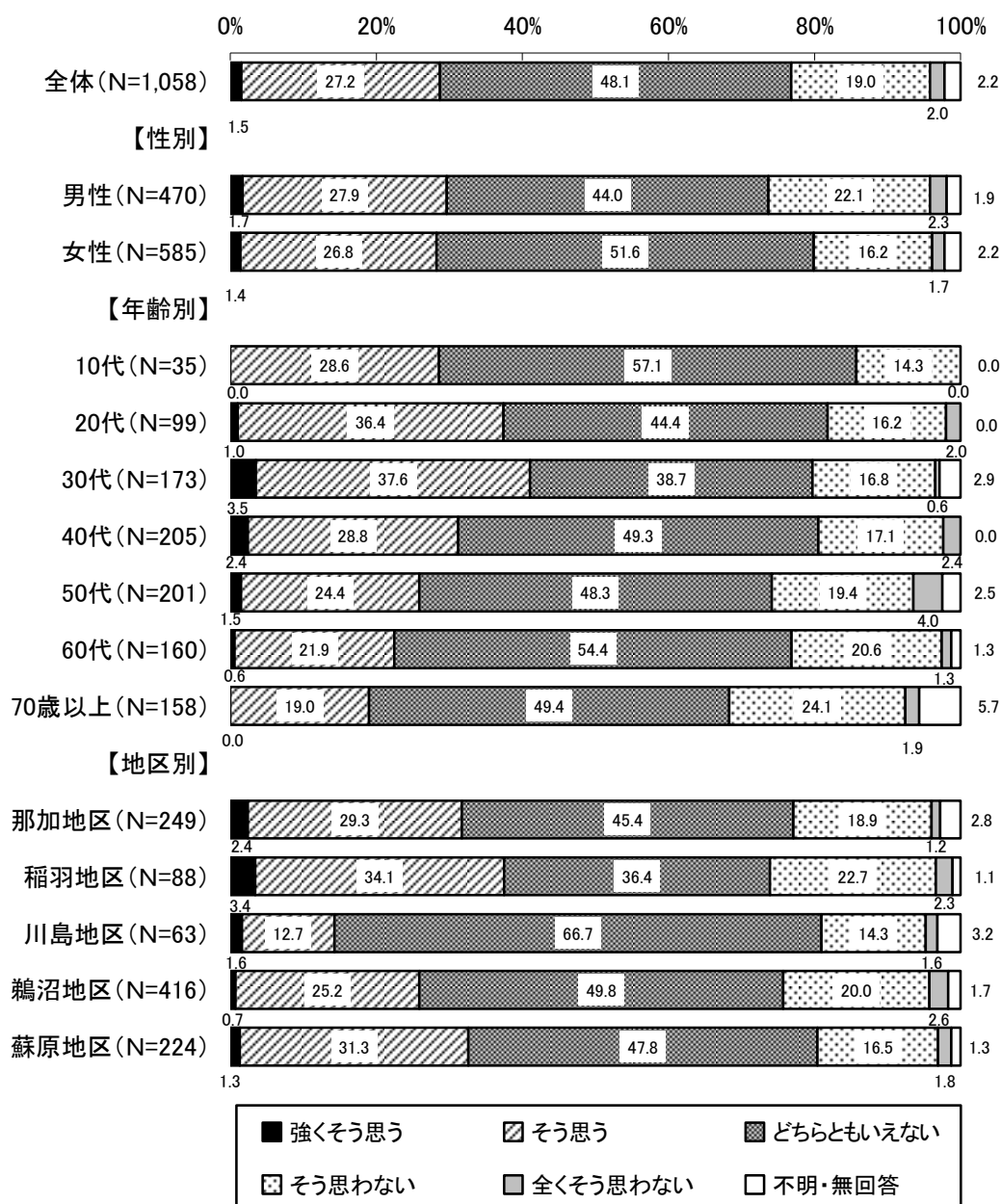
1. 活気のあるにぎやかなまち

「活気のあるにぎやかなまち」のイメージについて、「どちらともいえない」が48.1%と最も高く、次いで「そう思う」が27.2%となっています。

性別について、男女ともに「どちらともいえない」が最も高くなっています。

年齢別について、全年代で「どちらともいえない」が最も高くなっています。また、20代と30代は「そう思う」がやや高くなっています。

地区別について、全地区で「どちらともいえない」が最も高くなっています。



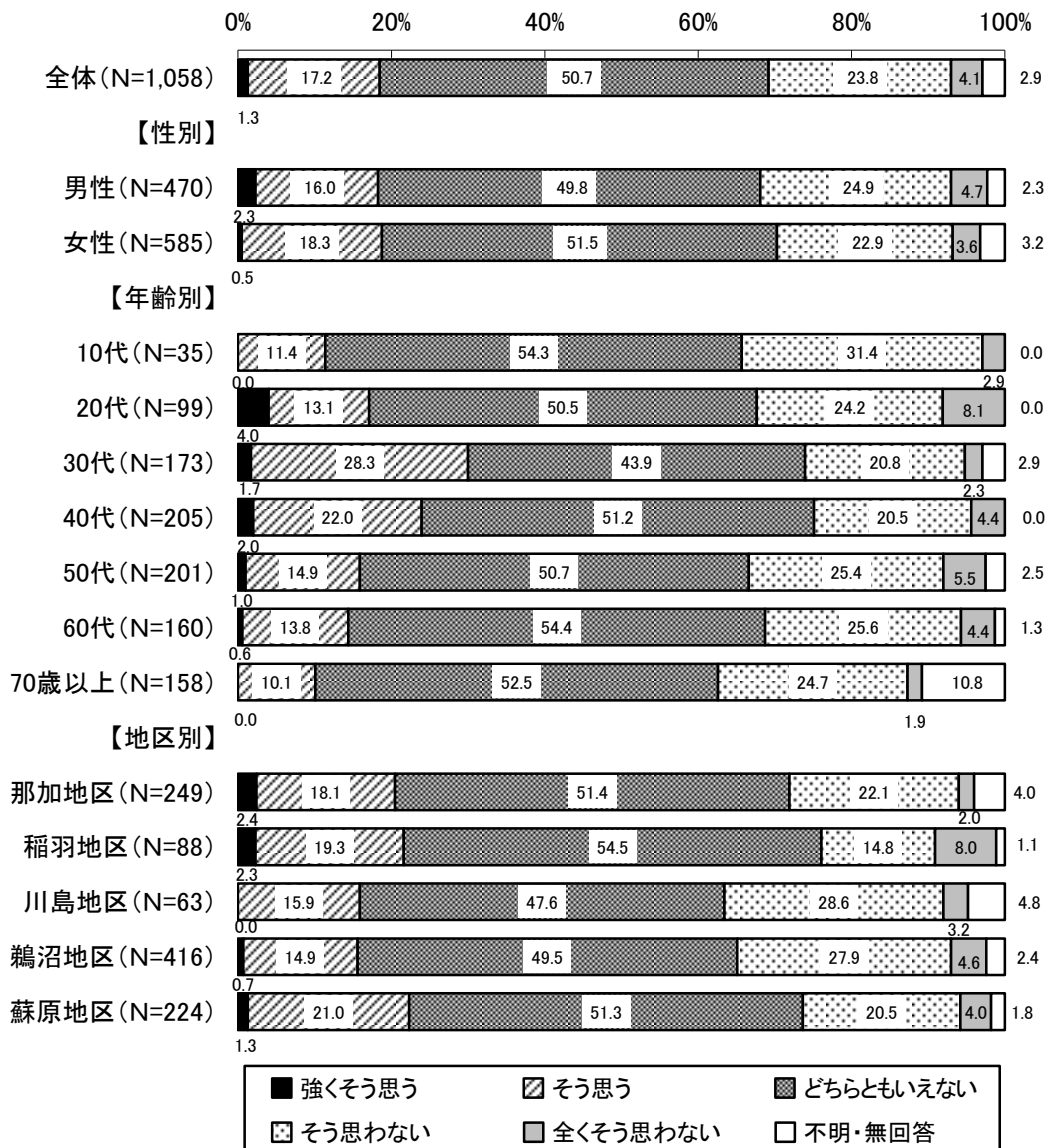
2. 若者にとって魅力的なまち

「若者に魅力的なまち」のイメージについて、「どちらともいえない」が50.7%と最も高く、次いで「そう思わない」が23.8%となっています。

性別について、男女ともに「どちらともいえない」が最も高くなっています。

年齢別について、全年代で「どちらともいえない」が最も高くなっています。また、10代は「そう思わない」が、30代は「そう思う」がやや高くなっています。

地区別について、全地区で「どちらともいえない」が最も高くなっています。



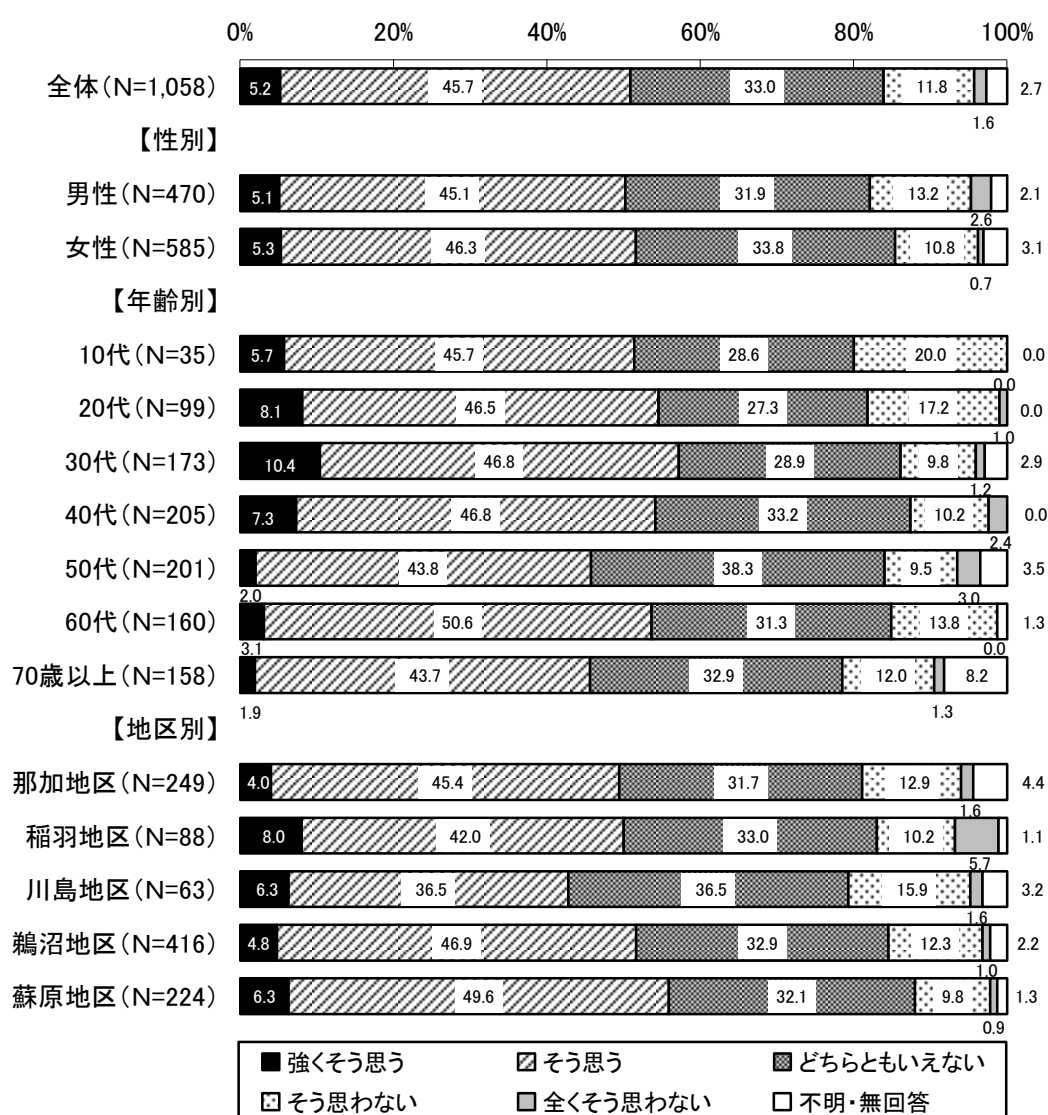
3. 自然と都市機能が調和しているまち

「自然と都市機能が調和しているまち」のイメージについて、「そう思う」が45.7%と最も高く、次いで「どちらともいえない」が33.0%となっています。

性別について、男女ともに「そう思う」が最も高くなっています。

年齢別について、全年代で「そう思う」が最も高くなっています。一方、10代と20代は「そう思わない」がやや高くなっています。

地区別について、那加地区、稲羽地区、鵜沼地区、蘇原地区で「そう思う」が最も高く、川島地区では「どちらともいえない」「そう思う」が同率となっています。



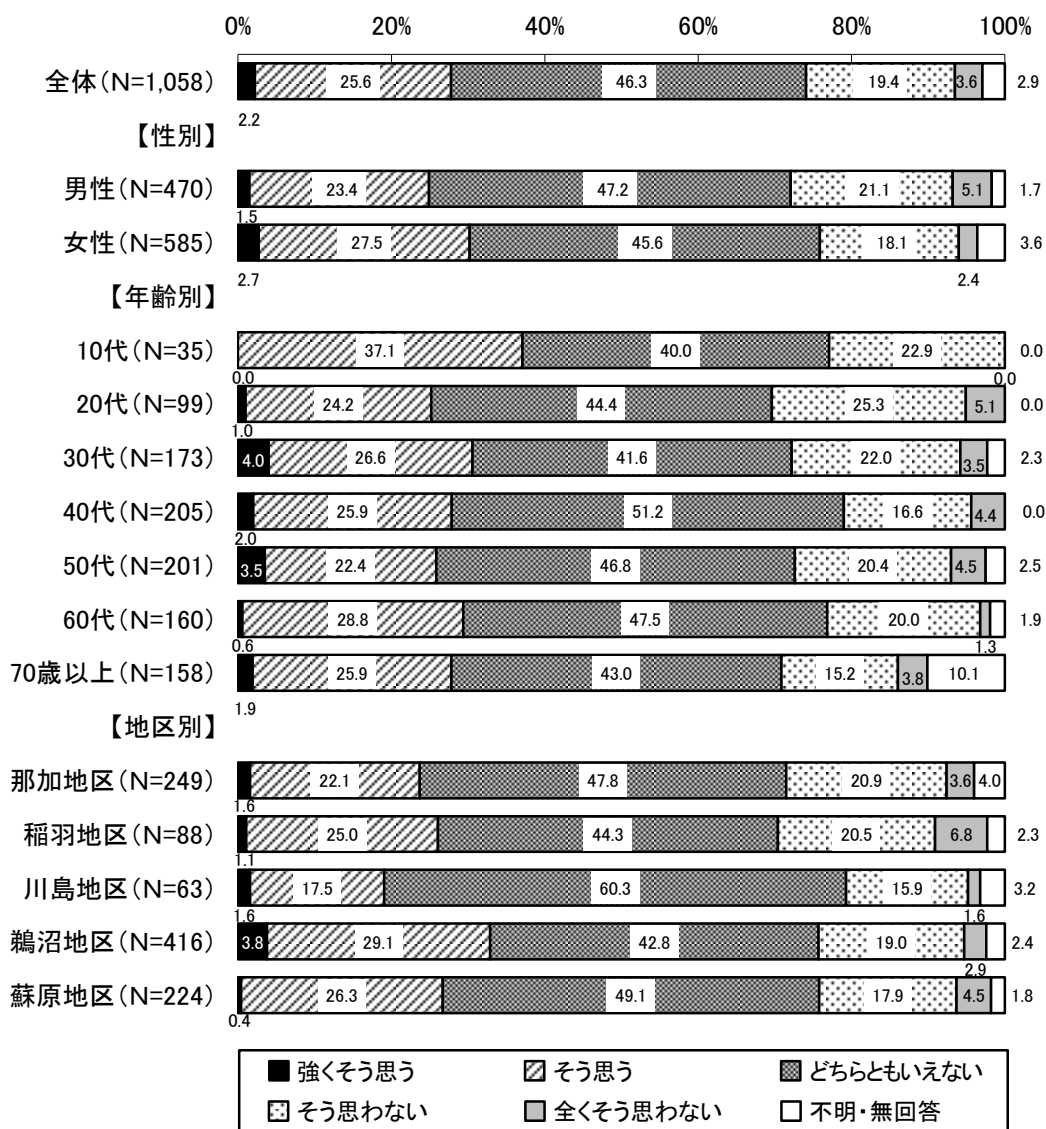
4. 伝統や歴史を感じる文化の香り高いまち

「伝統や歴史を感じる文化の香り高いまち」のイメージについて、「どちらともいえない」が46.3%と最も高く、次いで「そう思う」が25.6%となっています。

性別について、男女ともに「どちらともいえない」が最も高くなっています。

年齢別について、全年代で「どちらともいえない」が最も高くなっています。また、10代と60代は「そう思う」がやや高くなっています。

地区別について、全地区で「どちらともいえない」が最も高くなっています。



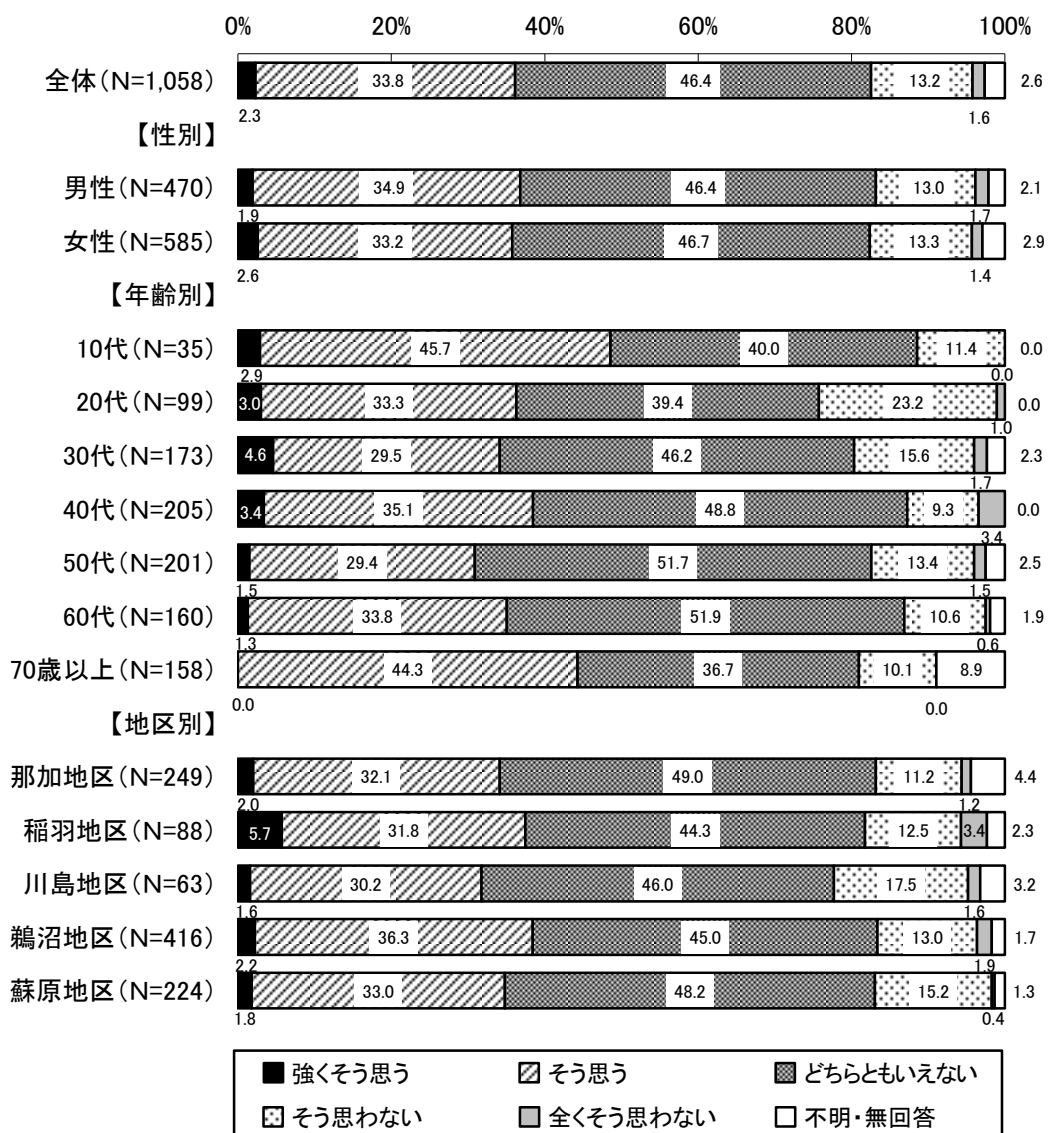
5. スポーツと健康づくりを推進するまち

「スポーツと健康づくりを推進するまち」のイメージについて、「どちらともいえない」が46.4%と最も高く、次いで「そう思う」が33.8%となっています。

性別について、男女ともに「どちらともいえない」が最も高くなっています。

年齢別について、10代と70歳以上は「そう思う」が最も高く、20代から60代までは「どちらともいえない」が最も高くなっています。

地区別について、全地区で「どちらともいえない」が最も高く、稲羽地区では「強くそう思う」が他地区と比べやや高くなっています。



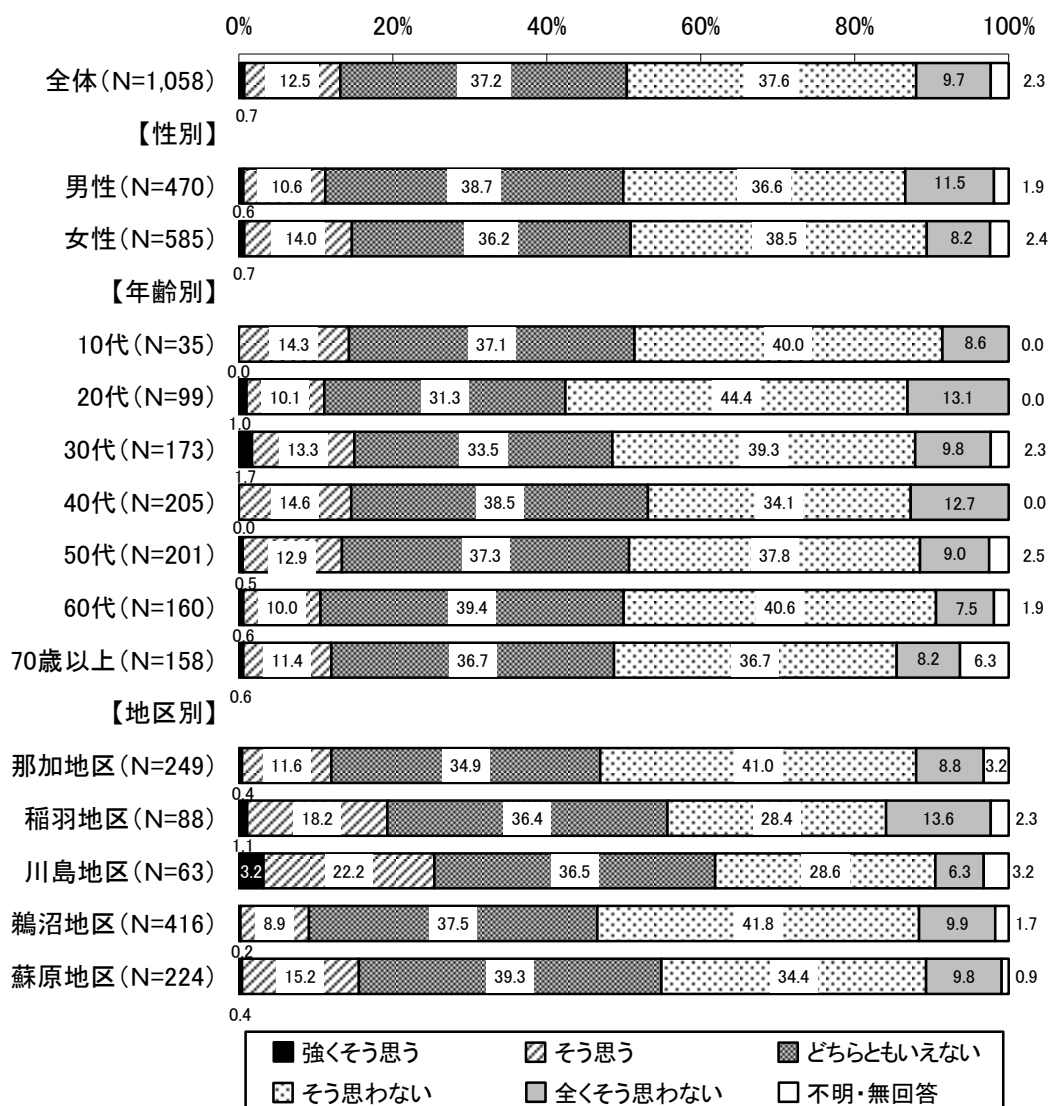
6. 市外から多くの人を訪れる観光などが魅力的なまち

「市外から多くの人を訪れる観光などが魅力的なまち」のイメージについて、「そう思わない」が37.6%と最も高く、次に「どちらともいえない」37.2%となっています。

性別について、男性は「どちらともいえない」が38.7%、女性は「そう思わない」が38.5%と最も高くなっています。

年齢別について、10代から30代までと50代、60代は「そう思わない」が最も高くなっています。また、40代は「どちらともいえない」が最も高くなっています。

地区別について、那加地区、鶴沼地区は「そう思わない」が最も高くなっています。



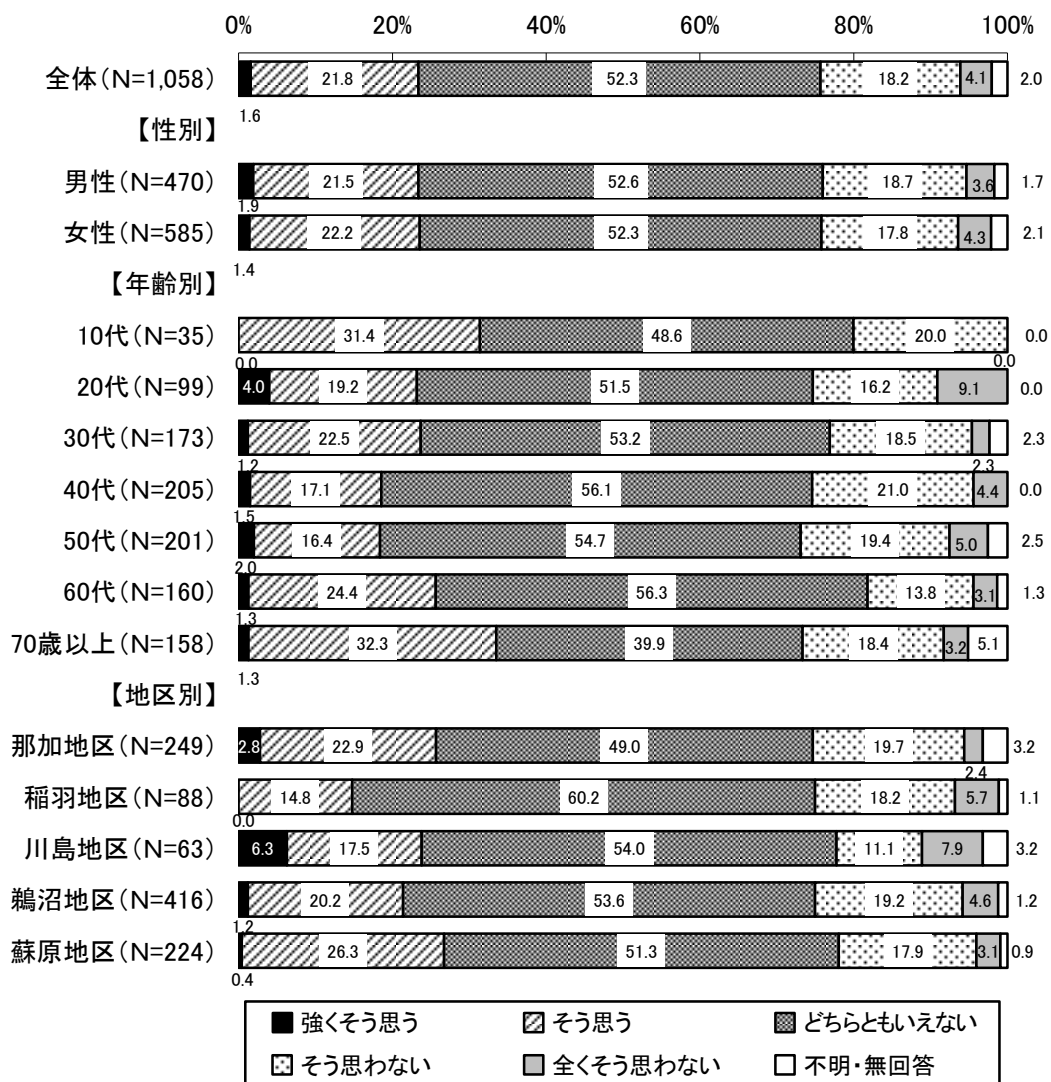
7. 高齢になっても生きがいを持って暮らせるまち

「高齢になっても生きがいを持って暮らせるまち」のイメージについて、「どちらともいえない」が52.3%と最も高く、次いで「そう思う」が21.8%となっています。

性別について、男女ともに「どちらともいえない」が最も高くなっています。

年齢別について、全年代で「どちらともいえない」が最も高くなっています。また、10代と70歳以上は「そう思う」がやや高くなっています。

地区別について、全地区で「どちらともいえない」が最も高くなっています。



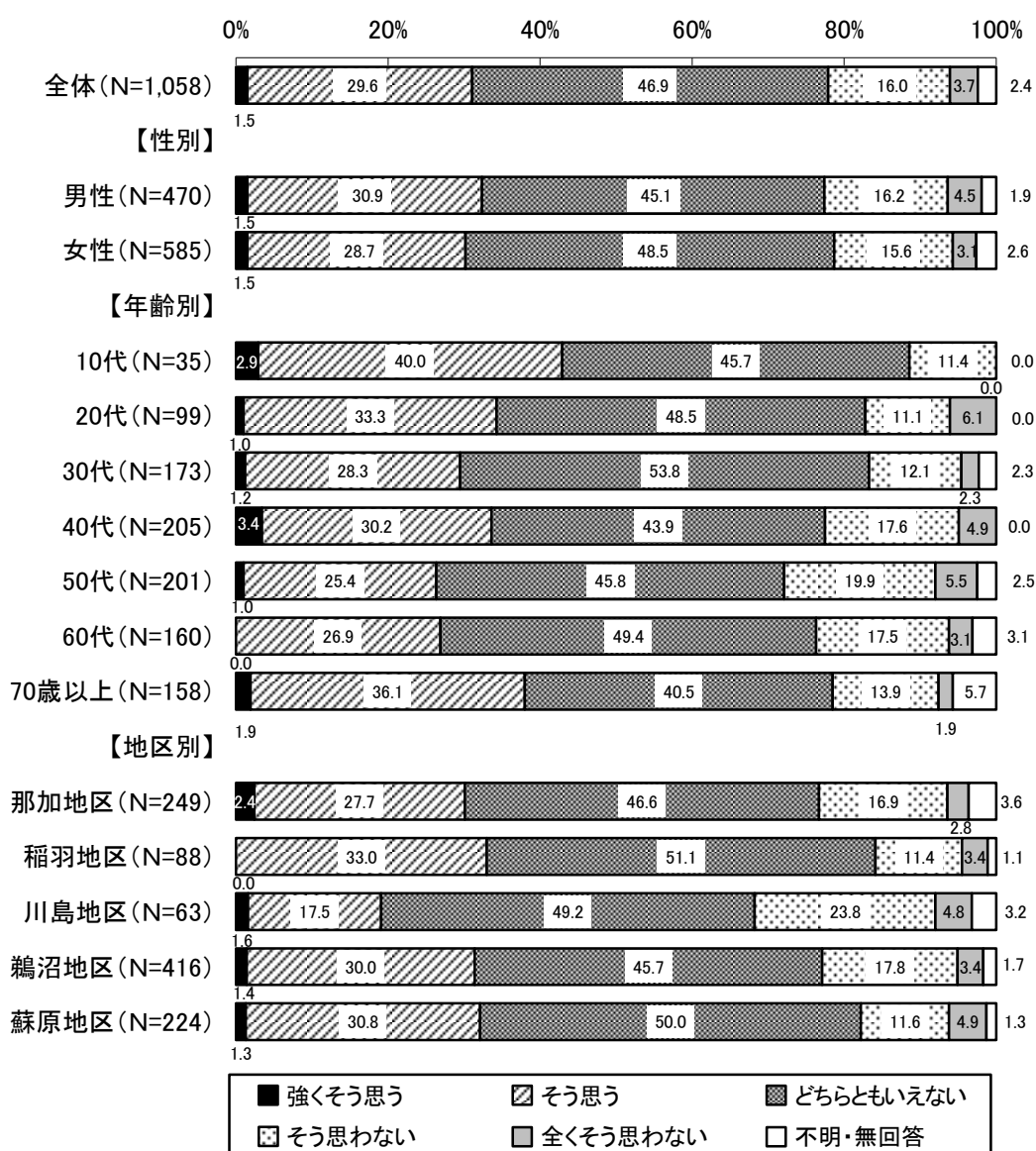
8. 医療や福祉が充実したまち

「医療や福祉が充実したまち」について、「どちらともいえない」が46.9%と最も高く、次いで「そう思う」が29.6%となっております。

性別について、男女ともに「どちらともいえない」が最も高くなっています。

年齢別について、全年代で「どちらともいえない」が最も高くなっています。また、10代と70歳以上で「そう思う」がやや高くなっています。

地区別について、全地区で「どちらともいえない」が最も高くなっています。また、川島地区で「そう思わない」が他地区と比べやや高くなっています。



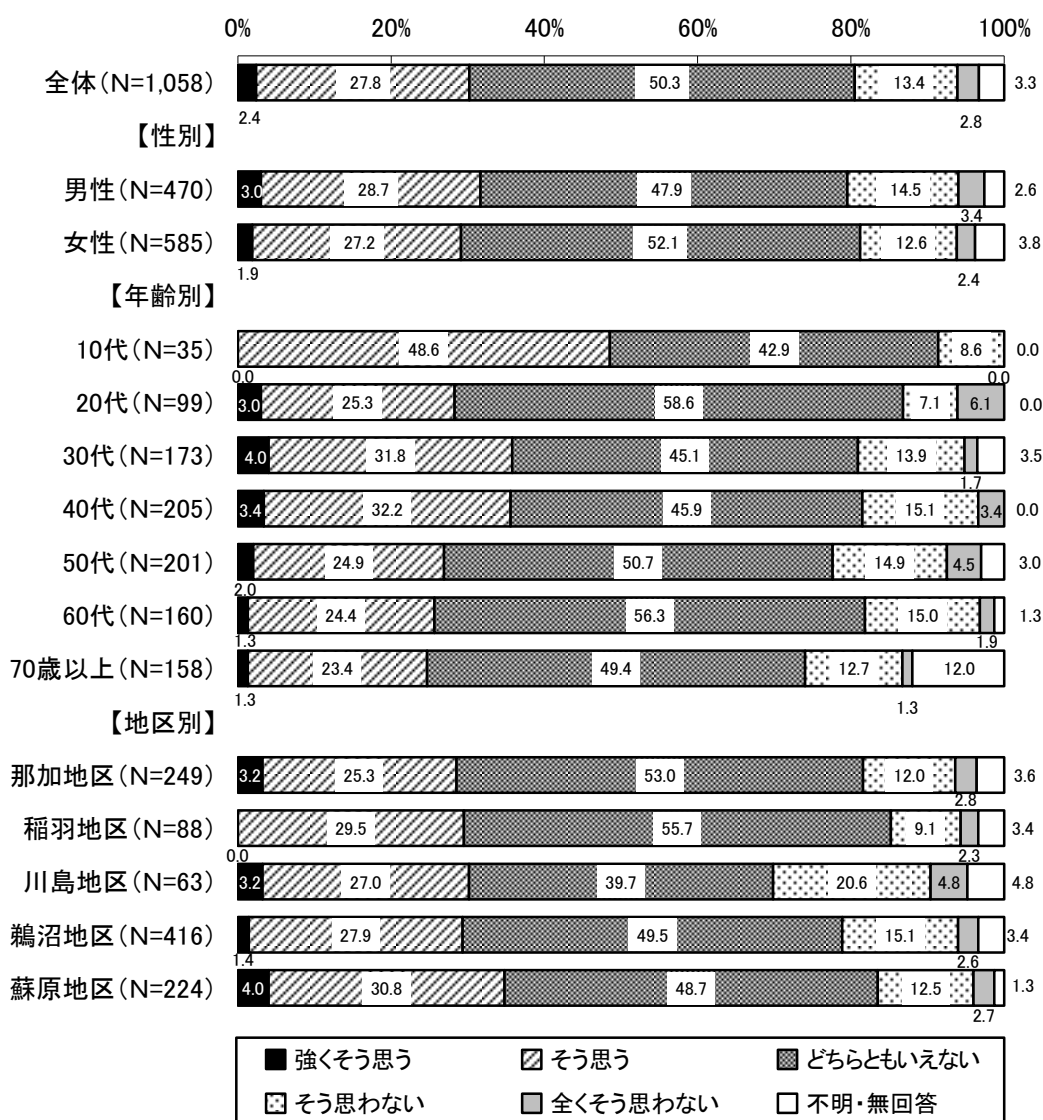
9. 保育・教育に積極的な子育てしやすいまち

「保育・教育に積極的な子育てしやすいまち」のイメージについて、「どちらともいえない」が50.3%と最も高く、次いで「そう思う」が27.8%となっています。

性別について、男女ともに「どちらともいえない」が最も高くなっています。

年齢別について、10代で「そう思う」が、20歳以上の各年代では「どちらともいえない」が最も高くなっています。

地区別について、全地区で「どちらともいえない」が最も高くなっています。



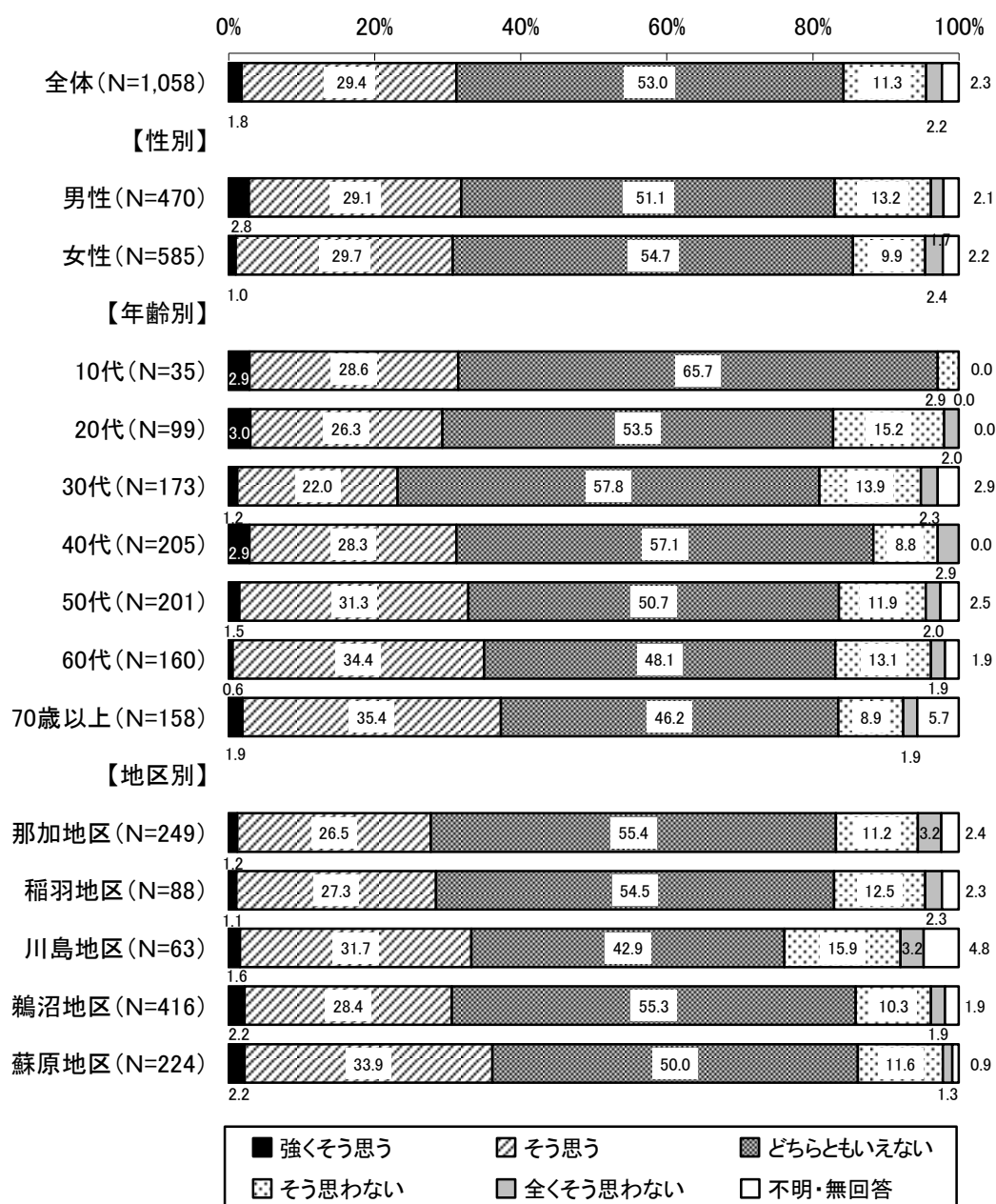
10. 防犯、防災体制が整った安全なまち

「防犯、防災体制が整った安全なまち」のイメージについて、「どちらともいえない」が53.0%と最も高く、次いで「そう思う」が29.4%となっています。

性別について、男女ともに「どちらともいえない」が最も高くなっています。

年齢別について、全年代で「どちらともいえない」が最も高くなっています。60歳以上の「そう思う」がやや高くなっています。

地区別について、全地区で「どちらともいえない」が最も高くなっています。



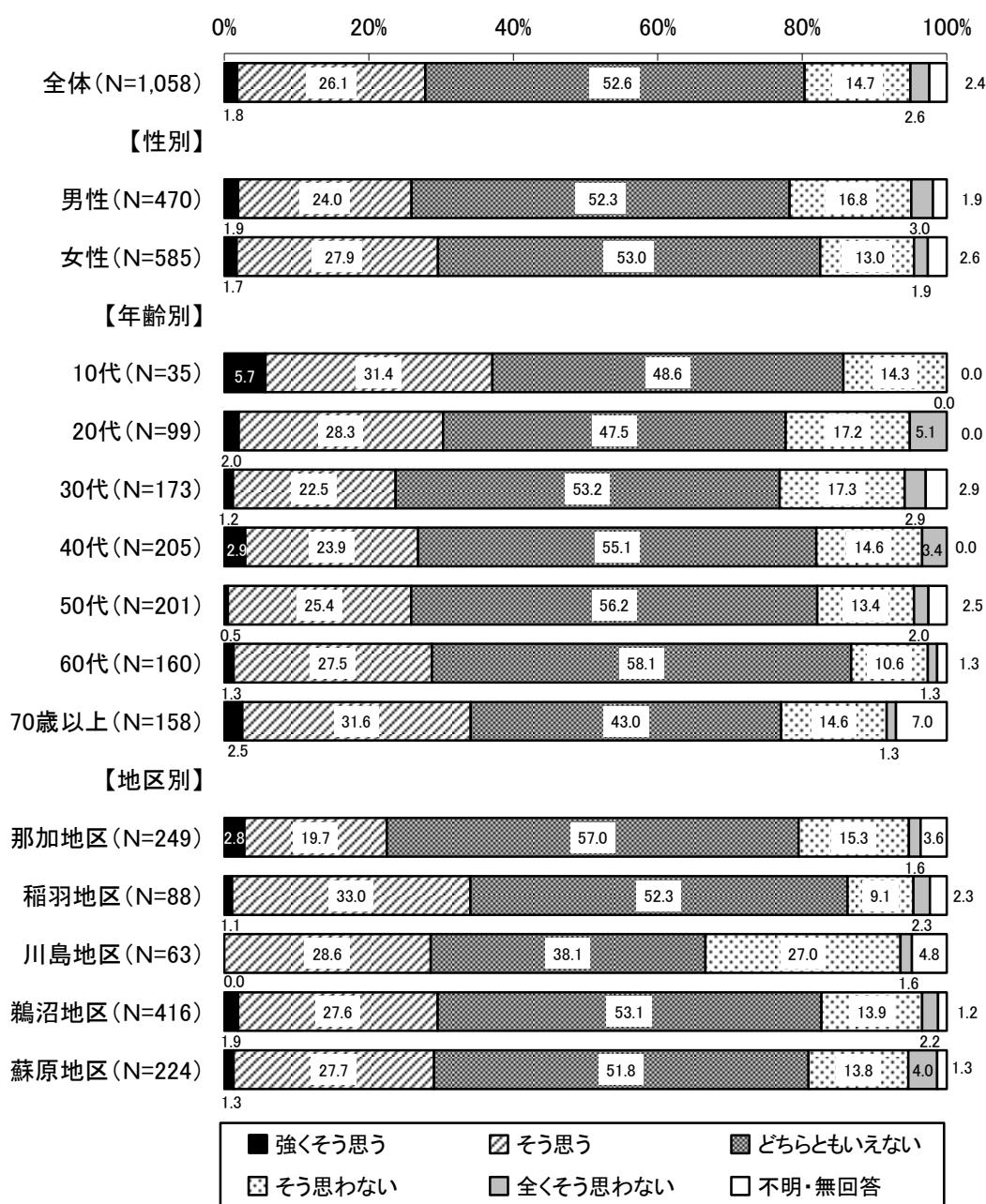
11. ボランティア活動や地域のコミュニケーションが活発なまち

「ボランティア活動や地域のコミュニケーションが活発なまち」のイメージについて、「どちらともいえない」が 52.6%と最も高く、次いで「そう思う」が 26.1%となっています。

性別について、男女ともに「どちらともいえない」が最も高くなっています。

年齢別について、全年代で「どちらともいえない」が最も高くなっています。また、20代と30代で「そう思わない」がやや高くなっています。

地区別について、全地区で「どちらともいえない」が最も高くなっています。



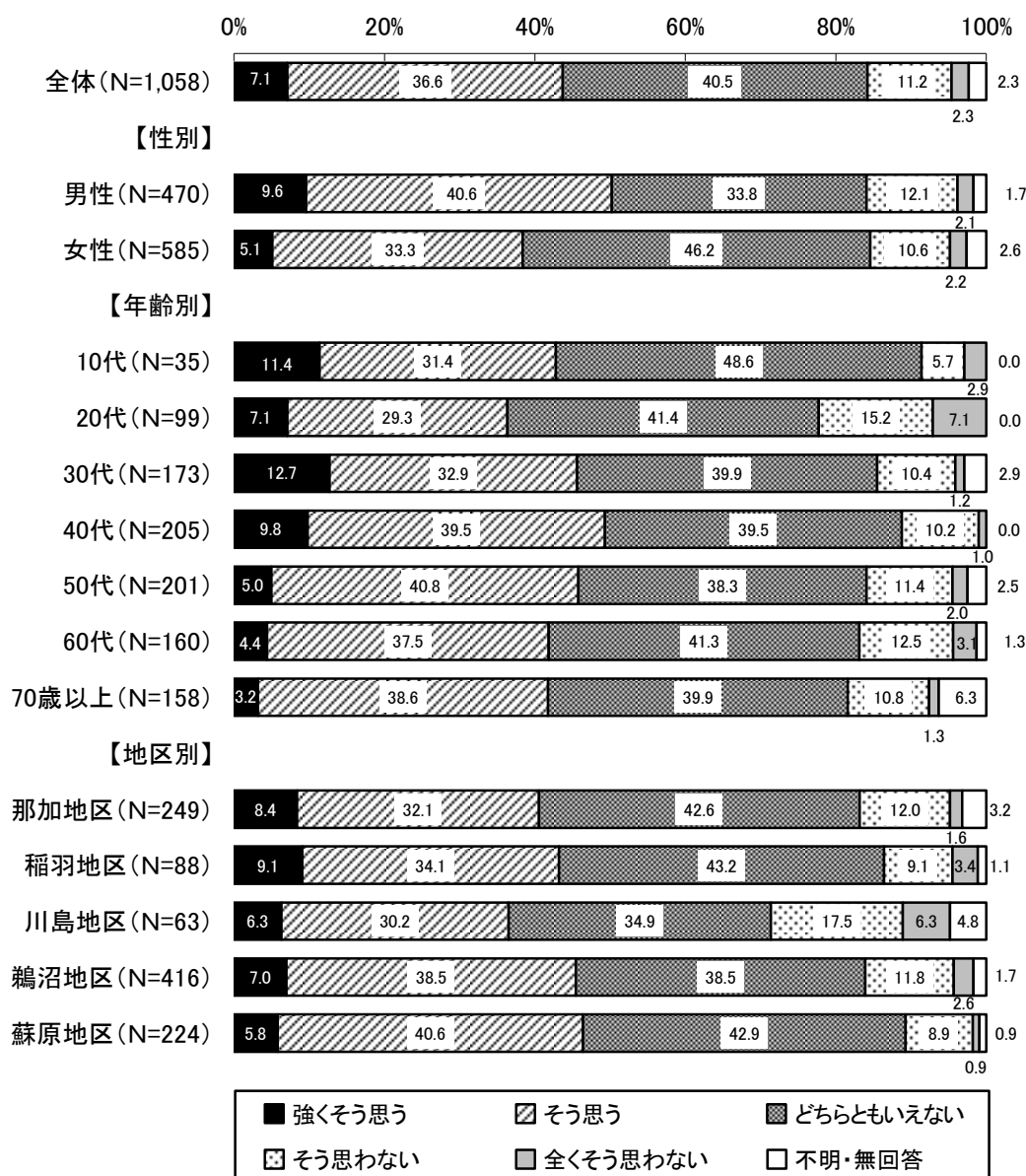
12. 高品質のものづくりなど産業が盛んなまち

「高品質のものづくりなど産業が盛んなまち」のイメージについて、「どちらともいえない」が40.5%と最も高く、次いで「そう思う」が36.6%となっています。

性別について、男性は「そう思う」が40.6%、女性は「どちらともいえない」が46.2%と最も高くなっています。

年齢別について、10代から30代までと60歳以上で「どちらともいえない」が、50代で「そう思う」が最も高くなっています。また、20代は『そう思わない』がやや高くなっています。

地区別について、全地区で「どちらともいえない」が最も高くなっています。また、鵜沼地区、蘇原地区では、「強くそう思う」「そう思う」を合わせた『そう思う』が他地区と比べやや高くなっています。



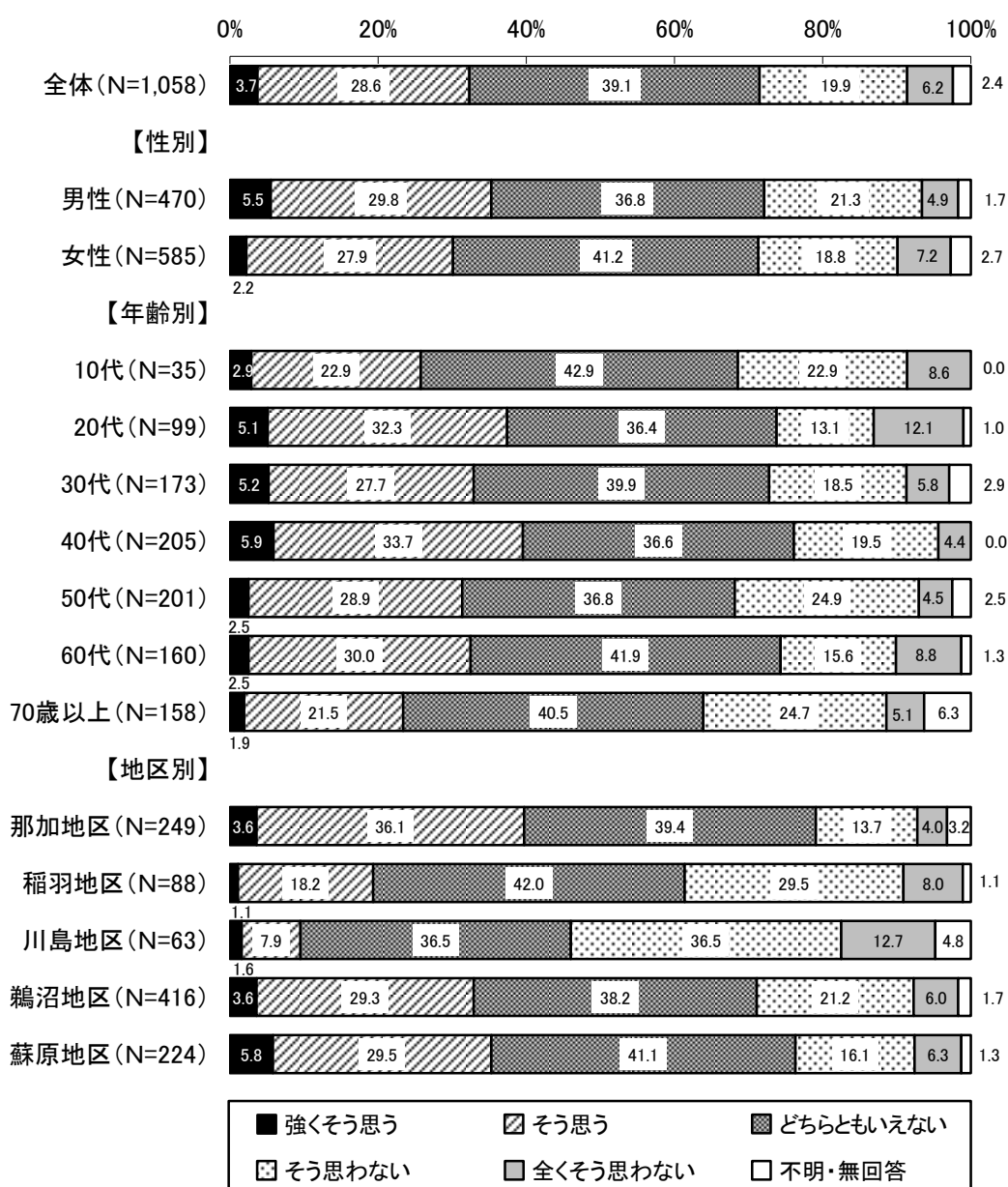
13. 交通や都市基盤が発達した便利なまち

「交通や都市基盤が発達した便利なまち」のイメージについて、「どちらともいえない」が39.1%と最も高く、次いで「そう思う」が28.6%となっています。

性別について、男女ともに「どちらともいえない」が最も高くなっています。

年齢別について、全年代で「どちらともいえない」が最も高くなっています。また、10代、50代と70歳以上は「そう思わない」がやや高くなっています。

地区別について、川島地区で「そう思わない」「全くそう思わない」を合わせた『そう思わない』が他地区と比べ高くなっています。



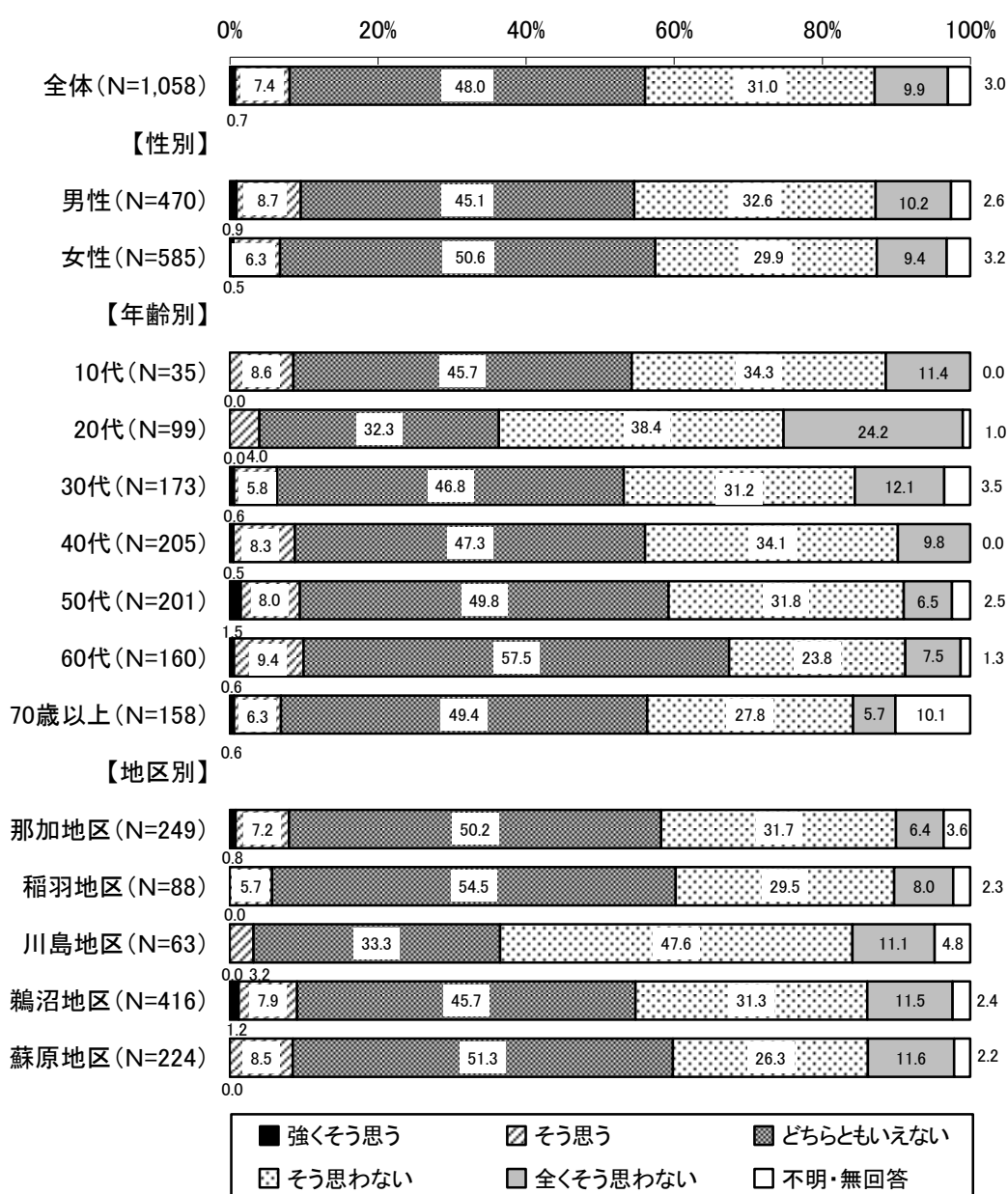
14. 世界に向けて情報発信するまち

「世界に向けて情報発信するまち」のイメージについて、「どちらともいえない」が48.0%と最も高く、次いで「そう思わない」が31.0%となっています。

性別について、男女ともに「どちらともいえない」が最も高くなっています。

年齢別について、20代は「そう思わない」が最も高く、「全くそう思わない」と合わせた『そう思わない』が約6割となっています。また、10代と30歳以上は「どちらともいえない」が最も高くなっています。

地区別について、那加地区、稲羽地区、鵜沼地区、蘇原地区は「どちらともいえない」が最も高く、川島地区は「そう思わない」が最も高くなっています。



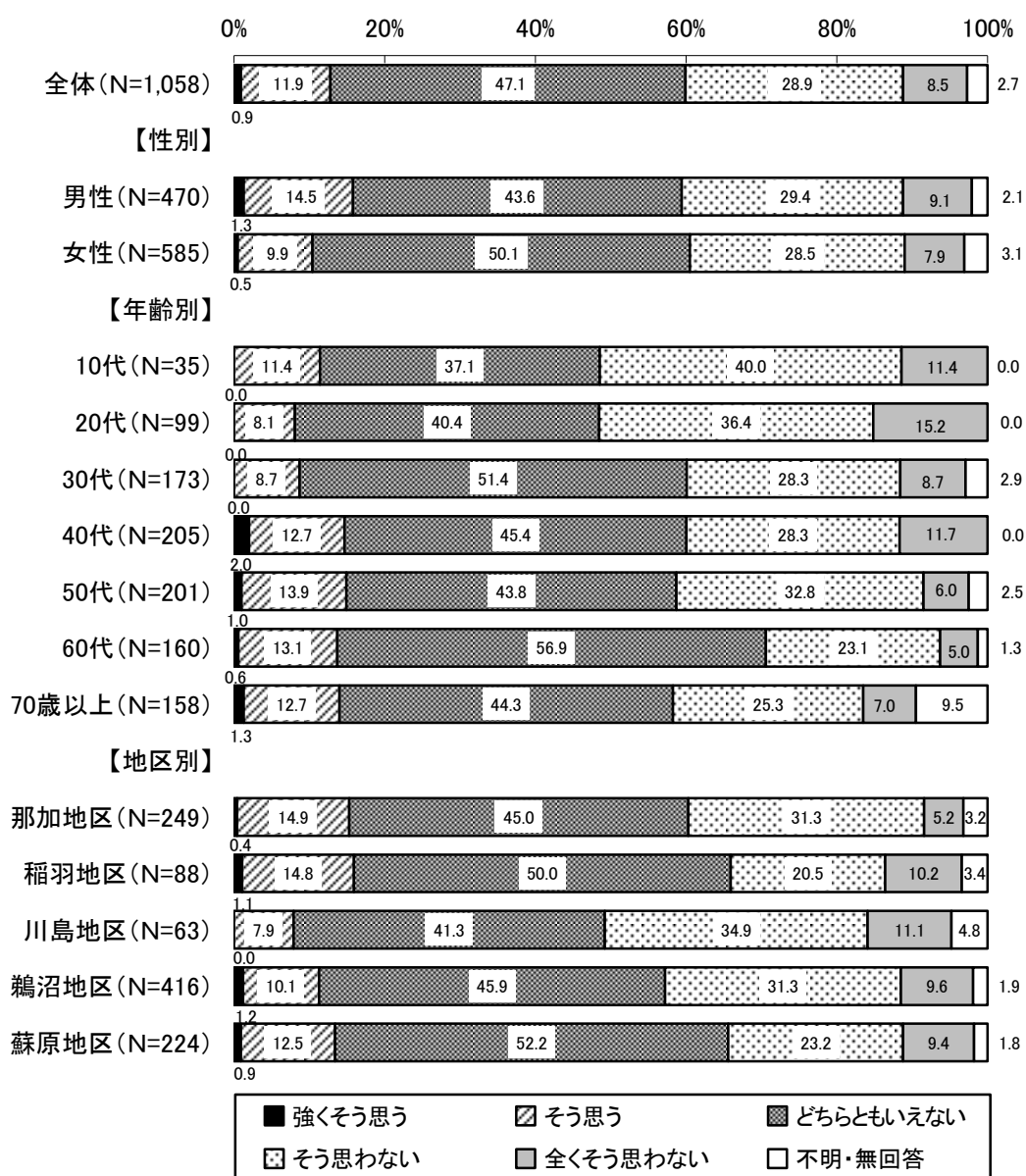
15. 近隣市町のリーダーとしての役割を担うまち

「近隣市町のリーダーとしての役割を担うまち」のイメージについて、「どちらともいえない」が47.1%と最も高く、次いで「そう思わない」が28.9%となっています。

性別について、男女ともに「どちらともいえない」が最も高くなっています。

年齢別について、10代で「そう思わない」が、20歳以上で「どちらともいえない」が最も高くなっています。また、10代と20代で「全くそう思わない」と「そう思わない」を合わせた『そう思わない』が約5割を占め、やや高くなっています。

地区別について、全地区で「どちらともいえない」が最も高くなっています。



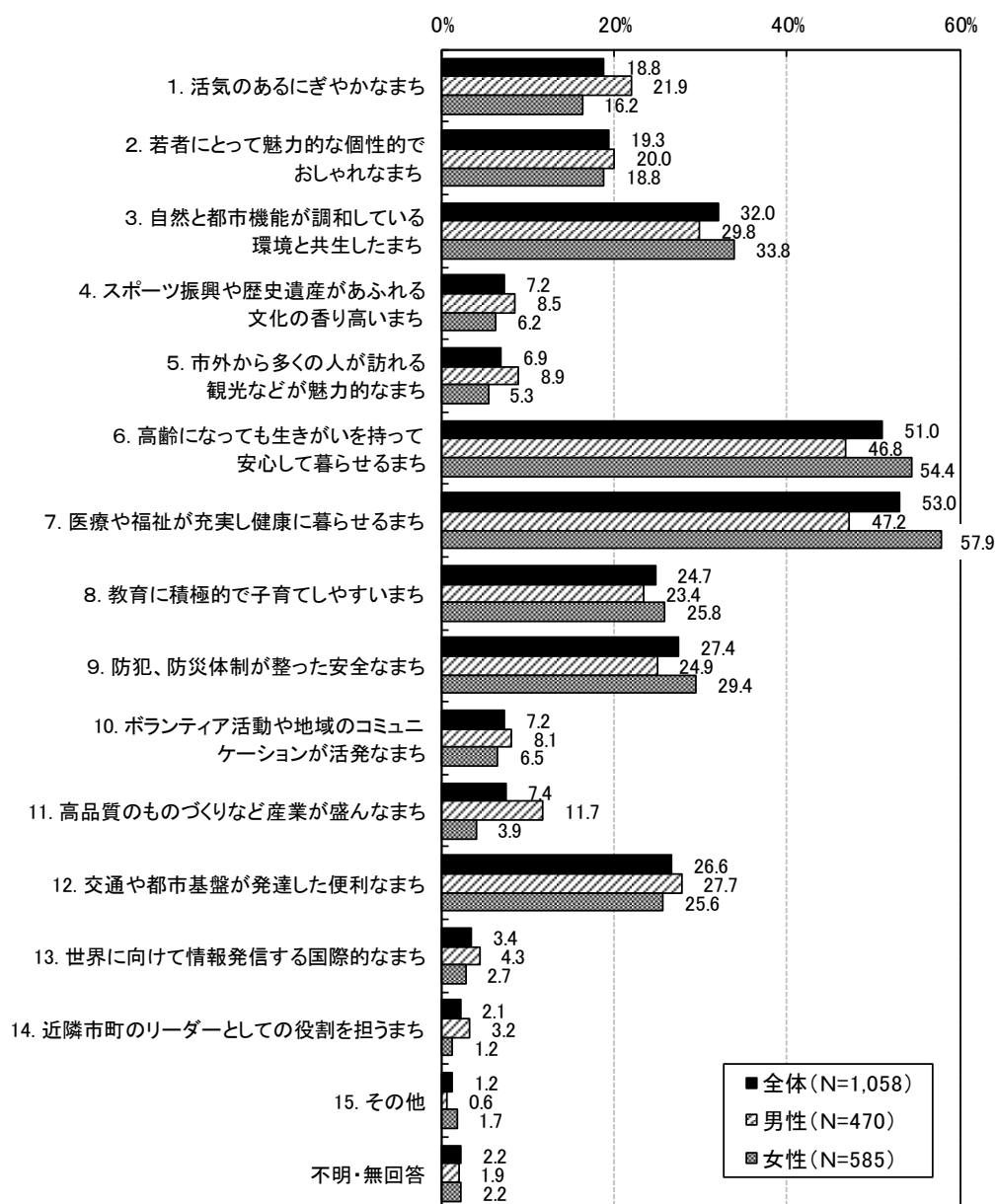
問 16 あなたは、各務原市の将来の都市の姿として、どのようなまちになってほしいと思いますか。(3つまで複数回答)

将来、各務原市がどのようなまちを目指すべきかについて、「7. 医療や福祉が充実し健康に暮らせるまち」が 53.0%で最も高く、次いで「6. 高齢になっても生きがいを持って安心して暮らせるまち」が 51.0%となっています。

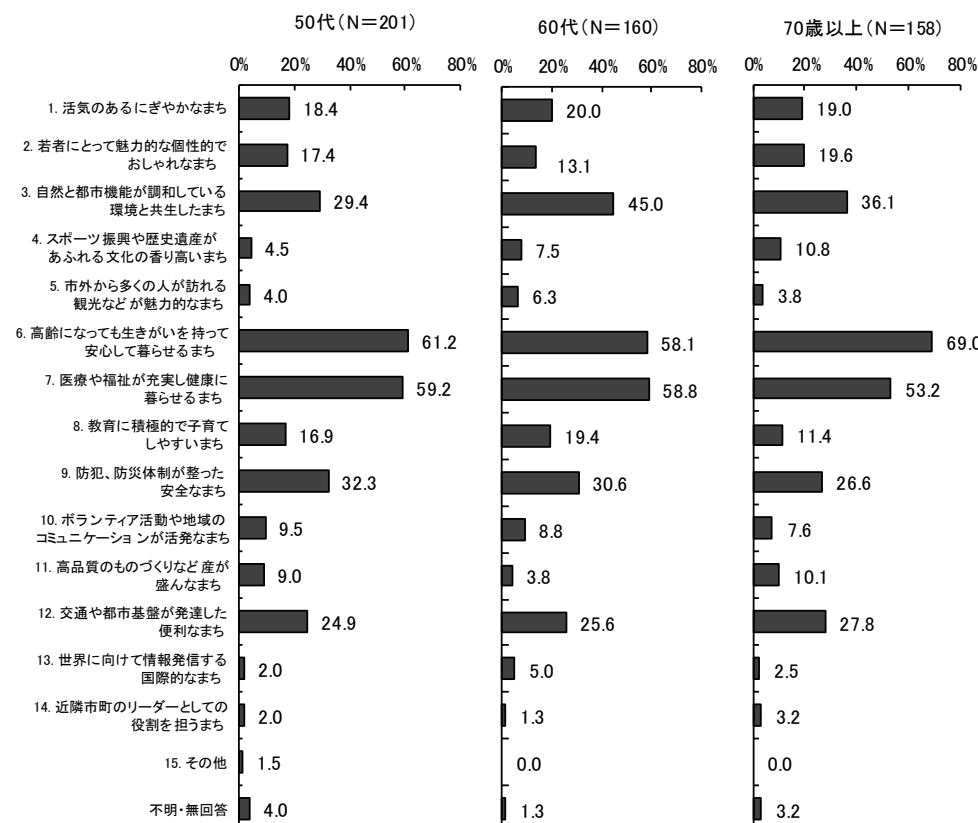
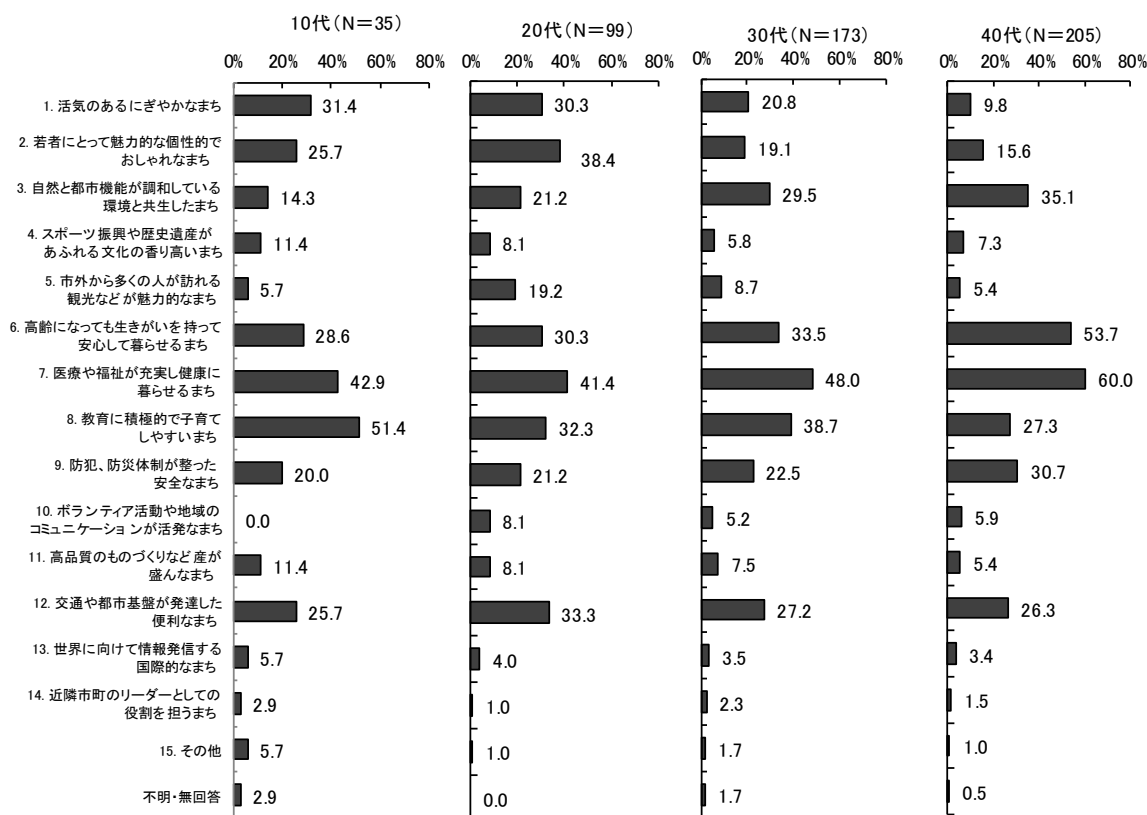
性別について、男女ともに「7. 医療や福祉が充実し健康に暮らせるまち」が最も高く、女性は 57.9%と男性より 10.7 ポイント高くなっています。

年齢別について、10 代は「8. 教育に積極的で子育てしやすいまち」が、20 代から 40 代、60 代は「7. 医療や福祉が充実し健康に暮らせるまち」が、50 代と 70 歳以上は「6. 高齢になっても生きがいを持って安心して暮らせるまち」が最も高くなっています。

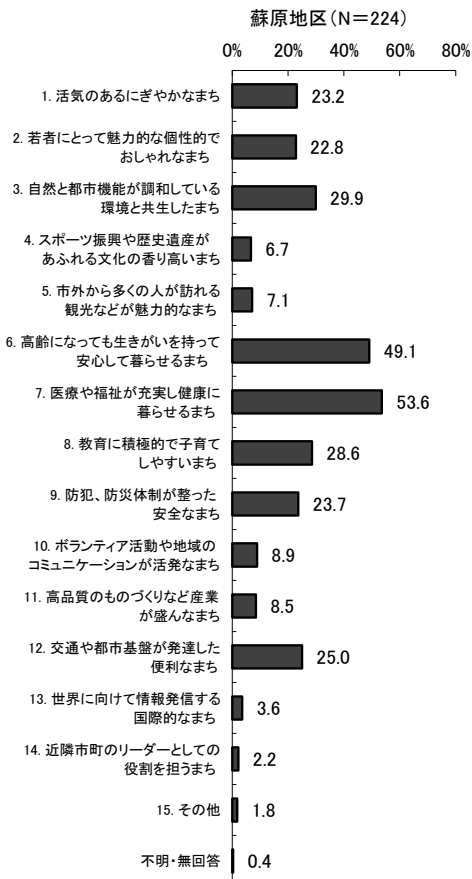
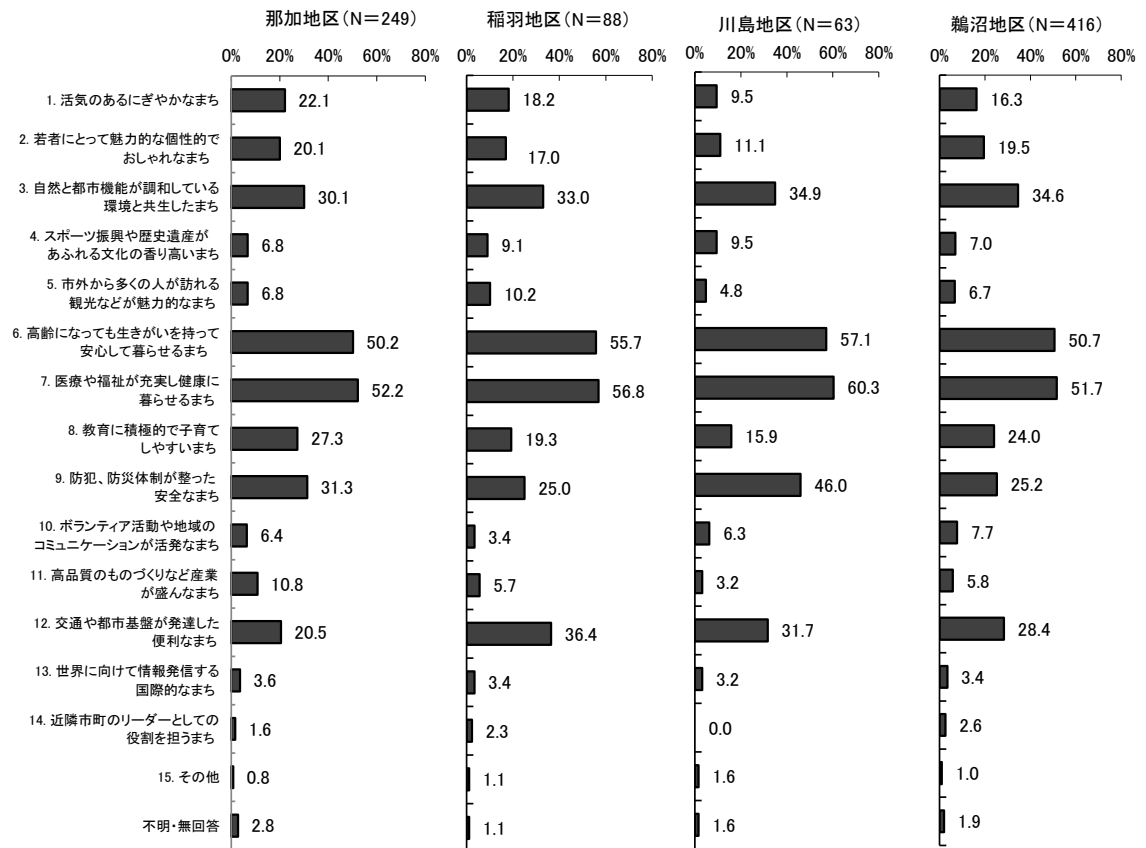
地区別について、全地区で「7. 医療や福祉が充実し健康に暮らせるまち」が最も高くなっています。



【年齢別】



【地区別】



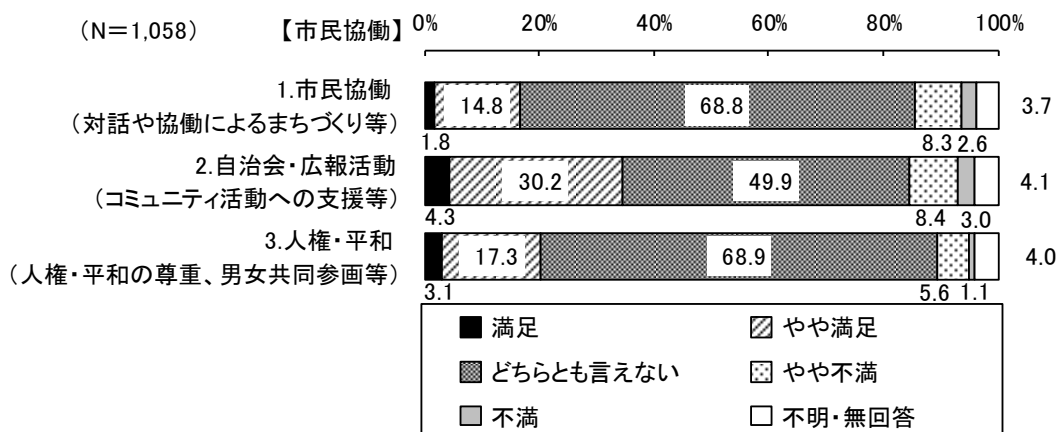
問 17 市が展開している次の1～37 の施策について、それぞれに対するあなたの『満足度』と『重要度』を教えてください。

(次の1～37 の項目について、満足度、重要度それぞれ単数回答)

満足度【市民協働】

市民協働分野の市民満足度について、「満足」と「やや満足」を合わせた『満足』では、「2. 自治会・広報活動」が34.5%で最も高くなっています。

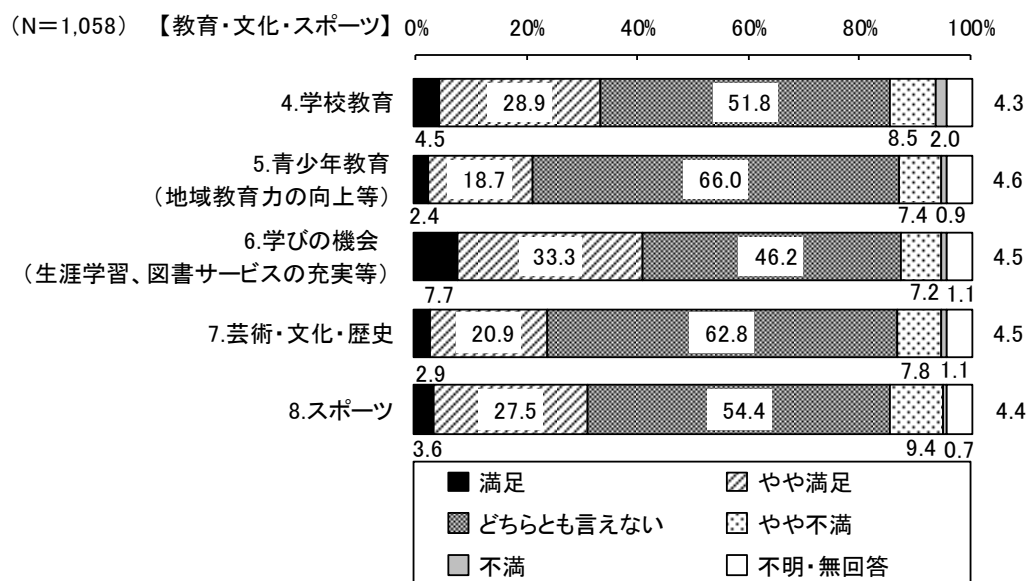
また、「1. 市民協働」が16.6%で最も低くなっています。



満足度【教育・文化・スポーツ】

教育・文化・スポーツ分野の市民満足度について、「満足」と「やや満足」を合わせた『満足』では、「6. 学びの機会」が41.0%で最も高くなっています。

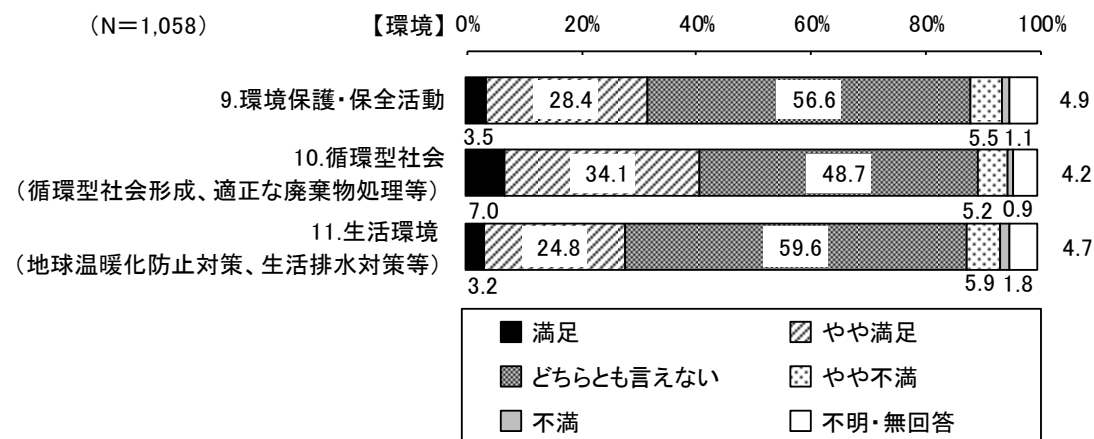
また、「5. 青少年教育」が21.1%で最も低くなっています。



満足度【環境】

環境分野の市民満足度について、「満足」と「やや満足」を合わせた『満足』では、「10. 循環型社会」が41.1%で最も高くなっています。

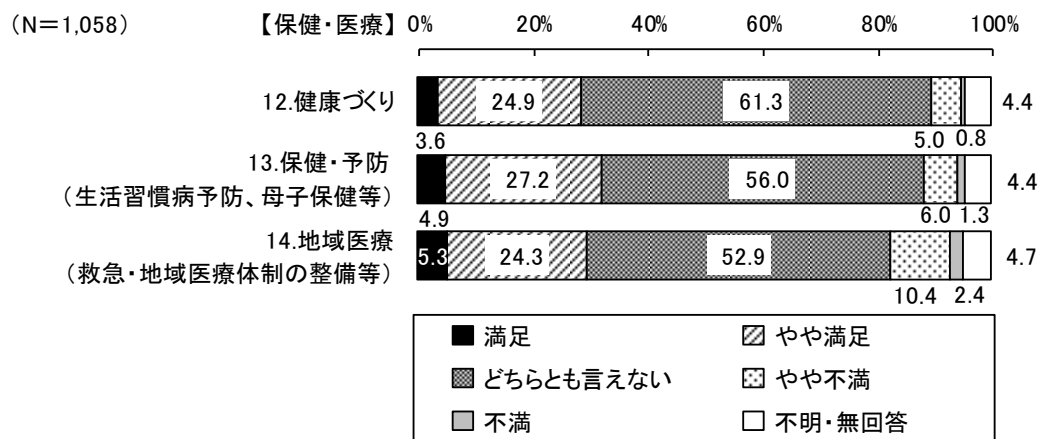
また、「11. 生活環境」が28.0%で最も低くなっています。



満足度【保健・医療】

保健・医療分野の市民満足度について、「満足」と「やや満足」を合わせた『満足』では、「13. 保健・予防」が32.1%で最も高くなっています。

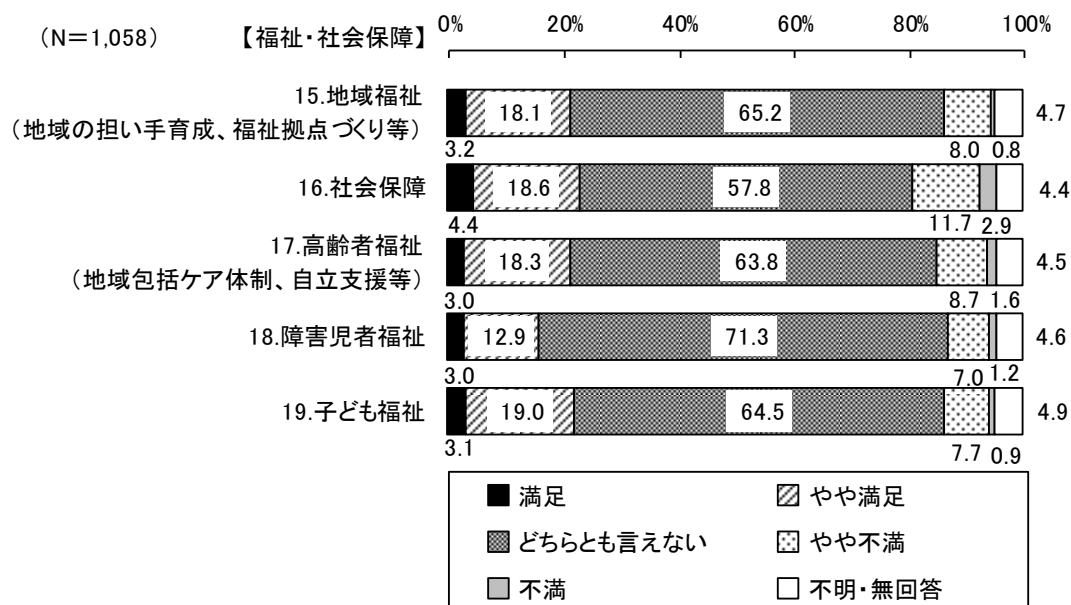
また、「12. 健康づくり」が28.5%で最も低くなっています。



満足度【福祉・社会保障】

福祉・社会保障分野の市民満足度について、「満足」と「やや満足」を合わせた『満足』では、「16. 社会保障」が23.0%で最も高くなっています。

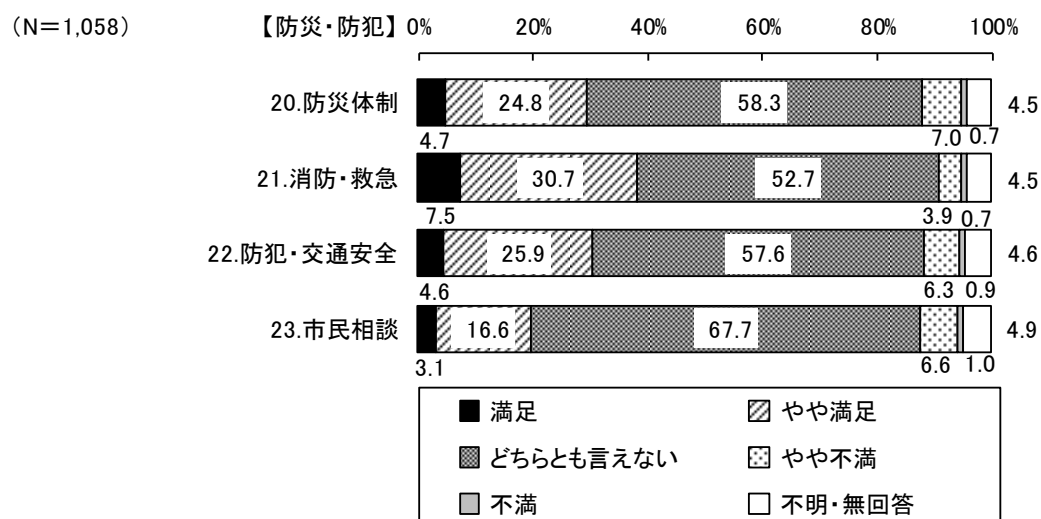
また、「18. 障害児者福祉」が15.9%で最も低くなっています。



満足度【防災・防犯】

防災・防犯分野の市民満足度について、「満足」と「やや満足」を合わせた『満足』では、「21. 消防・救急」が38.2%で最も高くなっています。

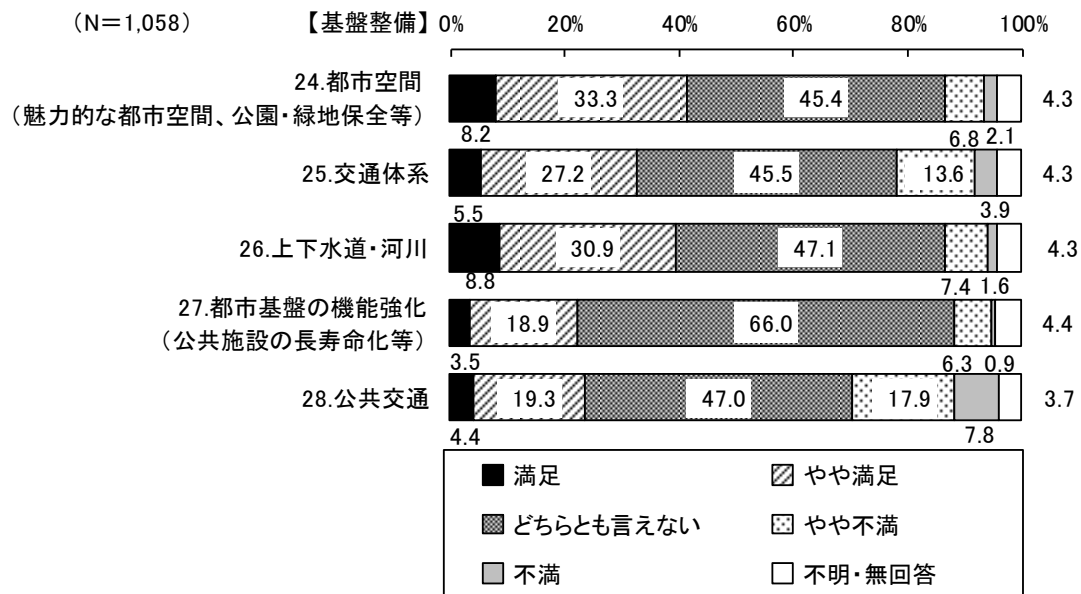
また、「23. 市民相談」が19.7%で最も低くなっています。



満足度【基盤整備】

基盤整備分野の市民満足度について、「満足」と「やや満足」を合わせた『満足』では、「24. 都市空間」が41.5%で最も高くなっています。

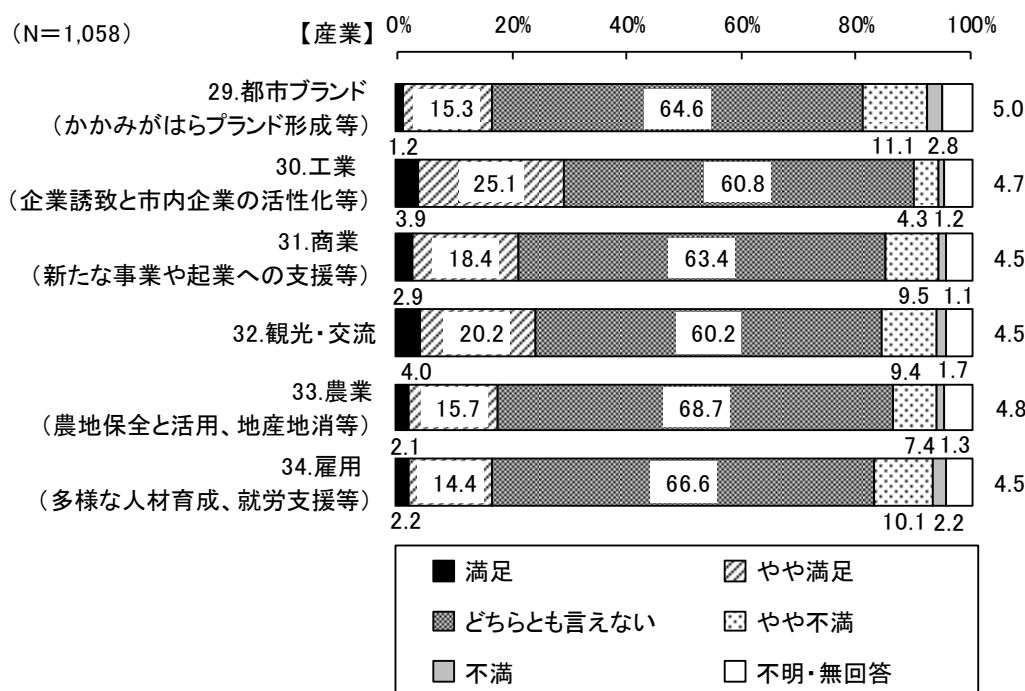
また、「27. 都市基盤の機能強化」が22.4%で最も低くなっています。



満足度【産業】

産業分野の市民満足度について、「満足」と「やや満足」を合わせた『満足』では、「30.工業」が29.0%で最も高くなっています。

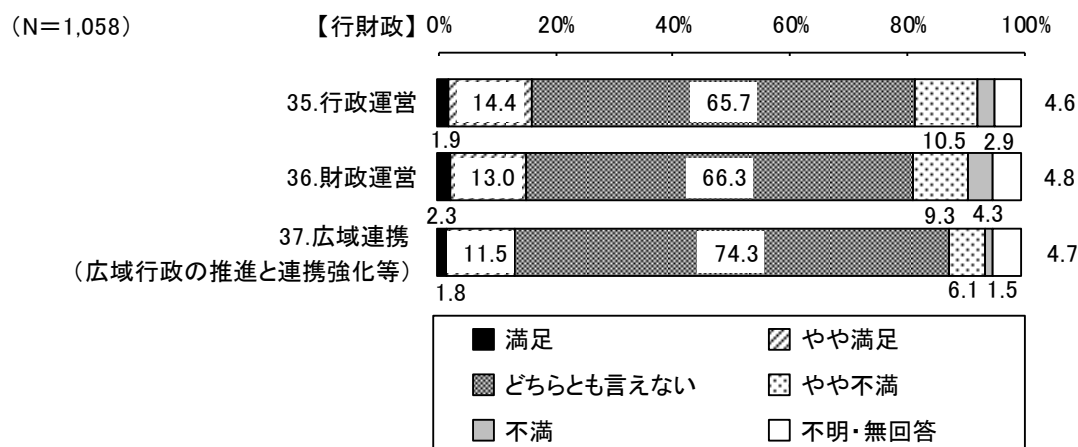
また、「34.雇用」が16.6%で最も低くなっています。



満足度【行財政】

行財政分野の市民満足度について、「満足」と「やや満足」を合わせた『満足』では、「35.行政運営」が16.3%で最も高くなっています。

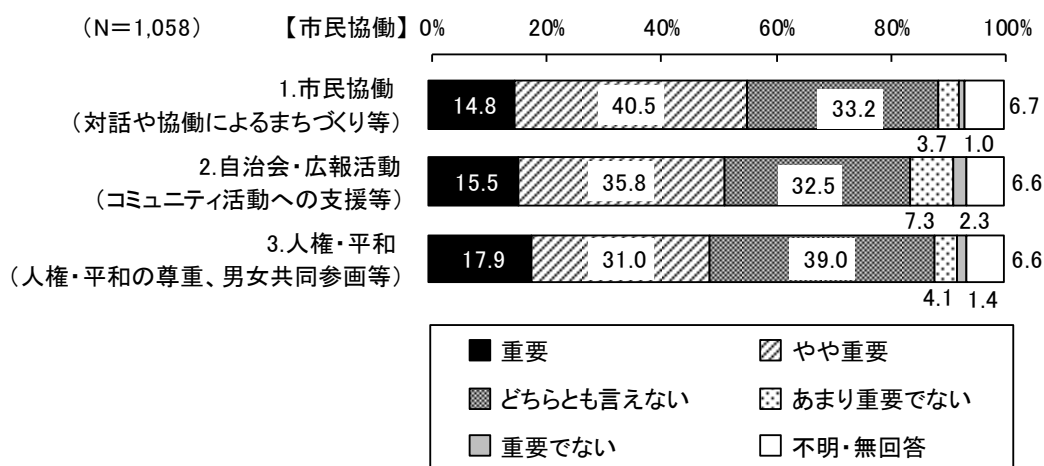
また、「37.広域連携」が13.3%で最も低くなっています。



重要度【市民協働】

市民協働分野の市民重要度について、「重要」と「やや重要」を合わせた『重要』では、「1. 市民協働」が55.3%で最も高くなっています。

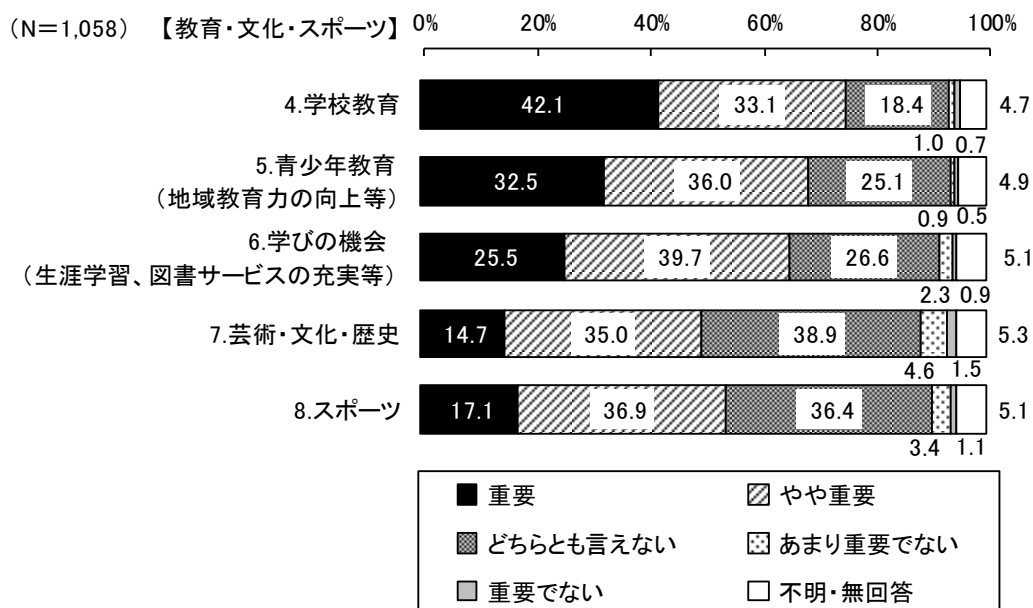
また、「3. 人権・平和」が48.9%で最も低くなっています。



重要度【教育・文化・スポーツ】

教育・文化・スポーツ分野の市民重要度について、「重要」と「やや重要」を合わせた『重要』では、「4. 学校教育」が75.2%で最も高くなっています。

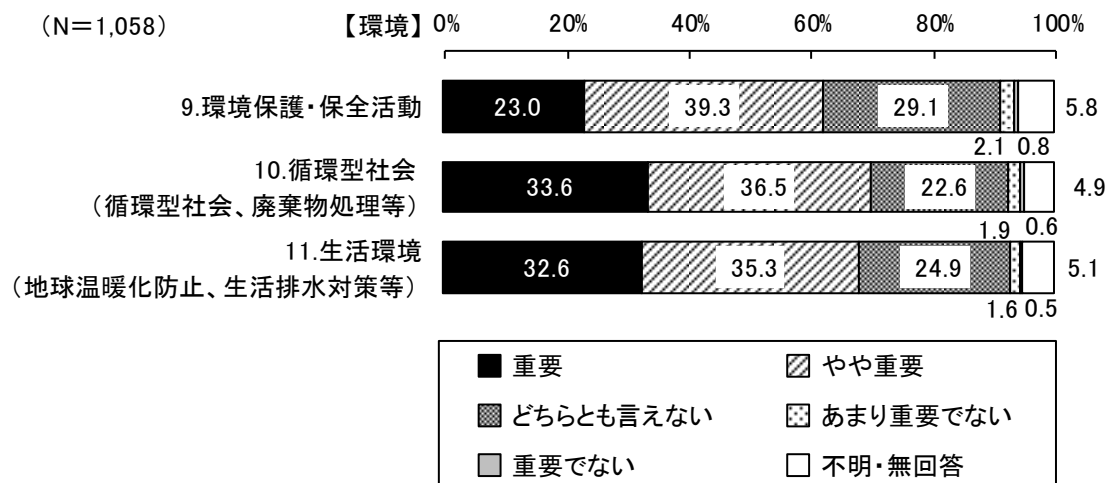
また、「7. 芸術・文化・歴史」が49.7%で最も低くなっています。



重要度【環境】

環境分野の市民重要度について、「重要」と「やや重要」を合わせた『重要』では、「10. 循環型社会」が70.1%で最も高くなっています。

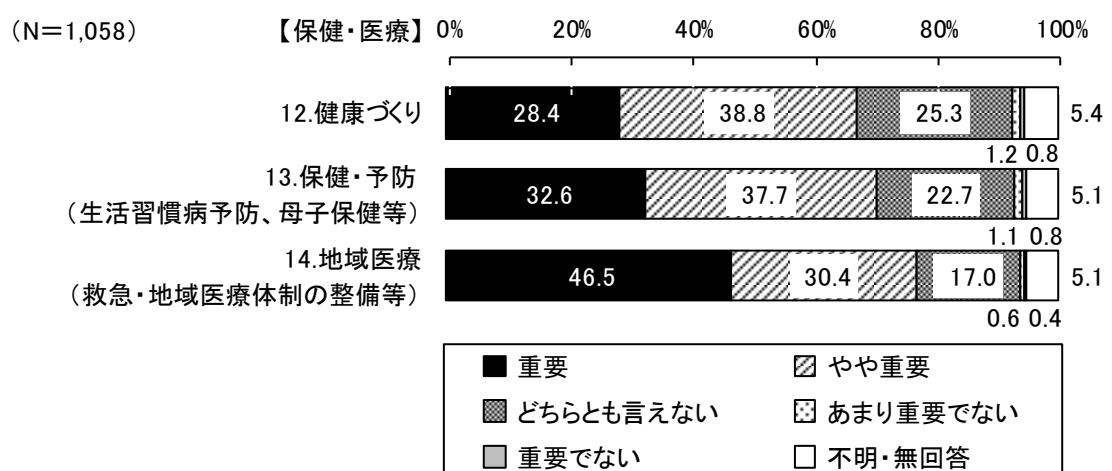
また、「9. 環境保護・保全活動」が62.3%で最も低くなっています。



重要度【保健・医療】

保健・医療分野の市民重要度について、「重要」と「やや重要」を合わせた『重要』では、「14. 地域医療」が76.9%で最も高くなっています。

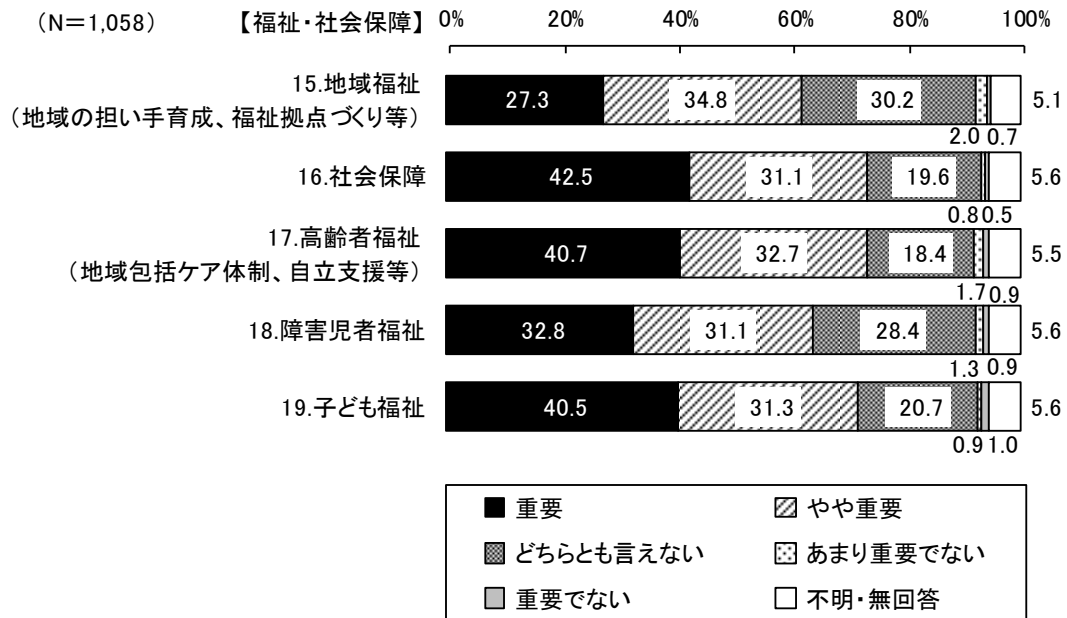
また、「12. 健康づくり」が67.2%で最も低くなっています。



重要度【福祉・社会保障】

福祉・社会保障分野の市民重要度について、「重要」と「やや重要」を合わせた『重要』では、「16. 社会保障」が73.6%で最も高くなっています。

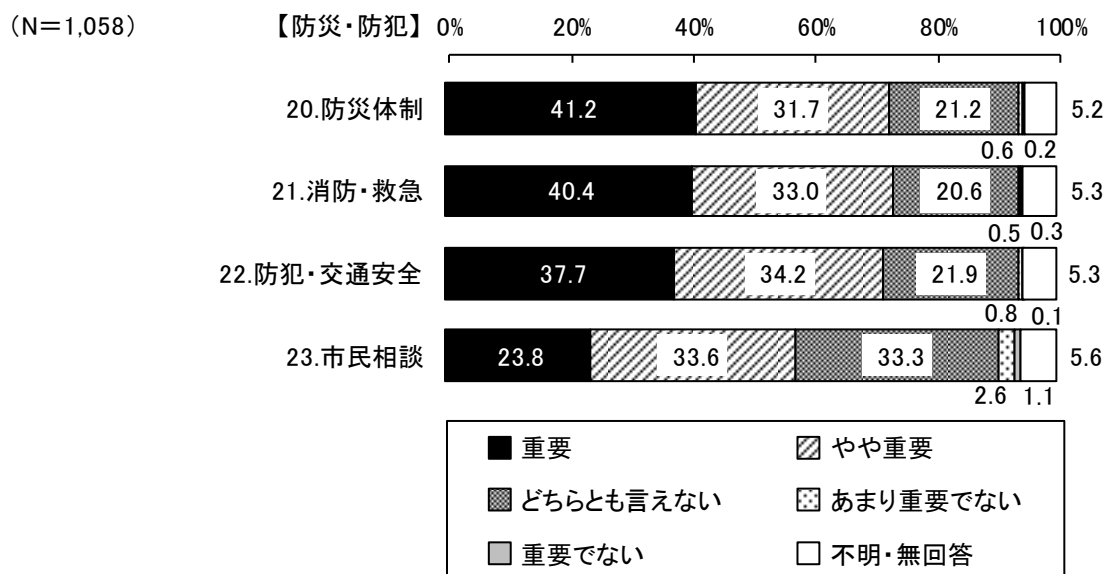
また、「15. 地域福祉」が62.1%で最も低くなっています。



重要度【防災・防犯】

防災・防犯分野の市民重要度について、「重要」と「やや重要」を合わせた『重要』では、「21. 消防・救急」が73.4%で最も高くなっています。

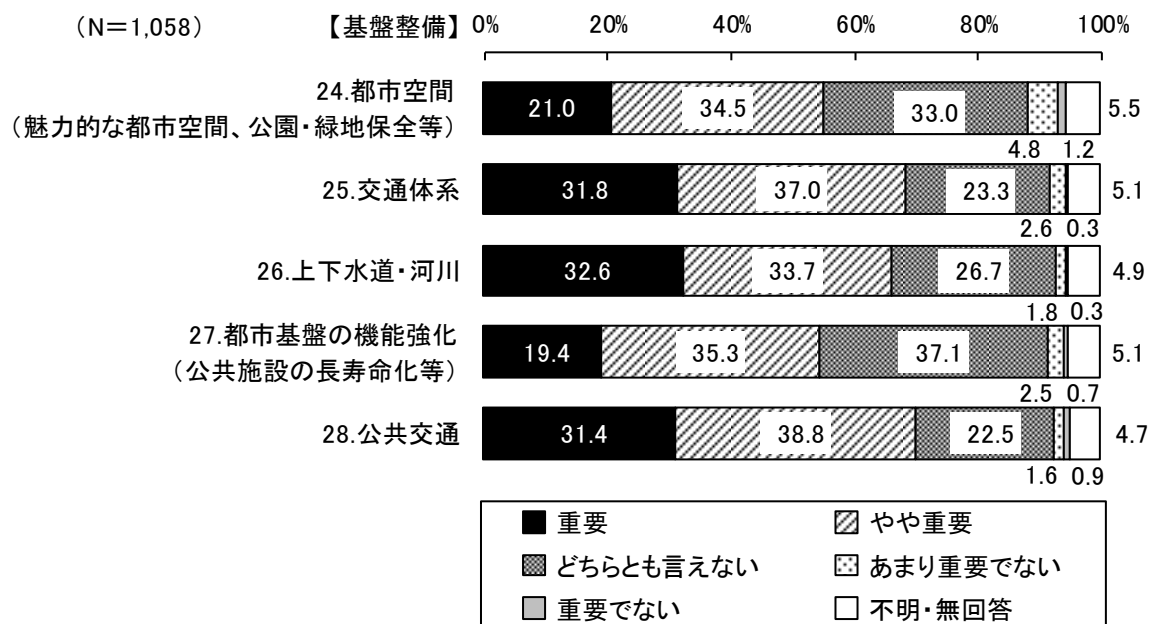
また、「23. 市民相談」が57.4%で最も低くなっています。



重要度【基盤整備】

基盤整備分野の市民重要度について、「重要」と「やや重要」を合わせた『重要』では、「28. 公共交通」が70.2%で最も高くなっています。

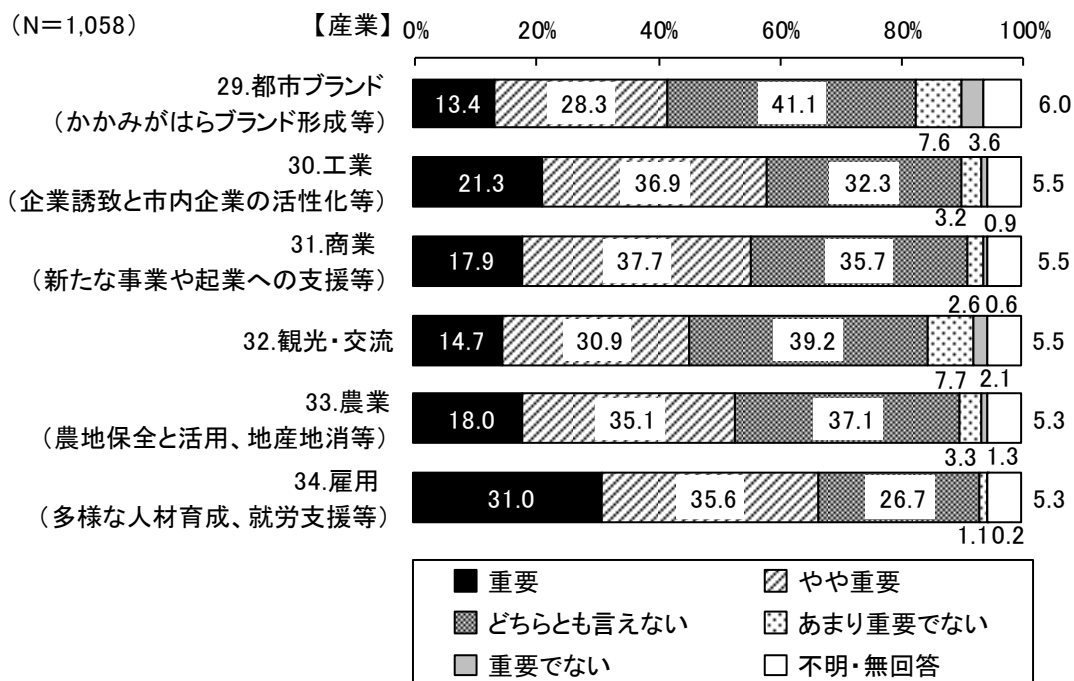
また、「27. 都市基盤の機能強化」が54.7%で最も低くなっています。



重要度【産業】

産業分野の市民重要度について、「重要」と「やや重要」を合わせた『重要』では、「34.雇用」が66.6%で最も高くなっています。

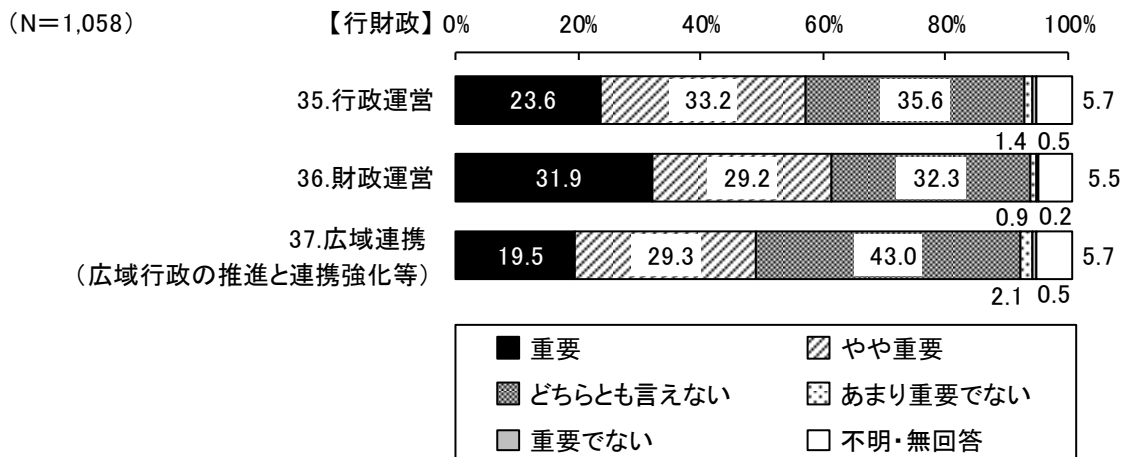
また、「29.都市ブランド」が41.7%で最も低くなっています。



重要度【行財政】

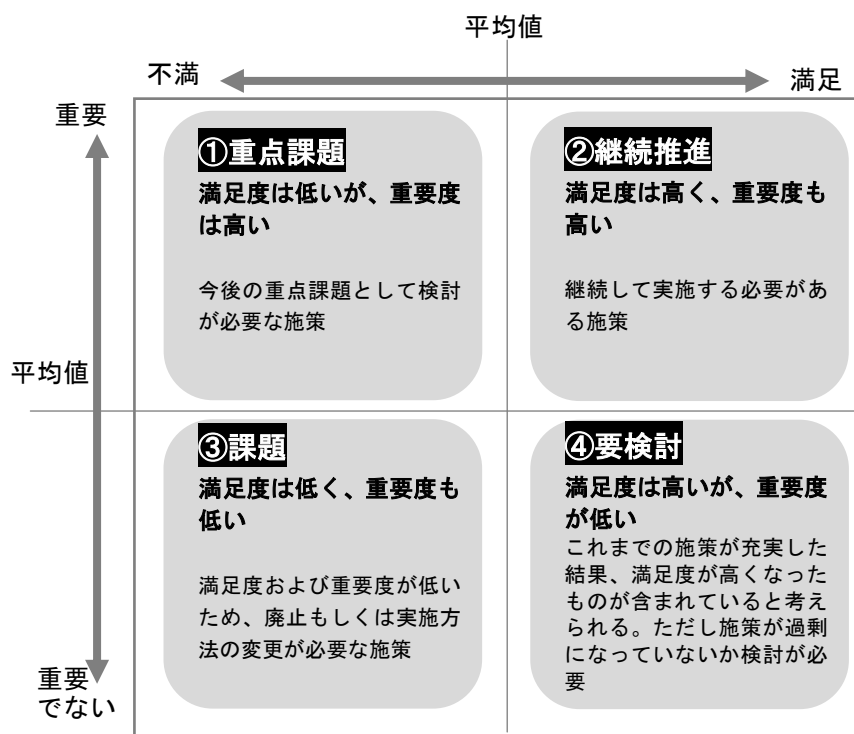
行財政分野の市民重要度について、「重要」と「やや重要」を合わせた『重要』では、「36.財政運営」が61.1%で最も高くなっています。

また、「37.広域連携」が48.8%で最も低くなっています。



【ポートフォリオによる分析】

ポートフォリオとは、各属性についての満足度と総合満足度への影響度を二次元にプロットした図です。それぞれの選択肢を4段階評価で聞き、X軸に各属性の満足度、Y軸に重要度（期待値）として総合満足度と各満足度の偏相関係数を表しています。なお、図は4象限に分けられ、象限を分ける境界線は、満足度、重要度の各平均値を使用しています。



【分析の考え方】

37 項目について、満足度と重要度を下表のような配分で点数化し、その点数の合計値を、無回答を除いた各設問の回答総数で割り、満足度・重要度を得点化します。

さらに、各項目の満足度と重要度の得点の関係で分布図を作成し、ポートフォリオ分析により今後の方向性を分析します。

【重要度・満足度の得点化の手順】

重要度	得点
重要	5点
やや重要	3点
あまり重要でない	－3点
重要でない	－5点
無回答	計算対象外

満足度	得点
満足	5点
やや満足	3点
やや不満	－3点
不満	－5点
無回答	計算対象外

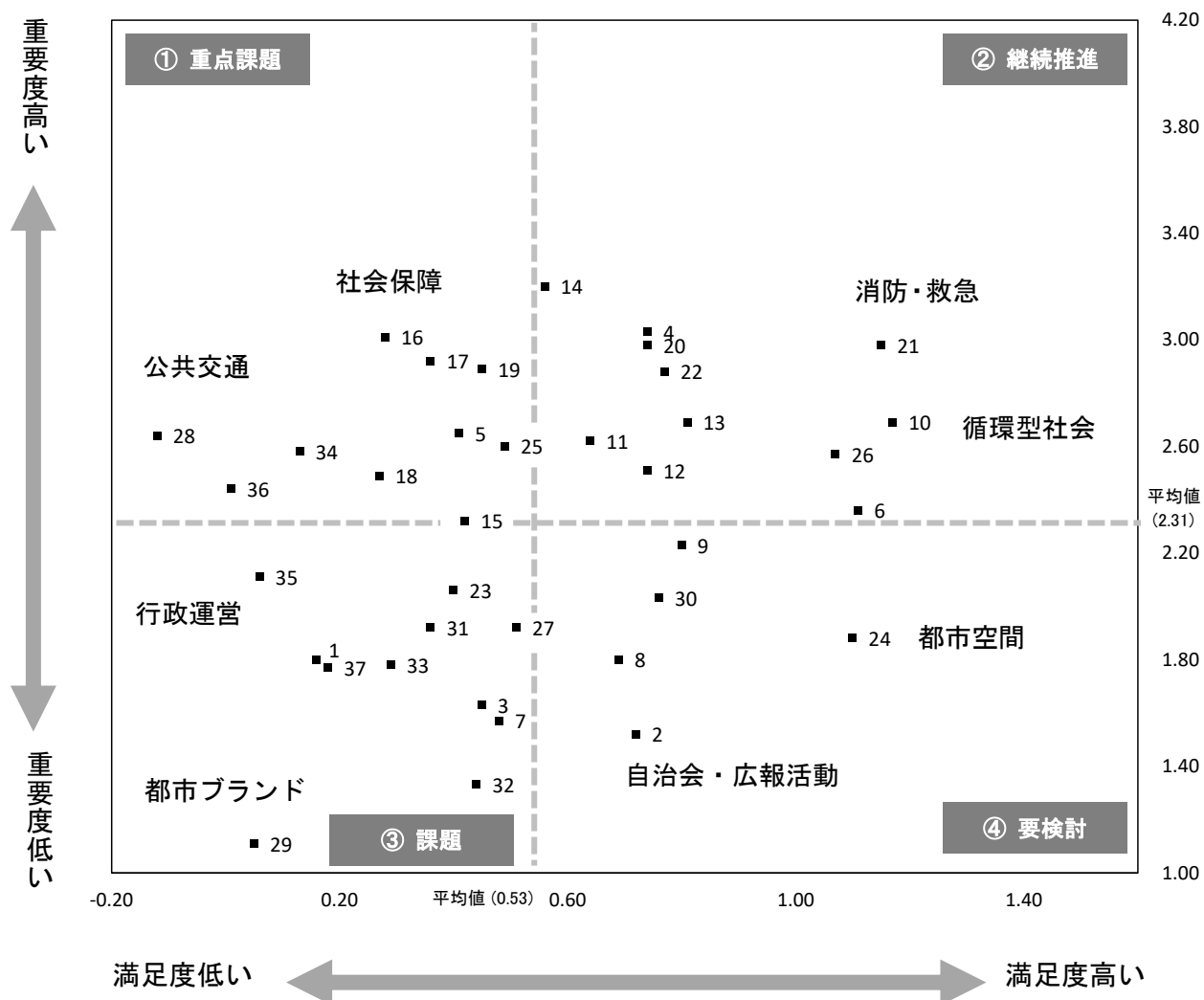
得点については、小数点以下第3位を四捨五入して表示

[37 項目の満足度と重要度の得点化]

区分	満足度	重要度
1. 市民協働（対話や協働によるまちづくり 等）	0.16	1.80
2. 自治会・広報活動（コミュニティ活動への支援、市広報活動の充実 等）	0.72	1.52
3. 人権・平和（人権・平和の尊重、男女共同参画、多文化共生の推進 等）	0.45	1.63
4. 学校教育（学校教育の充実、地域資源の活用、施設・設備の充実 等）	0.74	3.03
5. 青少年教育（地域教育力の向上、家庭教育の充実 等）	0.41	2.65
6. 学びの機会（生涯学習の充実、図書館サービスの充実 等）	1.11	2.36
7. 芸術・文化・歴史（芸術・文化活動の充実、歴史・文化遺産の保護と利活用 等）	0.48	1.57
8. スポーツ（スポーツ機会の創出、スポーツ施設の充実 等）	0.69	1.80
9. 環境保護・保全活動（環境保護・保全活動の推進、環境教育の充実 等）	0.80	2.23
10. 循環型社会（循環型社会の形成、適正な廃棄物の処理 等）	1.17	2.69
11. 生活環境（地球温暖化防止対策の推進、生活排水対策の推進 等）	0.64	2.62
12. 健康づくり（健康づくり活動への支援、こころの健康の保持・増進 等）	0.74	2.51
13. 保健・予防（生活習慣病等予防の推進、母子保健の充実 等）	0.81	2.69
14. 地域医療（救急医療体制の充実、地域医療体制の整備 等）	0.56	3.20
15. 地域福祉（地域福祉の担い手育成、福祉の拠点づくりの推進 等）	0.42	2.32
16. 社会保障（国民健康保険制度、介護保険制度等の適正な運用 等）	0.28	3.01
17. 高齢者福祉（地域包括ケア体制の構築、高齢者の自立支援・生活支援、高齢者の生きがいの推進 等）	0.36	2.92
18. 障がい児者福祉（障がい児者の自立支援や社会参加の促進、障がい児者施設の充実 等）	0.27	2.49
19. 子ども福祉（地域ぐるみの子育て支援体制の強化、乳幼児保育・教育の充実 等）	0.45	2.89
20. 防災体制（防災体制の充実、地域防災力の向上 等）	0.74	2.98
21. 消防・救急（消防力・救急救助体制の強化、地域消防活動の推進 等）	1.15	2.98
22. 防犯・交通安全（防犯活動の推進、交通安全意識の啓発 等）	0.77	2.88
23. 市民相談（相談窓口体制の充実、消費者保護の推進 等）	0.40	2.06
24. 都市空間（魅力的な都市空間の形成、公園・緑地の保全 等）	1.10	1.88
25. 交通体系（幹線道路・生活道路の整備 等）	0.49	2.60
26. 上下水道・河川（水道水の安定供給、公共下水道の整備及び維持管理 等）	1.07	2.57
27. 都市基盤の機能強化（公共施設の長寿命化、施設の高付加価値化 等）	0.51	1.92
28. 公共交通（公共交通ネットワークの形成、ふれあいバスの運行 等）	-0.12	2.64
29. 都市ブランド（かかみがはらブランドの形成・発信 等）	0.05	1.11
30. 工業（企業誘致と市内企業の活性化、ものづくりの高度化 等）	0.76	2.03
31. 商業（商業・サービス業の振興、新たな事業や起業への支援 等）	0.36	1.92
32. 観光・交流（観光資源のブランド化、航空宇宙博物館の充実 等）	0.44	1.33
33. 農業（農地の保全と活用、地産地消の推進 等）	0.29	1.78
34. 雇用（多様な人材の育成、就労を支援する環境整備 等）	0.13	2.58
35. 行政運営（効率的・効果的な行政運営、公共施設の適正化 等）	0.06	2.11
36. 財政運営（計画的な財政運営 等）	0.01	2.44
37. 広域連携（広域行政の推進と連携強化 等）	0.18	1.77

重要度が高いのに満足度が低い取り組みとしては、「16. 社会保障」、「28. 公共交通」、が目立っています。

また、重要度が高く満足度が高い取り組みとしては、「10. 循環型社会」、「21. 消防・救急」が目立っています。

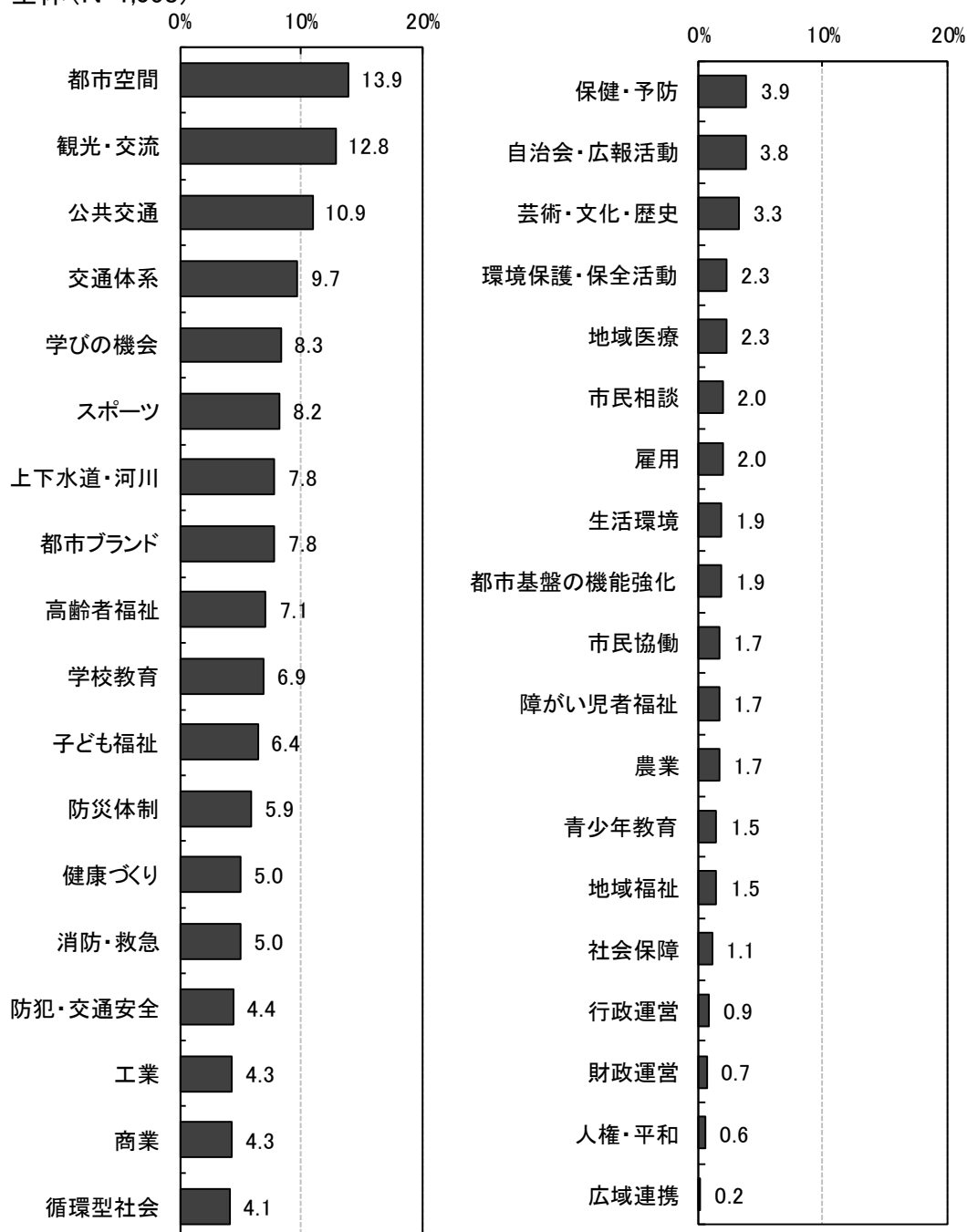


問 18 各務原市のまちづくりとして、ここ5年間で、特に改善した(＝進展した)と思う取り組み・悪化した(＝進んでいない)と思う取り組みを教えてください。(3つまで複数回答)

(1) 改善した(＝進展した)

改善した取り組みについて、「都市空間」が13.9%で最も高く、次いで「観光・交流」が12.8%、「公共交通」が10.9%となっています。

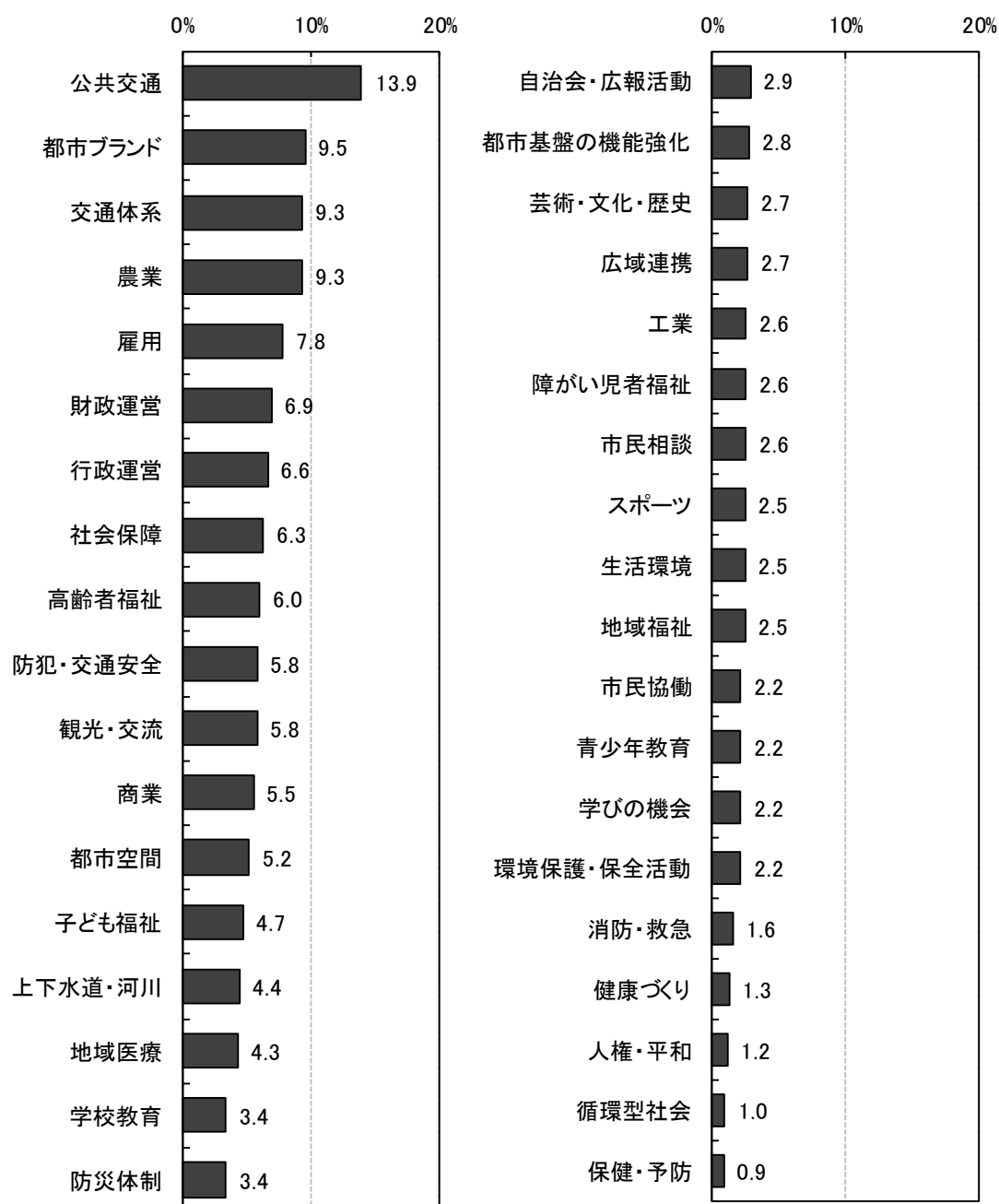
全体(N=1,058)



(2) 悪化した(=進んでいない)

悪化した取り組みについて、「公共交通」が13.9%で最も高く、次いで「都市ブランド」が9.5%、「交通体系」と「農業」がそれぞれ9.3%となっています。

全体(N=1,058)



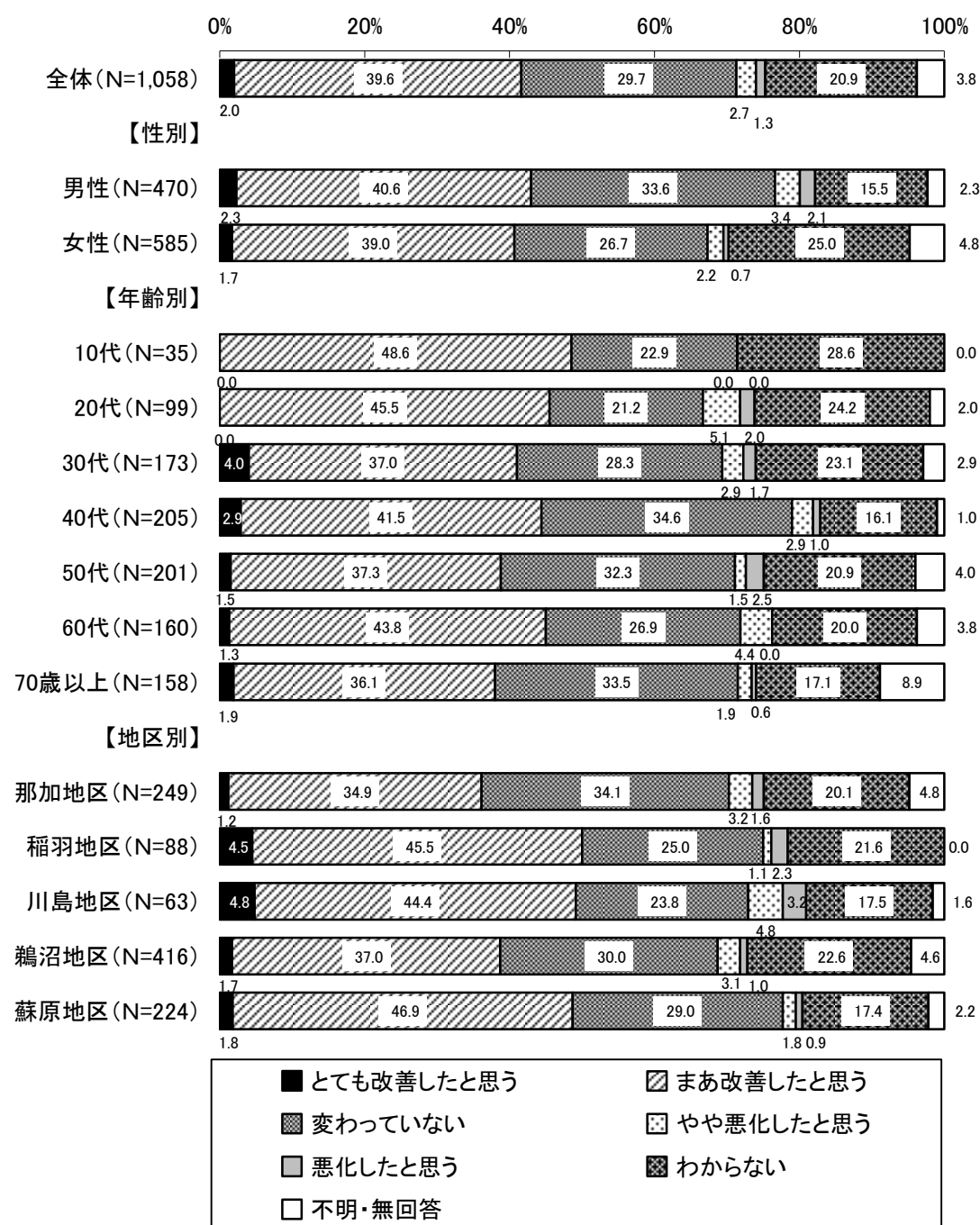
問 19 5年前に比べて「まちづくり」全般について改善したと思いますか。(単数回答)

5年前に比べて「まちづくり」全般について改善したと思うかについて、「まあ改善したと思う」が 39.6%で最も高く、次いで「変わっていない」が 29.7%となっています。

性別について、男女ともに「まあ改善したと思う」が最も高くなっています。

年齢別について、全年代で「まあ改善したと思う」が最も高くなっています。

地区別について、全地区で「まあ改善したと思う」が最も高くなっています。



3. 人口減少対策について

問 20 あなたは、各務原市の人口が減少していくことについて、どのように思いますか。

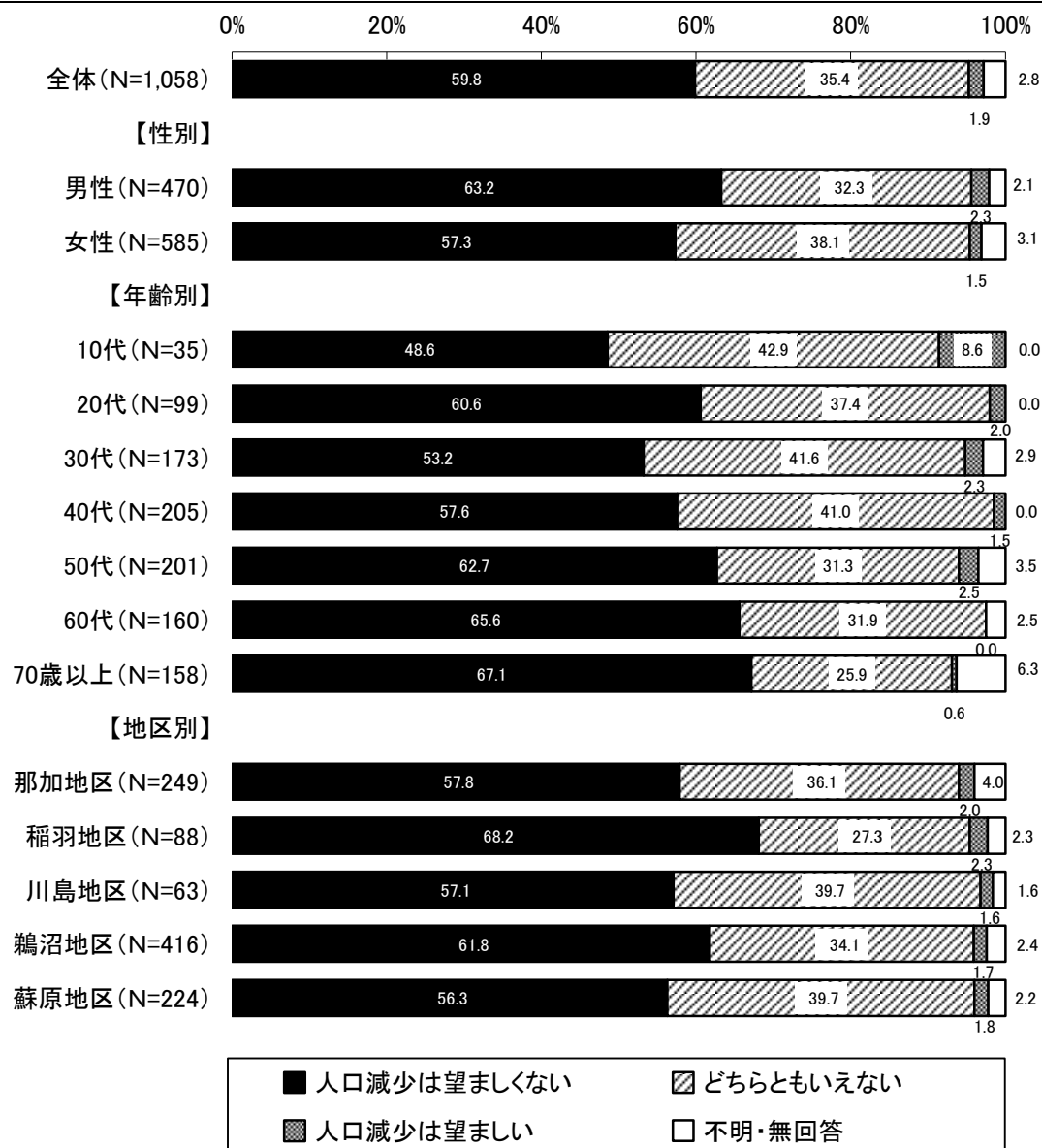
(単数回答)

各務原市の人口減少について、「人口減少は望ましくない」が 59.8%で最も高く、次いで「どちらともいえない」が 35.4%となっています。

性別について、男女ともに「人口減少は望ましくない」が最も高くなっています。

年齢別について、全年代で「人口減少は望ましくない」が最も高くなっています。

地区別について、稲羽地区の「人口減少は望ましくない」が他地区と比べ高くなっています。



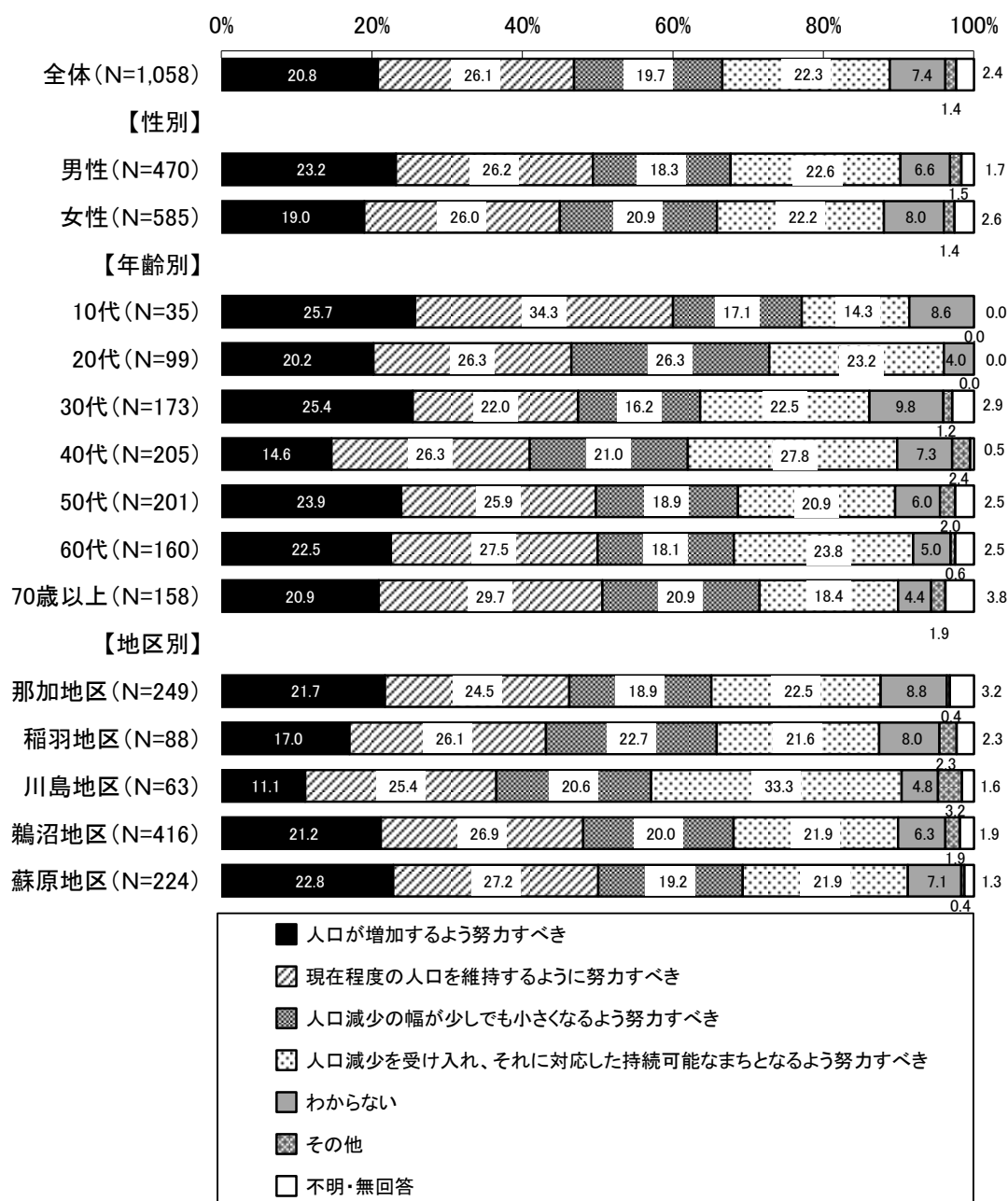
問 21 人口の減少に対して、市はどのように取り組むべきだと思いますか。(単数回答)

各務原市の人口減少に対する取り組みについて、「現在程度の人口を維持するように努力すべき」が26.1%で最も高く、次いで「人口減少を受け入れ、それに対応した持続可能なまちとなるよう努力すべき」が22.3%となっています。

性別について、男女とも「現在程度の人口を維持するように努力すべき」が最も高くなっています。

年齢別について、40代は「人口減少を受け入れ、それに対応した持続可能なまちとなるよう努力すべき」が27.8%と最も高くなっています。

地区別について、川島地区の「人口減少を受け入れ、それに対応した持続可能なまちとなるよう努力すべき」が他地区と比べ高くなっています。



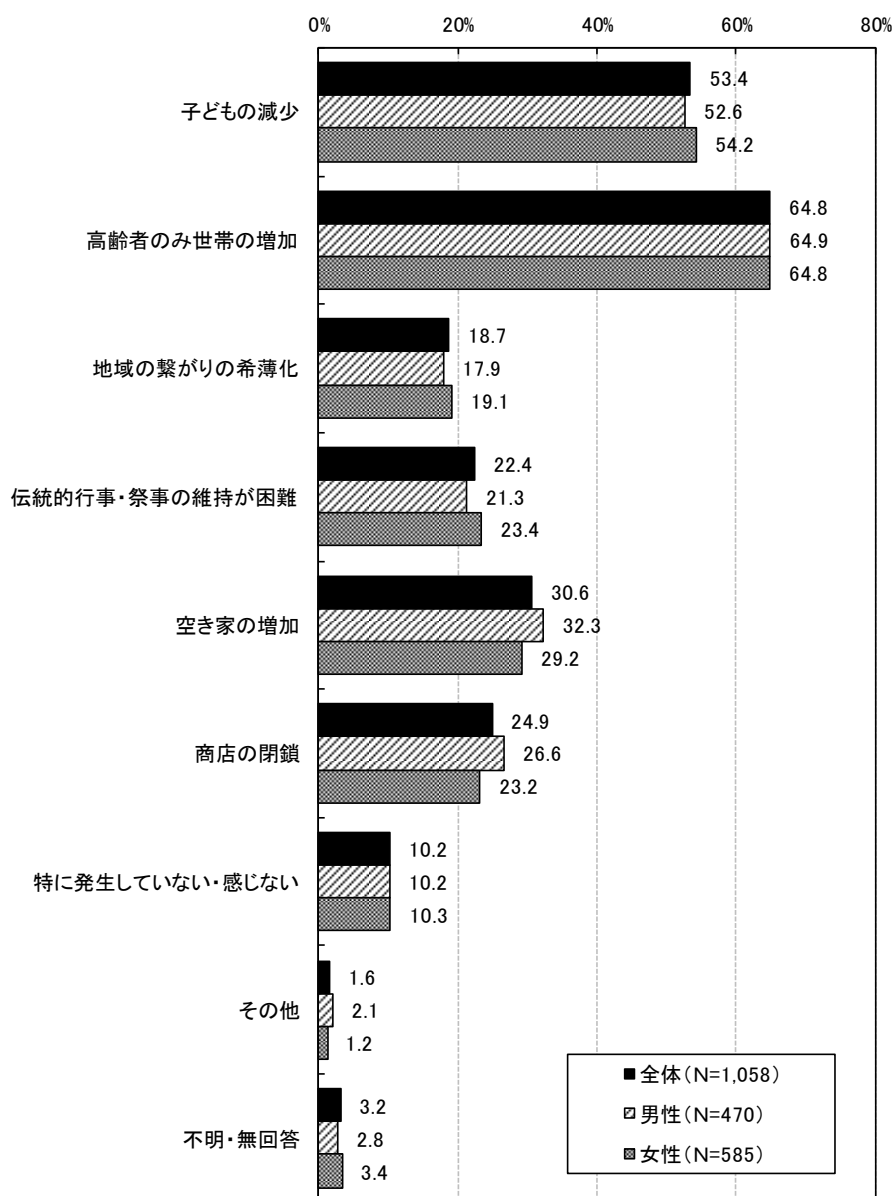
問 22 あなたがお住まいの地域で、人口減少や少子高齢化の影響が出ている(と感じる)ことはありますか。(複数回答)

地域での人口減少や少子高齢化の影響が出ていることについて、「高齢者のみ世帯の増加」が 64.8%で最も高く、次いで「子どもの減少」が 53.4%、「空き家の増加」が 30.6%となっています。

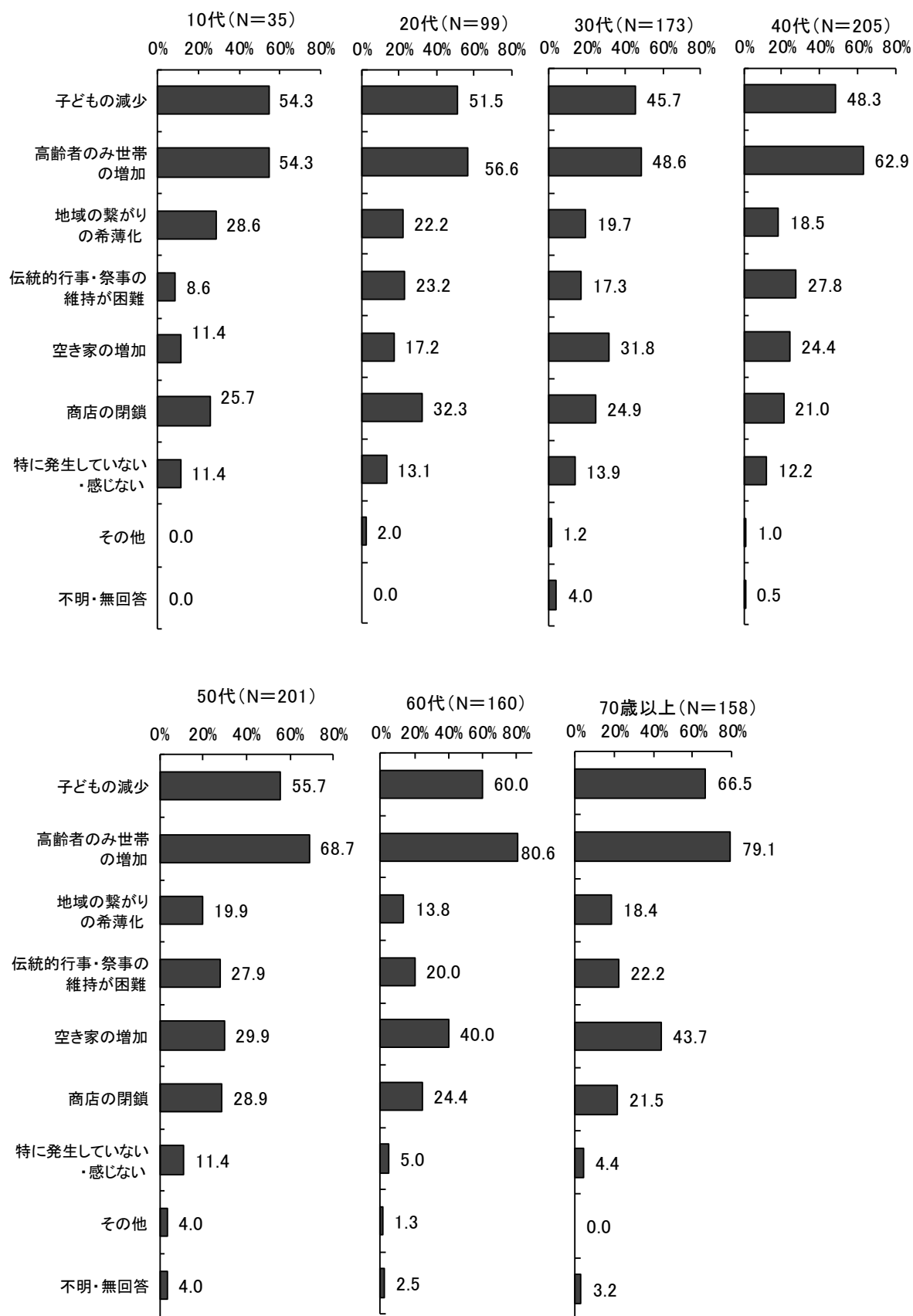
性別について、男女ともに「高齢者のみ世帯の増加」が最も高くなっています。

年齢別について、全年代で「高齢者のみ世帯の増加」が最も高くなっています。また、20代と50代で「商店の閉鎖」が、40代と50代で「伝統的行事・祭事の維持が困難」がやや高くなっています。

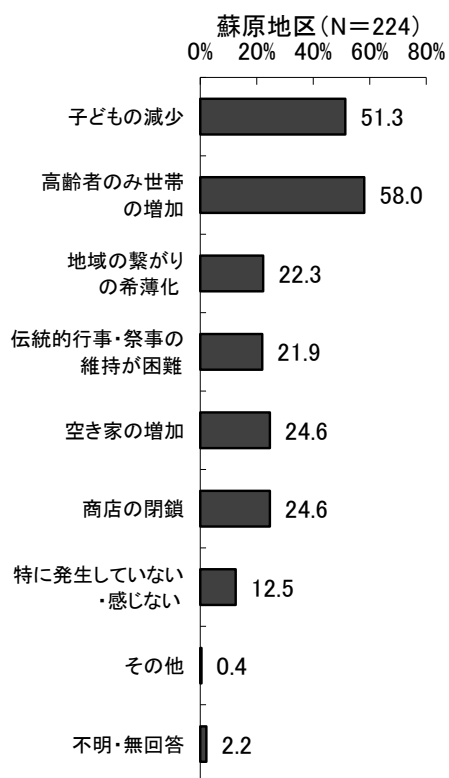
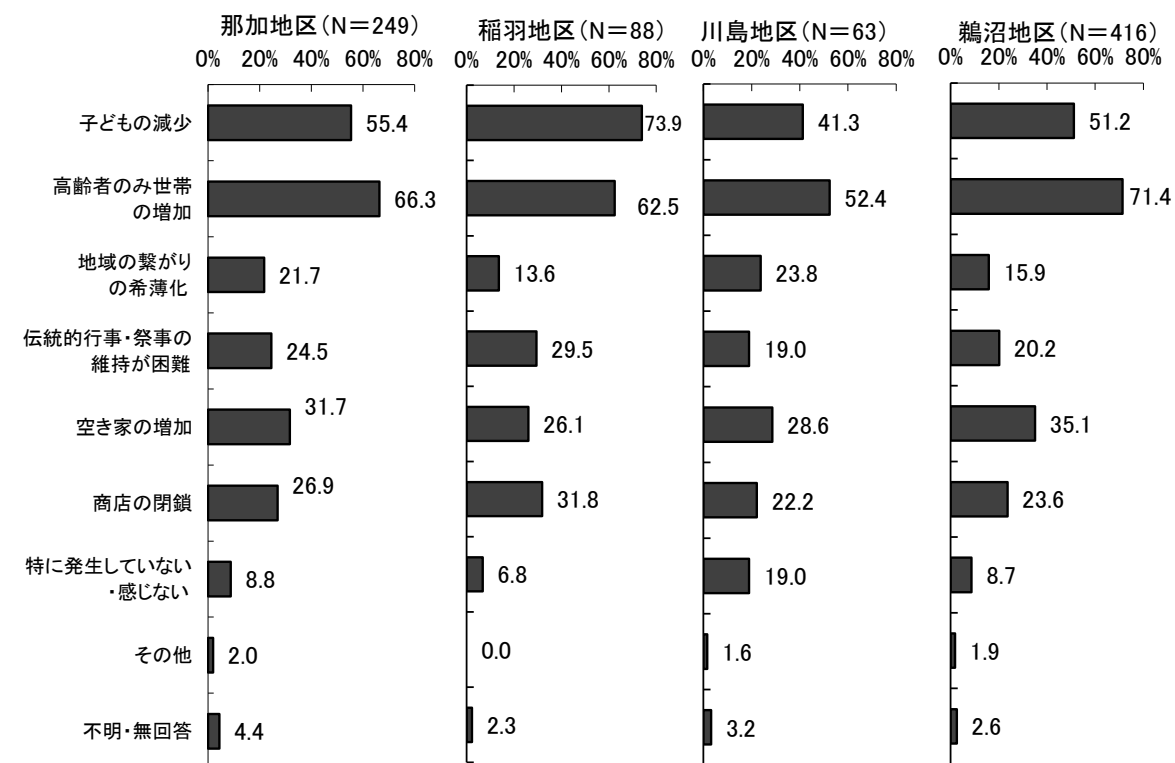
地区別について、稲羽地区で「子どもの減少」が最も高く、その他の地区では「高齢者のみ世帯の増加」が最も高くなっています。



【年齢別】



【地区別】



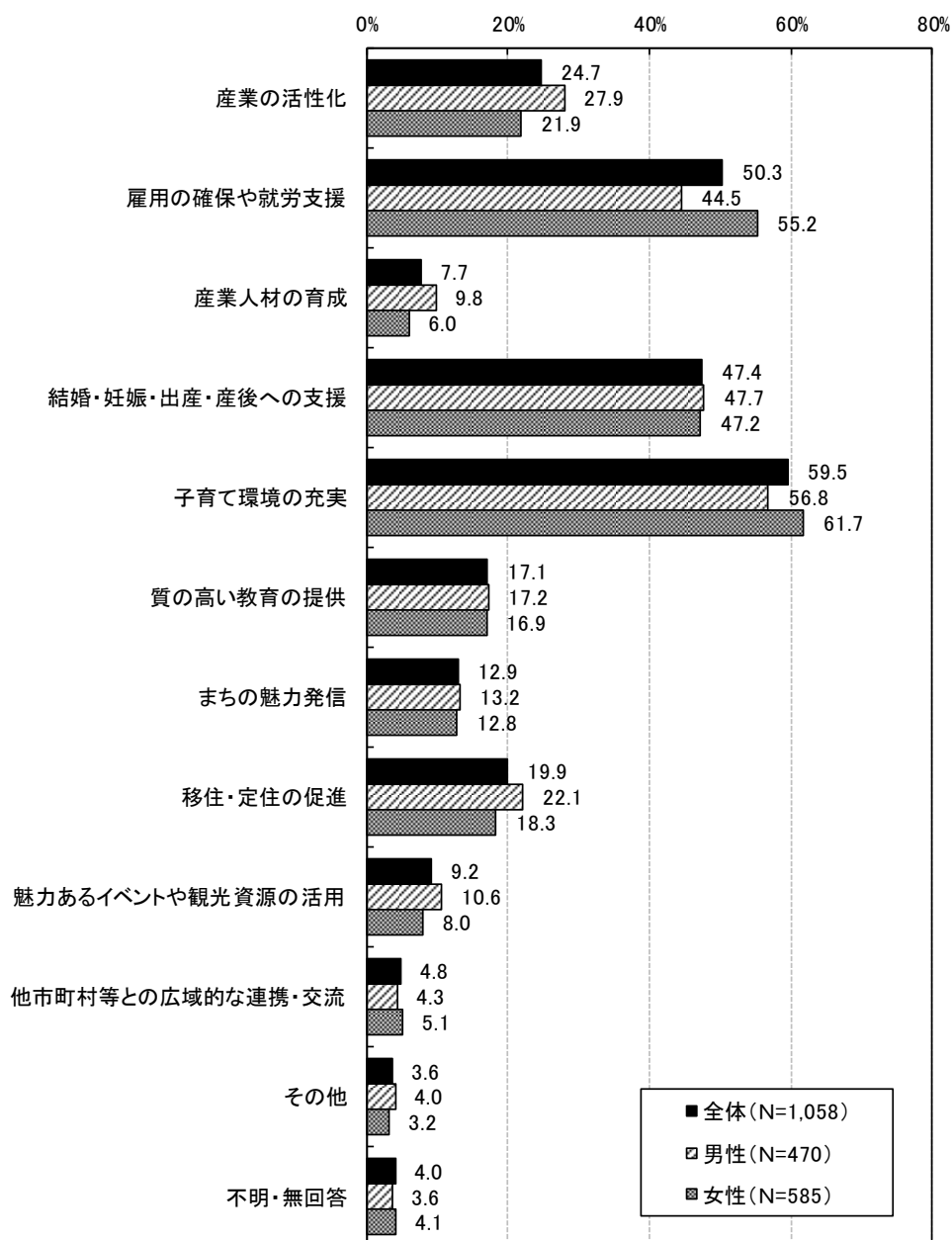
問 23 市では、人口減少対策として、＜産業・雇用＞、＜子育て・教育＞、＜魅力向上＞を柱とした取り組みを進めています。あなたは、人口減少対策としてどのような施策が有効だと思いますか。(3つまで複数回答)

各務原市の人口減少対策について、「子育て環境の充実」が 59.5%と最も高く、次いで「雇用の確保や就労支援」が 50.3%、「結婚・妊娠・出産・産後への支援」が 47.4%となっています。

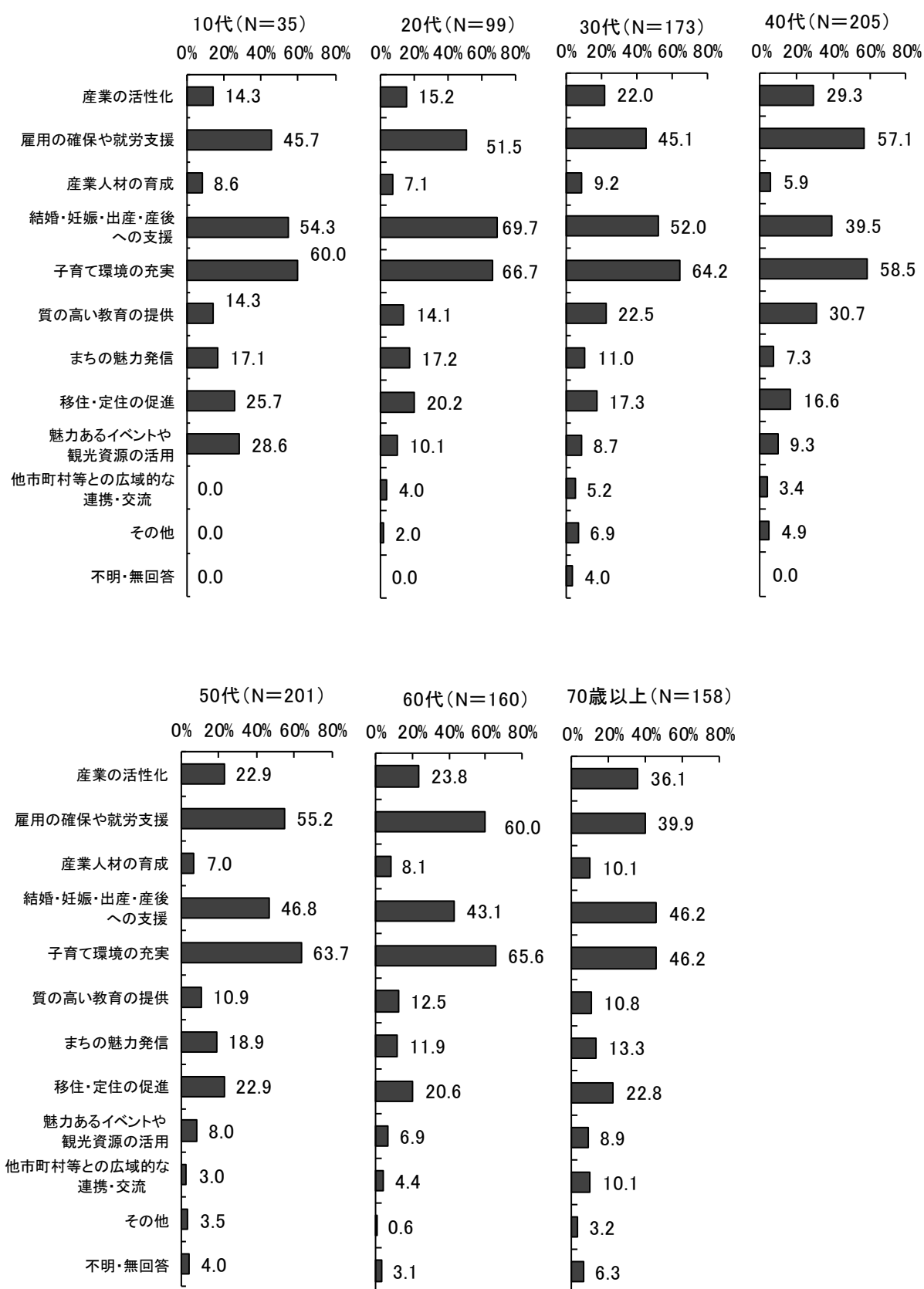
性別について、男女とも「子育て環境の充実」が最も高くなっています。

年齢別について、20代は「結婚・妊娠・出産・産後への支援」が 69.7%と最も高くなっています。

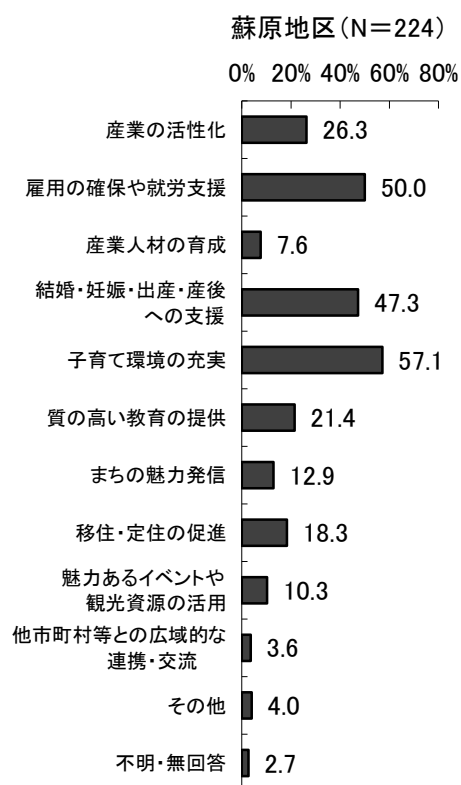
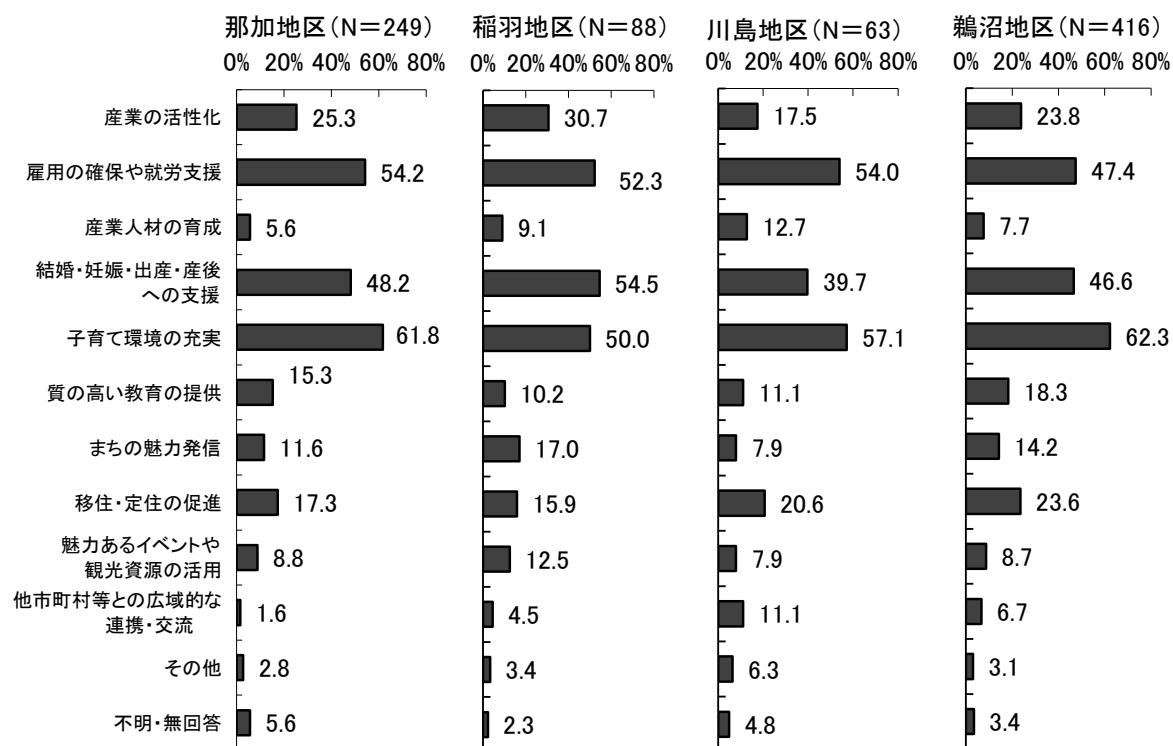
地区別について、稲羽地区は「結婚・妊娠・出産・産後への支援」が最も高く、その他の地区では「子育て環境の充実」が最も高くなっています。



【年齢別】



【地区別】



4. 協働のまちづくりについて

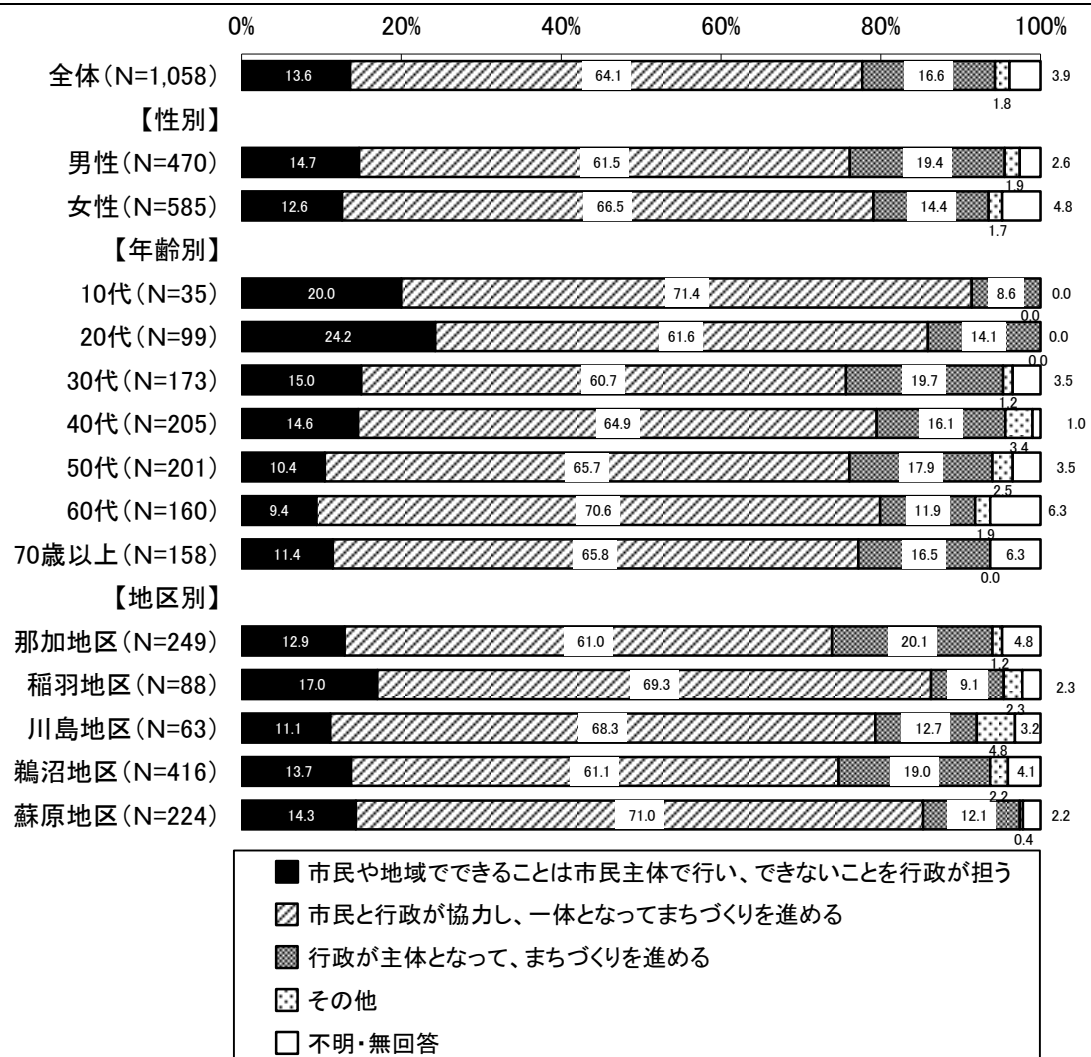
問 24 これからの各務原市のまちづくりを進めていくとき、市民と行政との関係はどうあるべきだと思いますか。(単数回答)

まちづくりを進めるときの市民と行政のあるべき関係について、「市民と行政が協力し、一体となってまちづくりを進める」が 64.1%で最も高く、次いで「行政が主体となって、まちづくりを進める」が 16.6%となっています。

性別について、男女ともに「市民と行政が協力し、一体となってまちづくりを進める」が最も高くなっています。

年齢別について、全年代で「市民と行政が協力し、一体となってまちづくりを進める」が最も高くなっています。また、10代と20代は「市民や地域でできることは市民主体で行い、できないことを行政が担う」がやや高くなっています。

地区別について、全地区で「市民と行政が協力し、一体となってまちづくりを進める」が最も高くなっています。



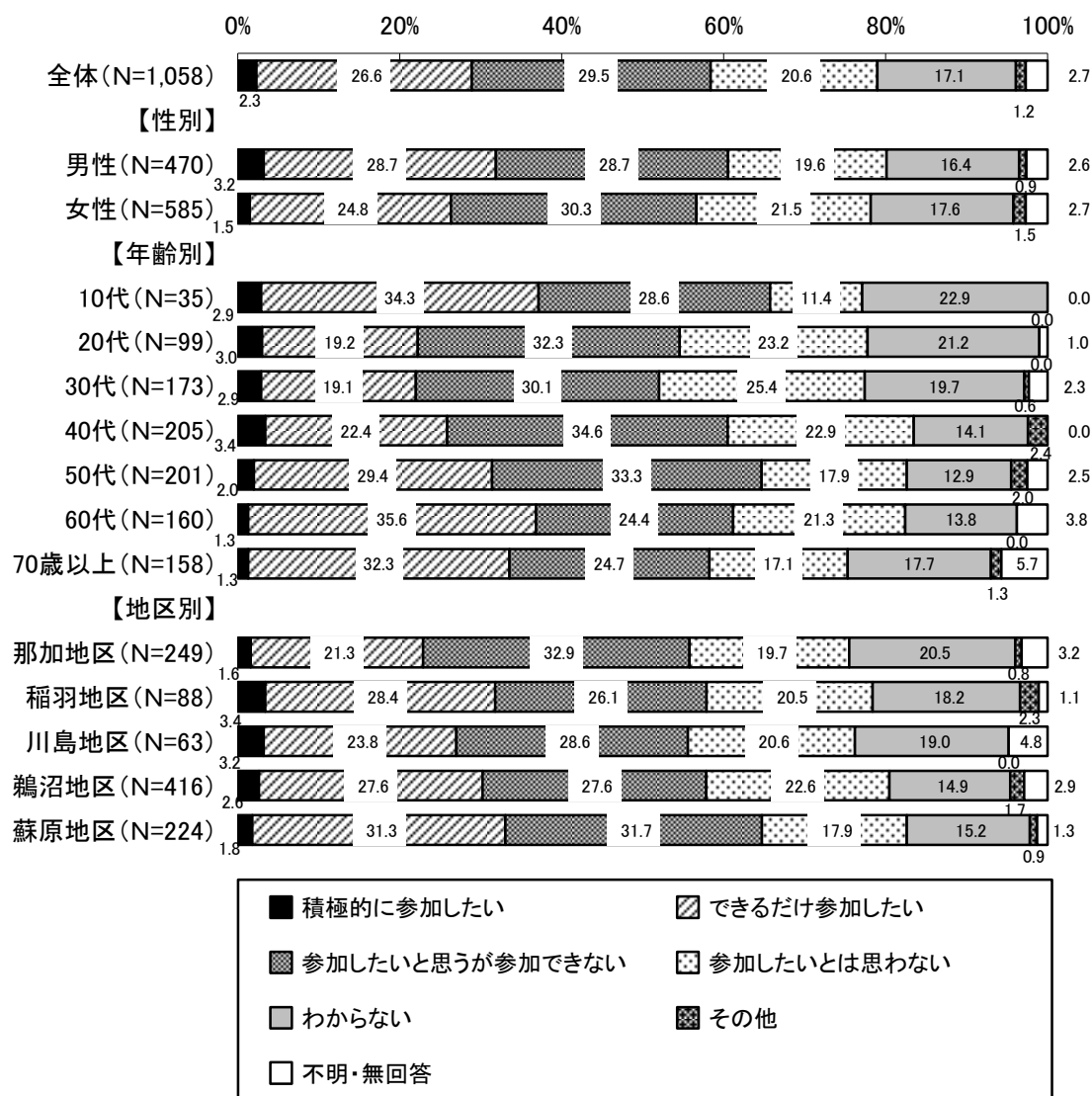
問 25 あなたは、まちづくり活動に対する市民参加の機会がある場合、参加したいと思いますか。(単数回答)

まちづくり活動に対する市民参加の機会に参加したいかについて、「参加したいと思うが参加できない」が 29.5%で最も高く、次いで「できるだけ参加したい」が 26.6%となっています。

性別について、女性は「参加したいと思うが参加できない」が最も高くなっています。また、男性は「積極的に参加したい」と「できるだけ参加したい」を合わせた『参加したい』が 31.9%と、女性より 5.6 ポイント高くなっています。

年齢別について、10代と60歳以上は「できるだけ参加したい」が、20代から50代までは「参加したいと思うが参加できない」が最も高くなっています。

地区別について、稲羽地区は「できるだけ参加したい」が、鵜沼地区は「できるだけ参加したい」「参加したいと思うが参加できない」が同率となっています。



＜問25で「1. 積極的に参加したい」または「2. できるだけ参加したい」と回答した方におたずねします。＞

問26 どのような形で参加したいですか。(複数回答)

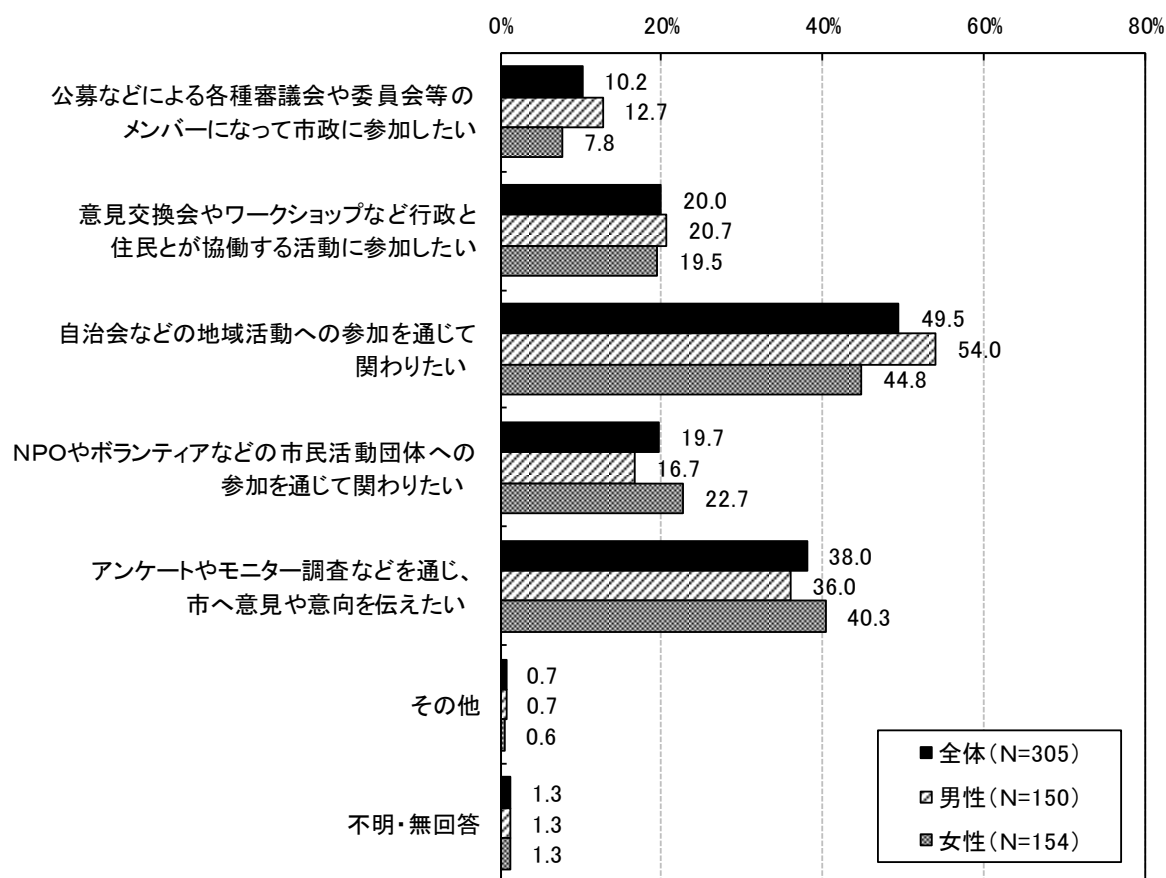
まちづくり活動に対する市民参加に関し、どのような形で参加したいかについて、「自治会などの地域活動への参加を通じて関わりたい」が49.5%で最も高く、次いで「アンケートやモニター調査などを通じ、市へ意見や意向を伝えたい」が38.0%となっています。

性別について、男女ともに「自治会などの地域活動への参加を通じて関わりたい」が最も高く、特に男性は54.0%となり、女性よりも9.2ポイント高くなっています。

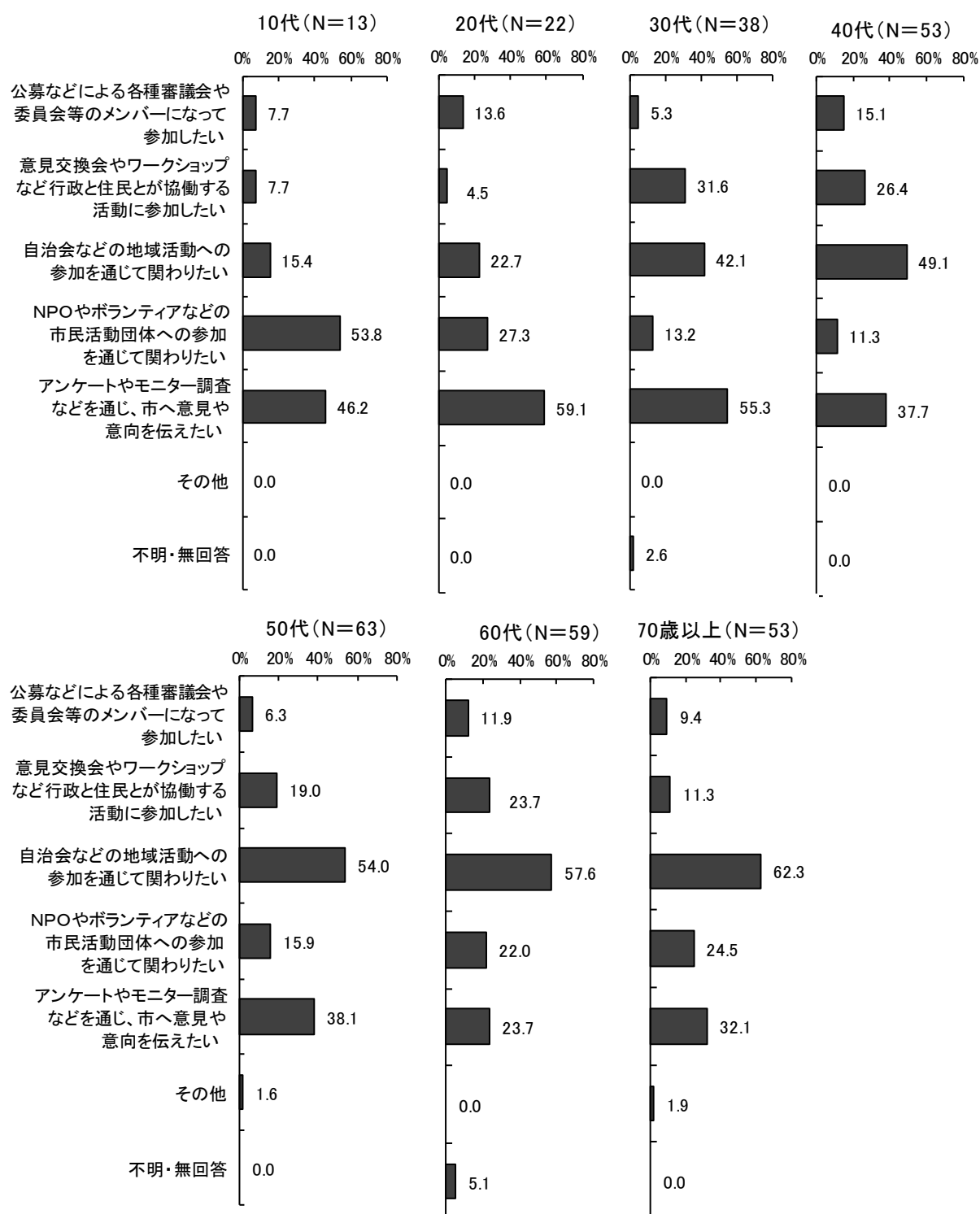
年齢別について、20代と30代は「アンケートやモニター調査などを通じ、市へ意見や意向を伝えたい」が、40歳以上は「自治会などの地域活動への参加を通じて関わりたい」が最も高くなっています。

また、30代と40代は「意見交換会やワークショップなど行政と住民が協働する活動に参加したい」がやや高くなっています。

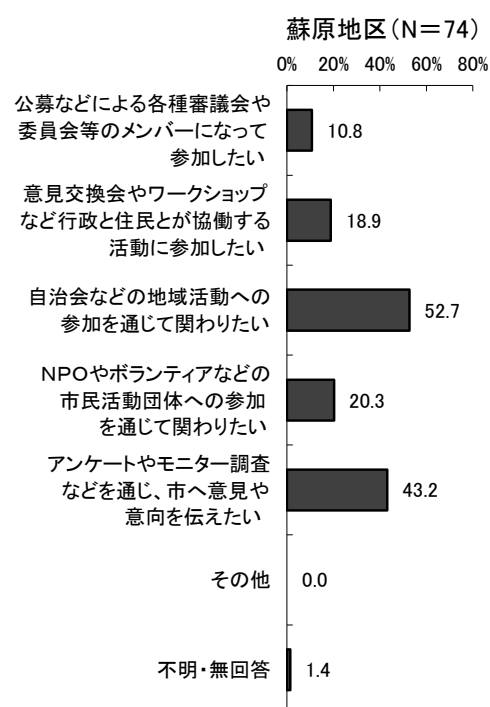
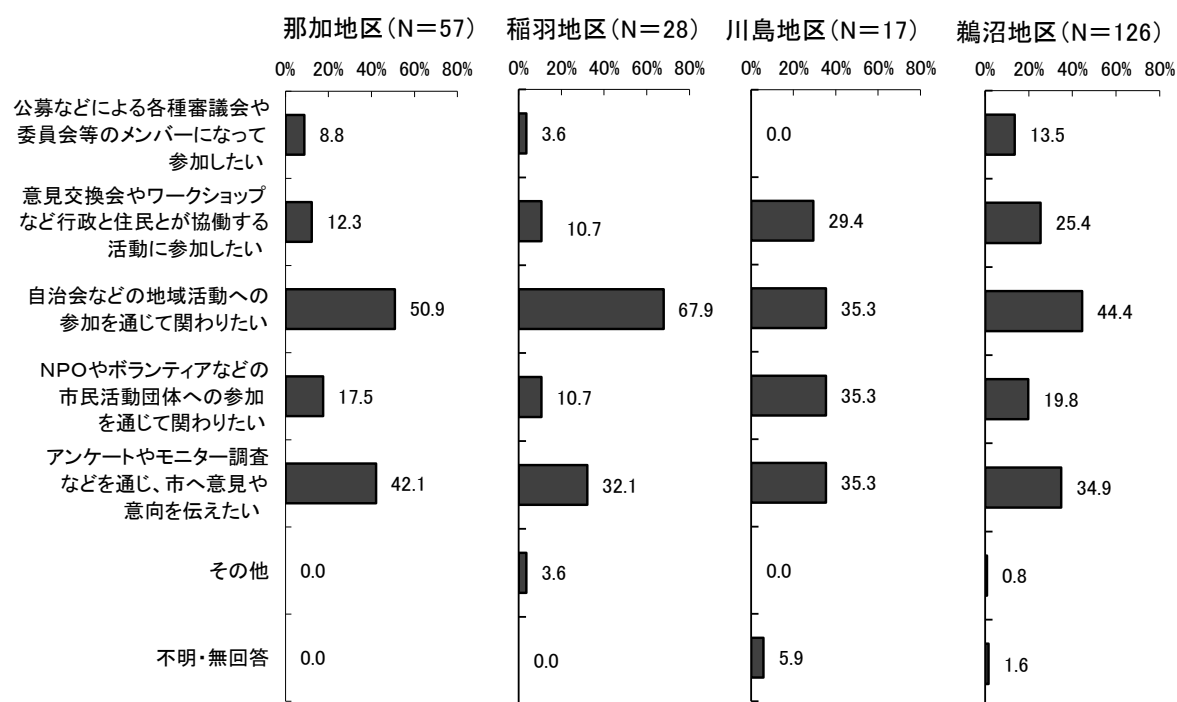
地区別について、全地区で「自治会などの地域活動への参加を通じて関わりたい」「アンケートやモニター調査などを通じ、市へ意見や意向を伝えたい」が高くなっています。



【年齢別】



【地区別】



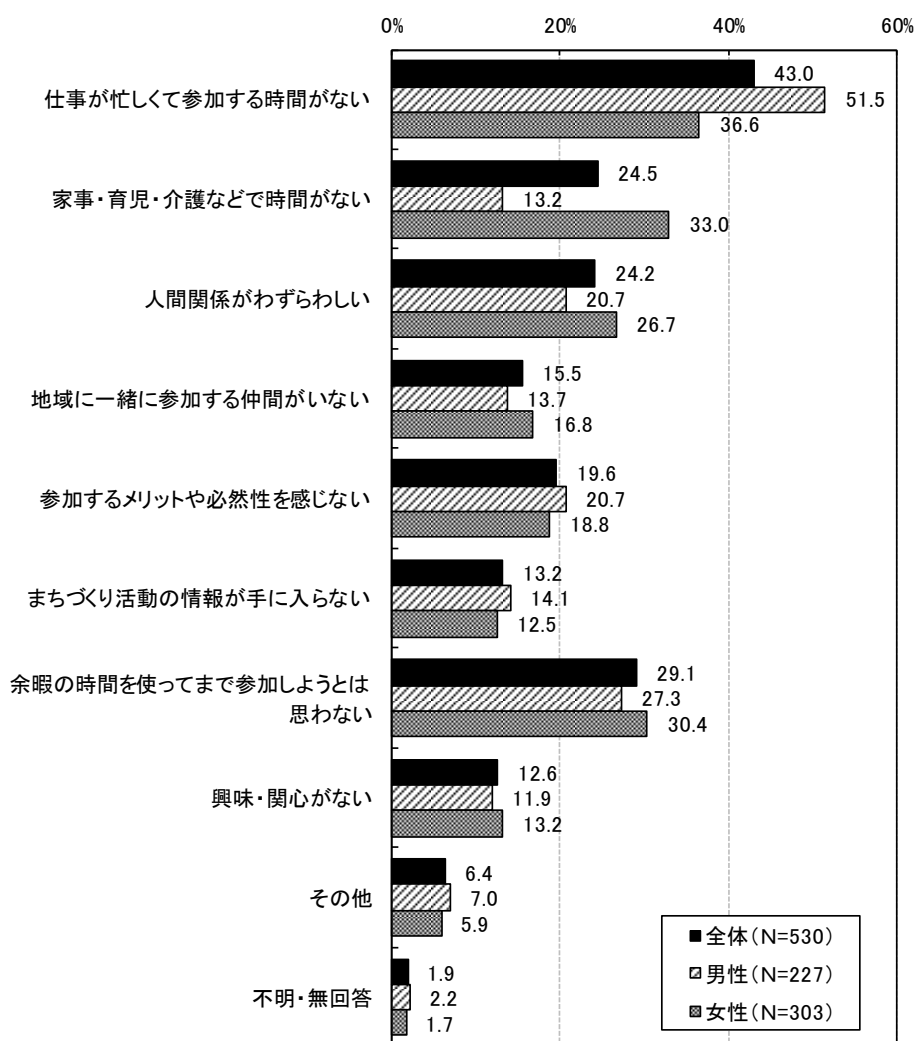
＜問25で「3. 参加したいと思うが参加できない」または「4. 参加したいとは思わない」と回答した方におたずねします。＞
 問27 参加できない、または参加したいと思わないと思われる理由は何ですか。(複数回答)

まちづくり活動に参加しない理由について、「仕事が忙しくて参加する時間がない」が43.0%で最も高く、次いで「余暇の時間を使ってまで参加しようとは思わない」が29.1%となっています。

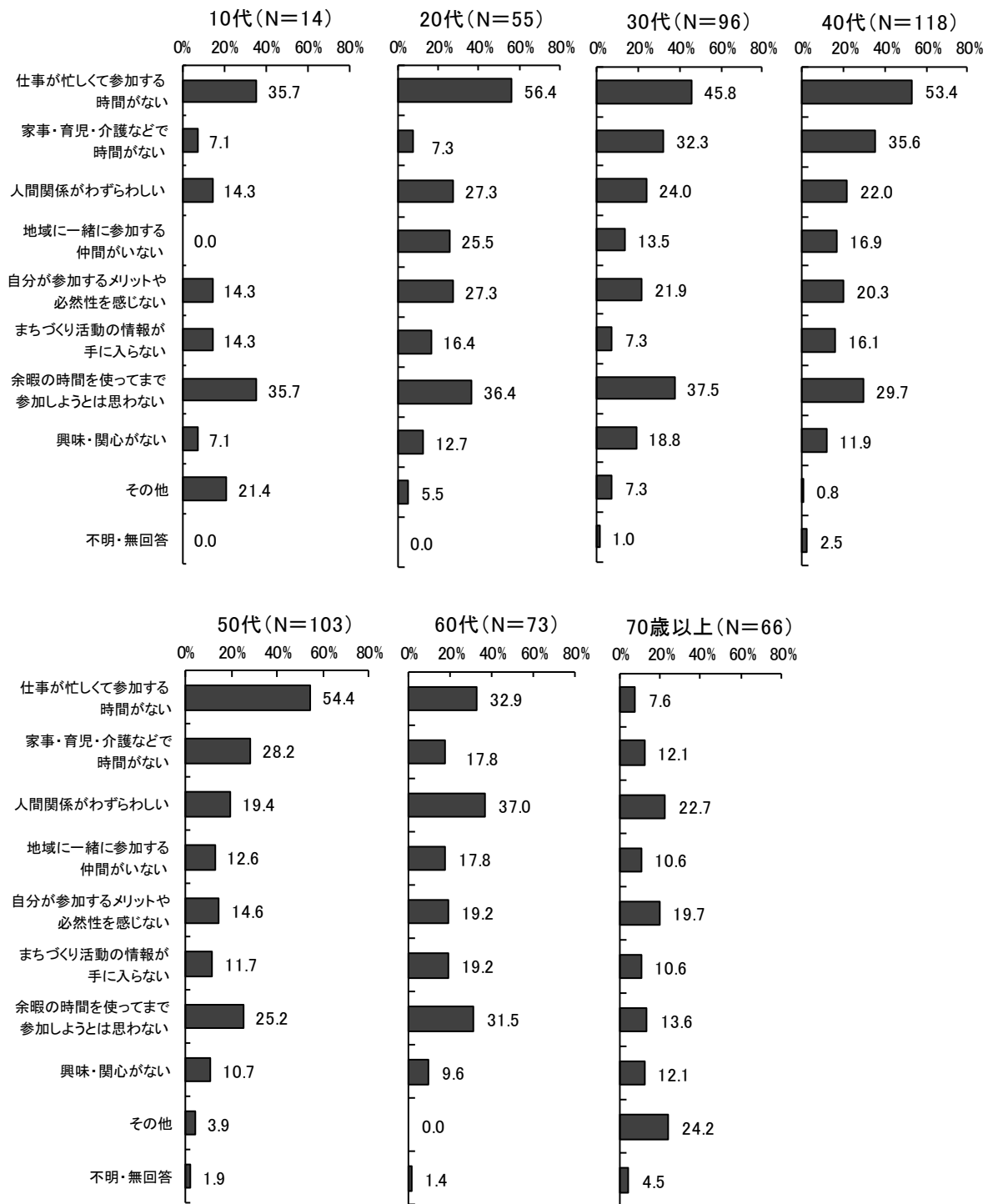
性別について、男女ともに「仕事が忙しくて参加する時間がない」が最も高く、特に男性は51.5%と女性より14.9ポイント高くなっています。

年齢別について、10代から50代は「仕事が忙しくて参加する時間がない」が、60代は「人間関係がわずらわしい」が最も高くなっています。また、10代から30代までは「余暇の時間を使ってまで参加しようとは思わない」が、40代は「家事・育児・介護などで時間がない」が高くなっています。

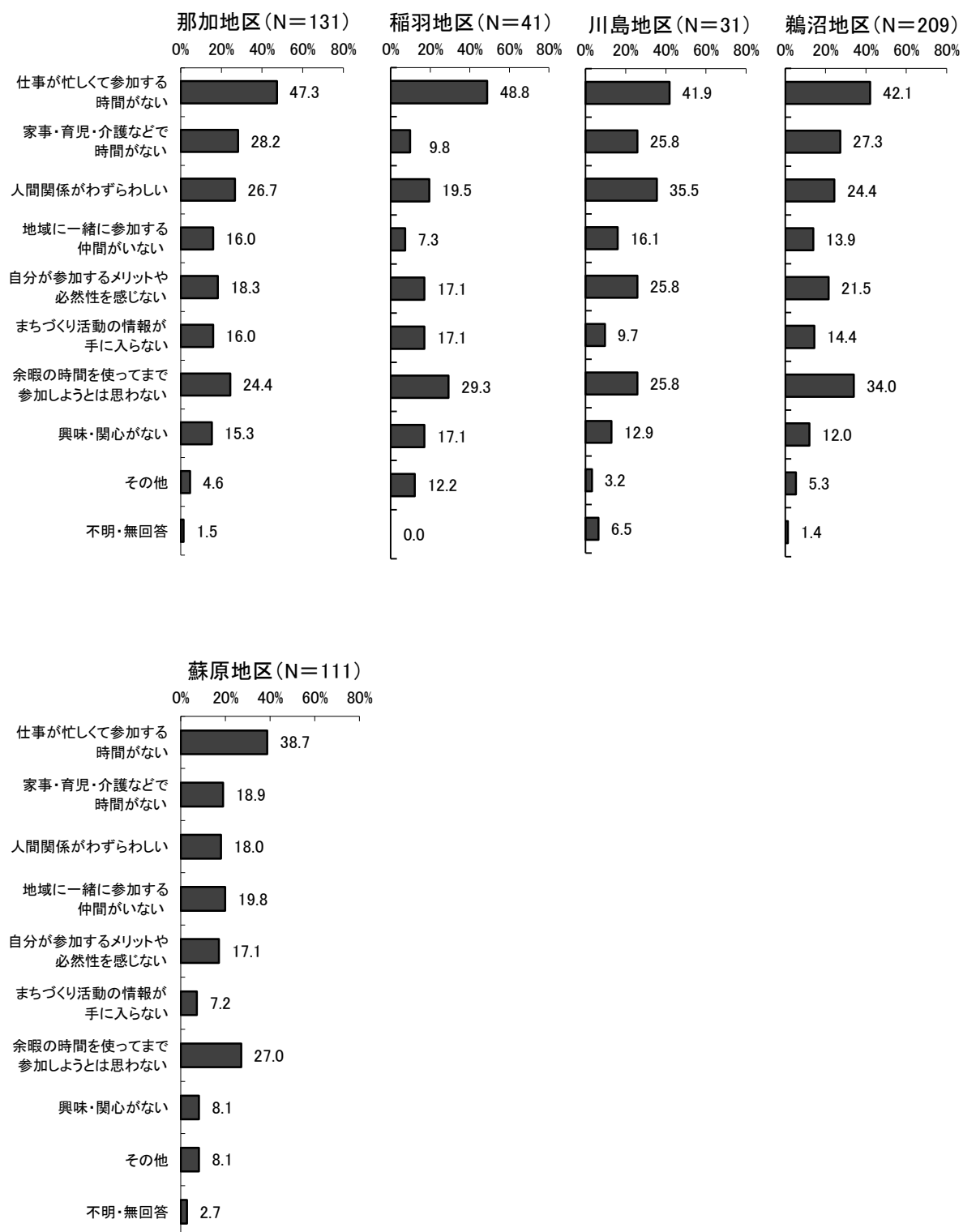
地区別について、全地区で「仕事が忙しくて参加する時間がない」が最も高くなっています。



【年齢別】



【地区別】



5. あなたの幸せについて

問 28 現在、あなたはどの程度幸せですか。「とても幸せ」を 10 点、「とても不幸」を 0 点として、何点くらいになると思いますか。(単数回答)

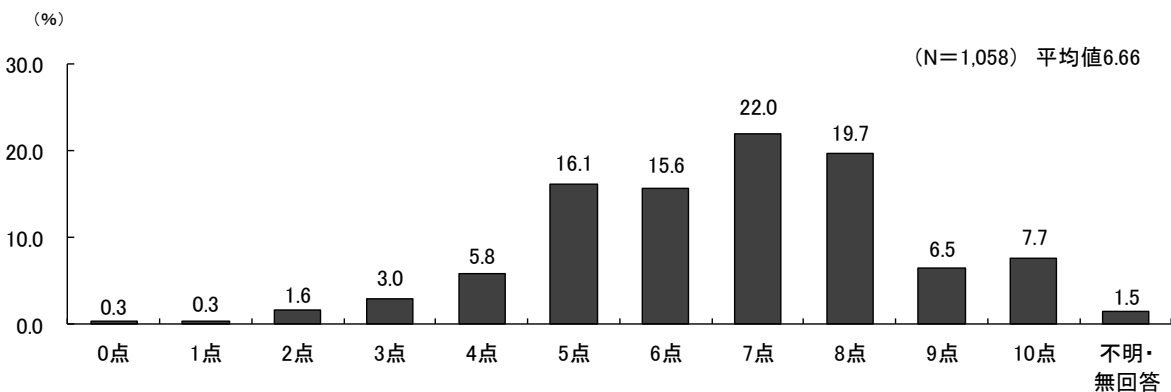
幸福度について、「7 点」が 22.0%と最も高く、次いで「8 点」が 19.7%、「5 点」が 16.1%となっています。平均値は 6.66 となっています。

性別について、男性は「7 点」が 22.6%、女性も「7 点」が 21.7%で最も高くなっています。平均値は、男性よりも女性の方が高くなっています。

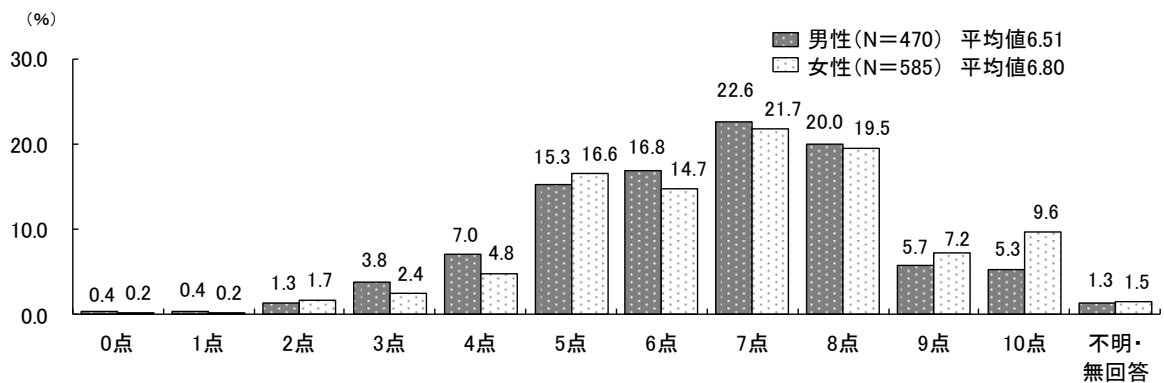
年齢別について、10 代、30 代、50 代、70 歳以上は「7 点」が最も高く、20 代は「7 点」と「8 点」が同率で最も高く、40 代と 60 代は「8 点」が最も高くなっています。平均値は、10 代が最も高く、次いで 70 歳以上、40 代となっています。

地区別について、稲羽地区、鵜沼地区、蘇原地区は全体の平均値を上回っています。

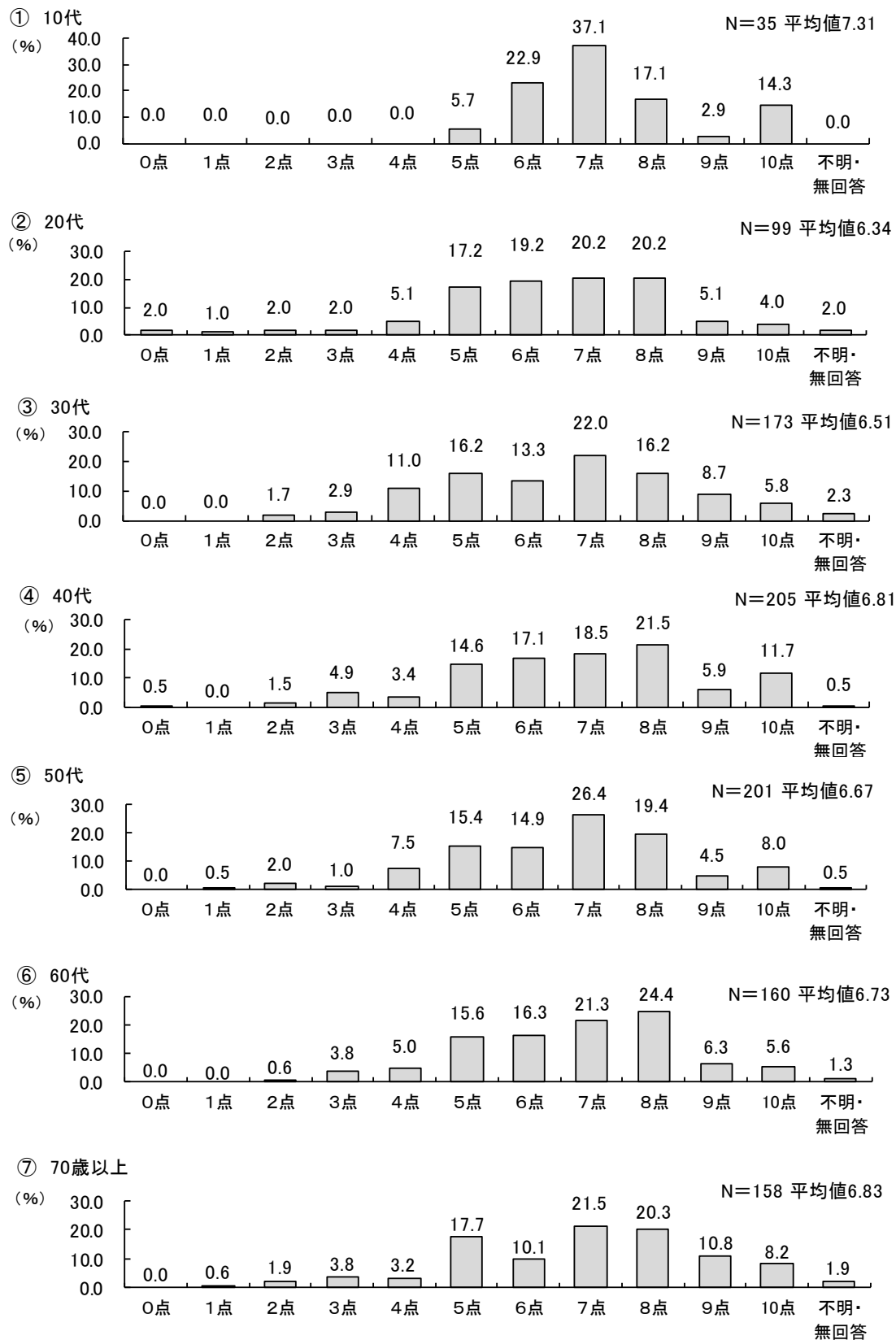
【全体】



【性別】



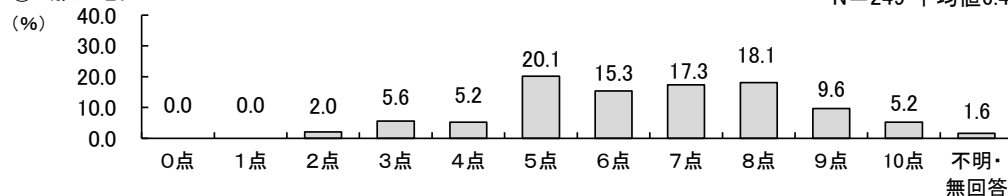
【年齢別】



【地区別】

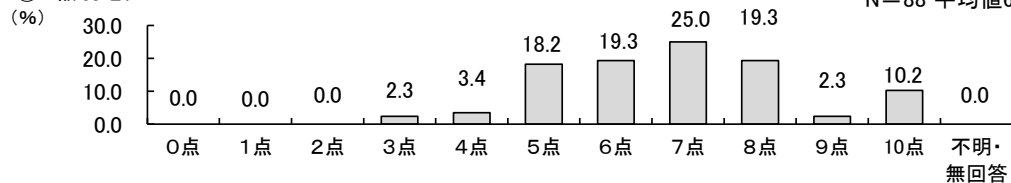
① 那加地区

N=249 平均值6.49



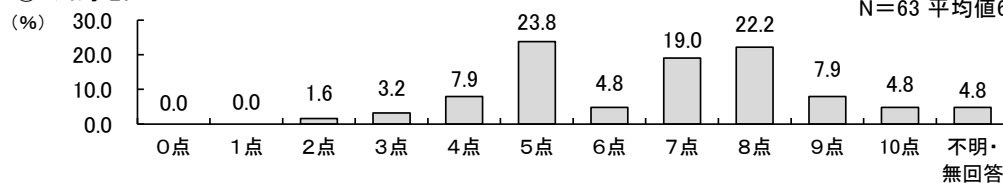
② 稲羽地区

N=88 平均值6.80



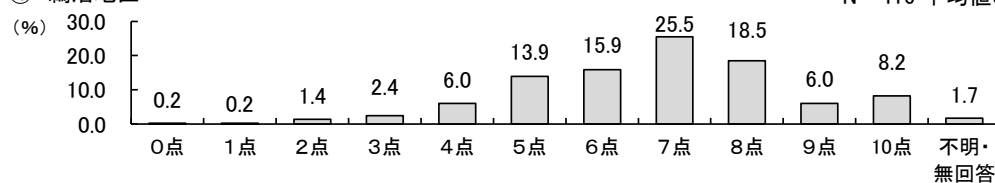
③ 川島地区

N=63 平均值6.53



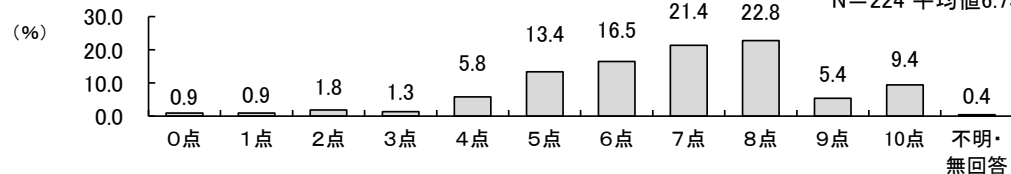
④ 鵜沼地区

N=416 平均值6.73



⑤ 蘇原地区

N=224 平均值6.75



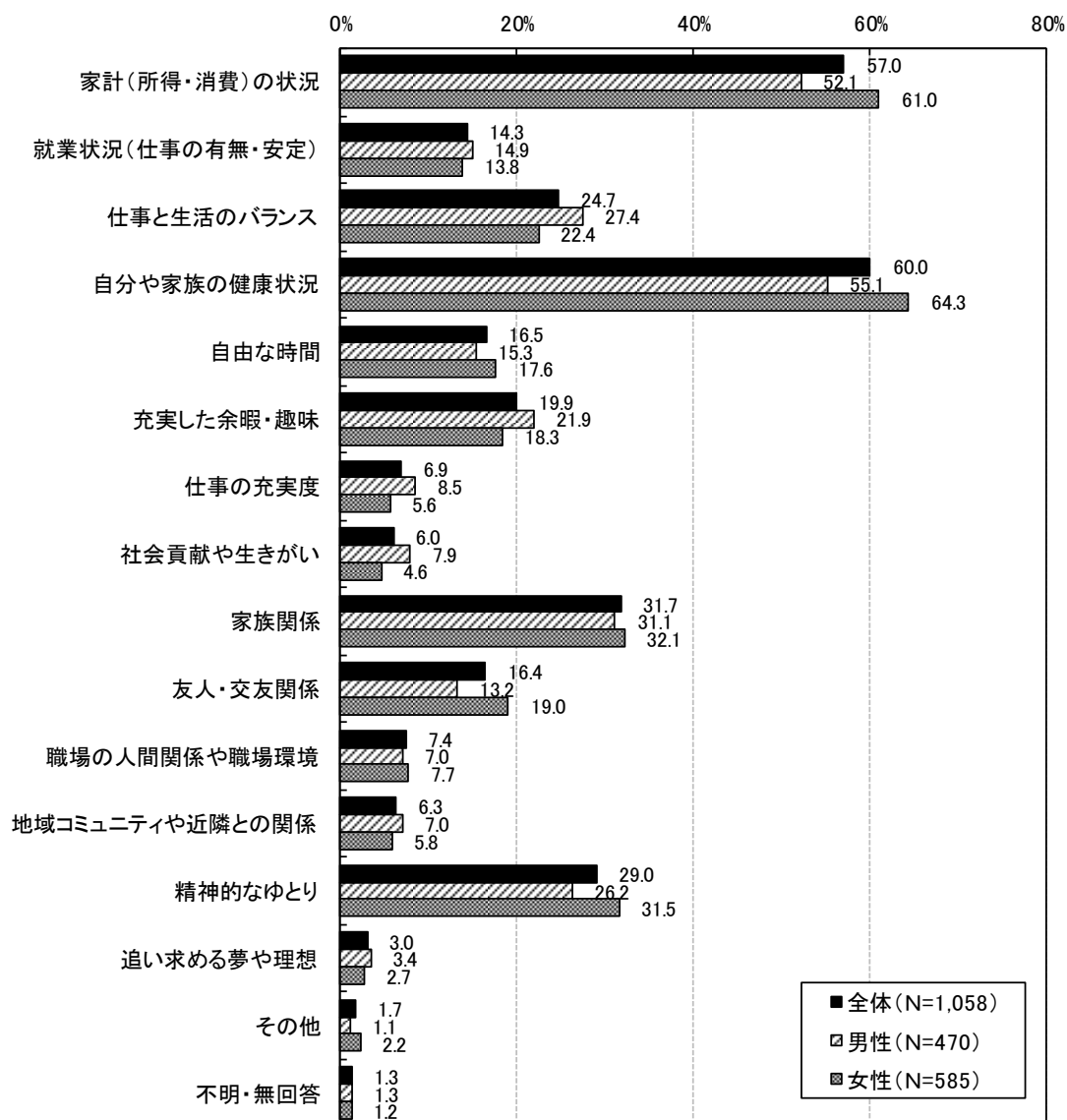
問 29 あなたが幸せであるために重要だと思うことは何ですか。(3つまで複数回答)

幸せであるために重要だと思うことについて、「自分や家族の健康状況」が60.0%で最も高く、次いで「家計（所得・消費）の状況」が57.0%となっています。

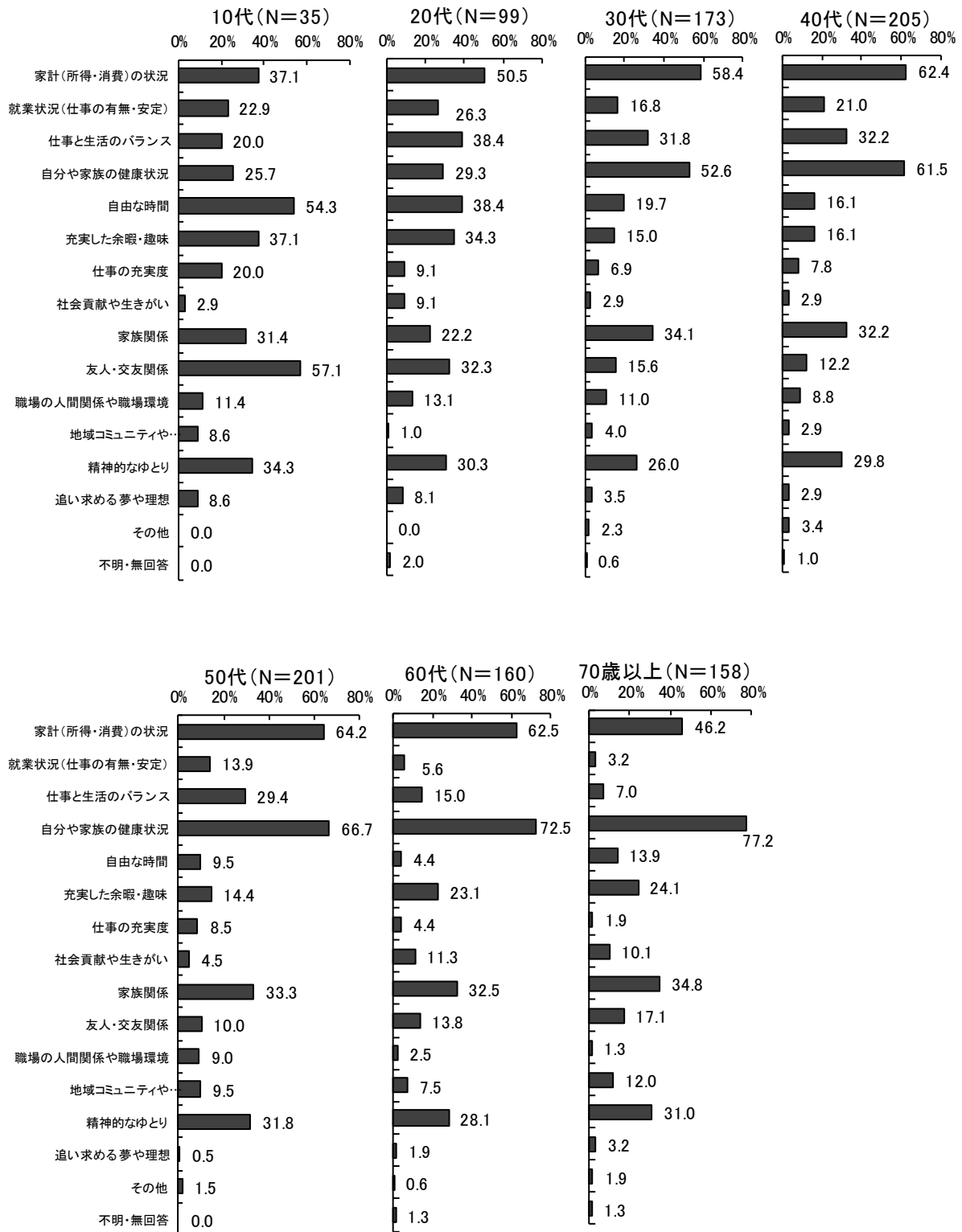
性別について、男性は「自分や家族の健康状況」が55.1%、女性は64.3%と最も高くなっています。

年齢別について、10代は「友人・交友関係」が最も高く、20代から40代は「家計（所得・消費）の状況」が、50歳以上は「自分や家族の健康状況」が最も高くなっています。

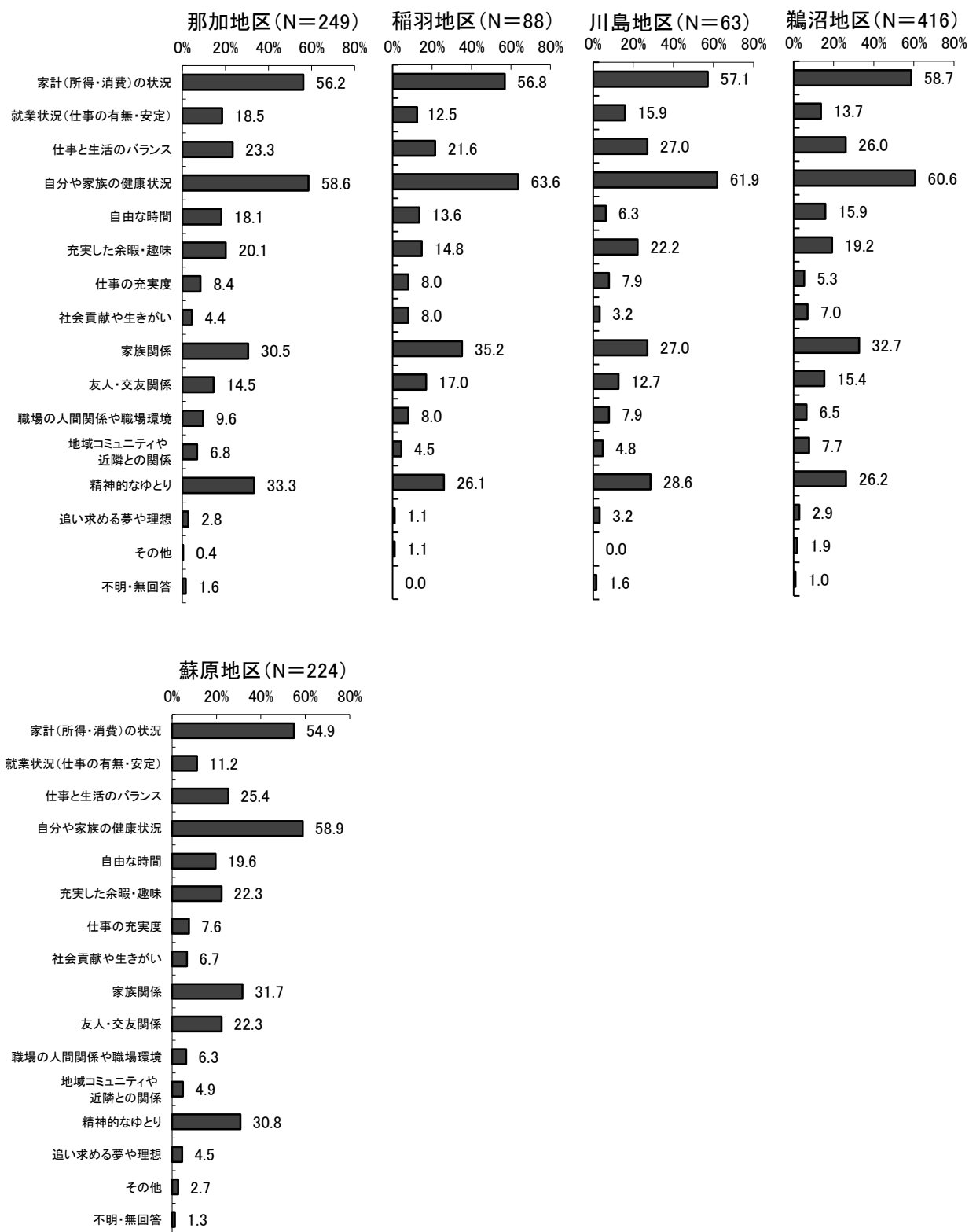
地区別について、全地区で「自分や家族の健康状況」が最も高く、次いで「家計（所得・消費）の状況」となっています。



【年齢別】



【地区別】



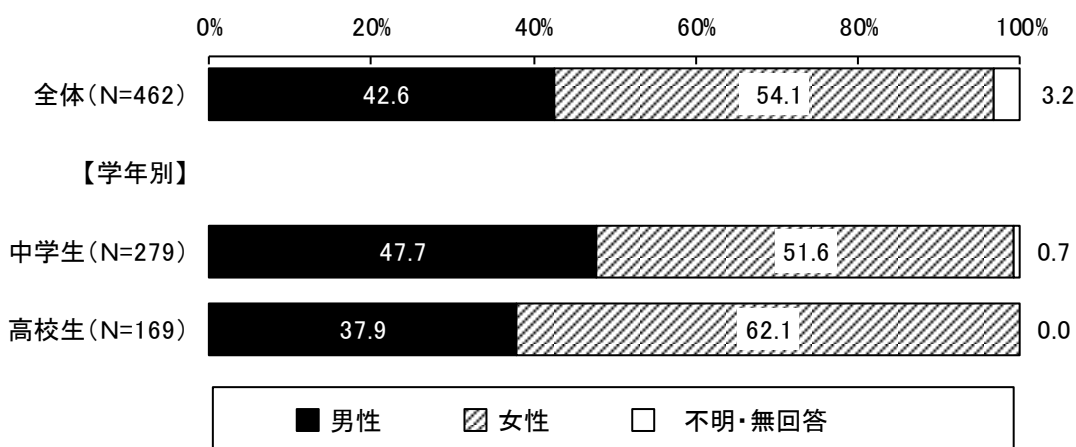
2. 中高生アンケート調査結果

1. 回答者の属性

問1 あなたの性別をお答えください。(単数回答)

性別について、「男性」が42.6%、「女性」が54.1%となっています。

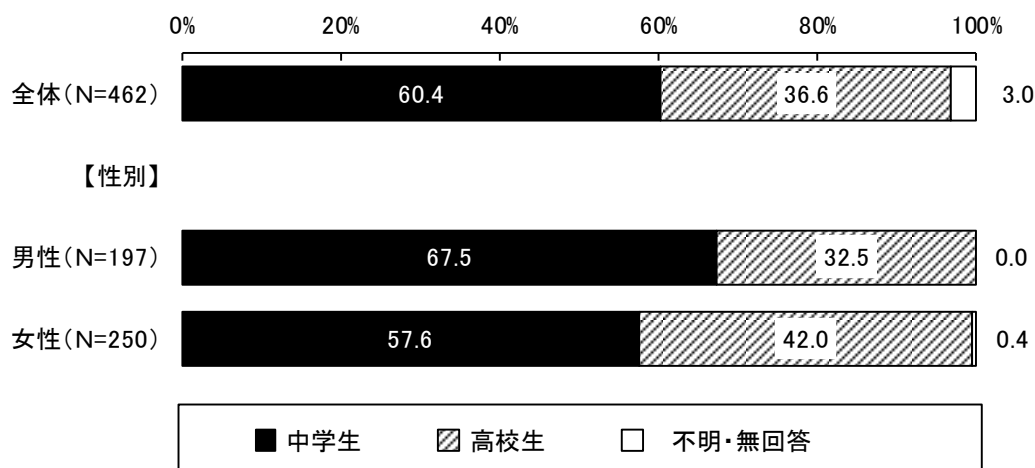
学年別について、中学生では男性が47.7%、女性が51.6%となっており、高校生では女性の62.1%が、男性の37.9%を大きく上回っています。



問2 あなたの学年をお答えください。(数量回答)

学年について、中学生が60.4%と、高校生の36.6%を大きく上回っています。

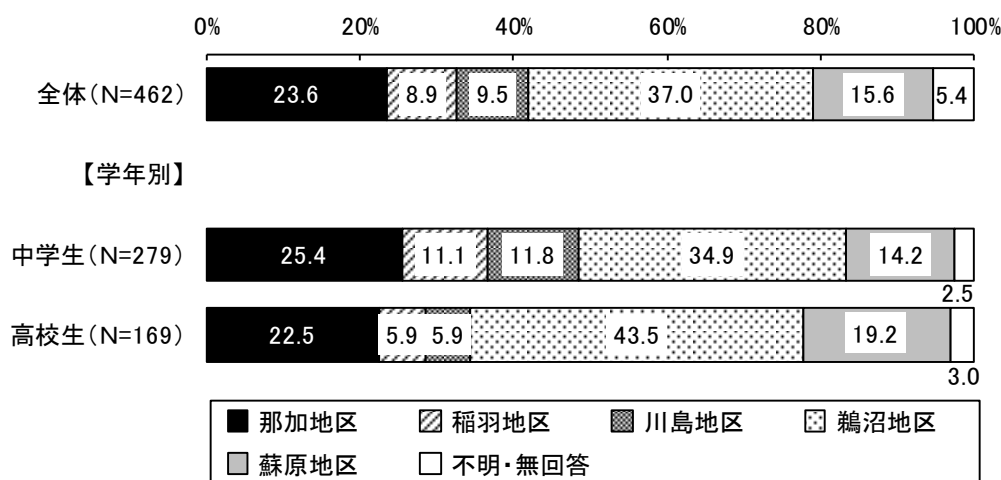
性別について、男性では中学生が67.5%、女性では57.6%となっており、いずれも高校生を大きく上回っています。



問3 あなたがお住まいの地区はどちらですか。(単数回答)

居住地の校区を地区ごとに集計したところ、「鵜沼地区」が37.0%と最も高く、次いで「那加地区」が23.6%となっています。

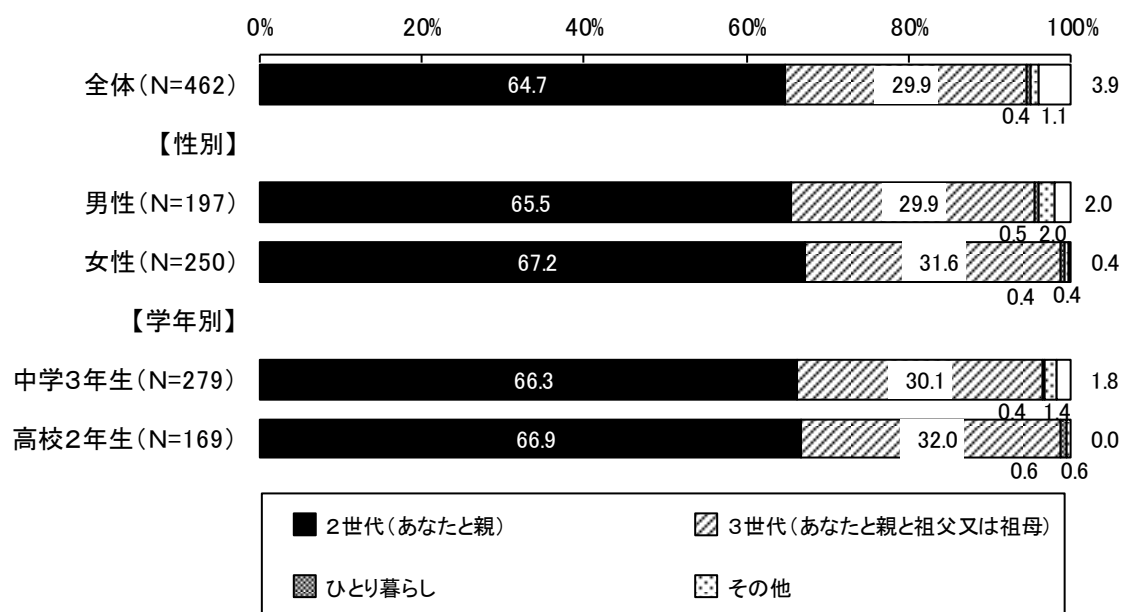
学年別について、高校生は「鵜沼地区」が43.5%で、中学生の34.9%を8.6ポイント上回っています。



※「校区」から「地区」への集約については、2. 調査の概要参照

問4 あなたのご家族はどのような構成ですか。(単数回答)

家族構成について、「2世代(あなたと親)」が64.7%と最も高く、次いで「3世代(あなたと親と祖父又は祖母)」が29.9%となっています。



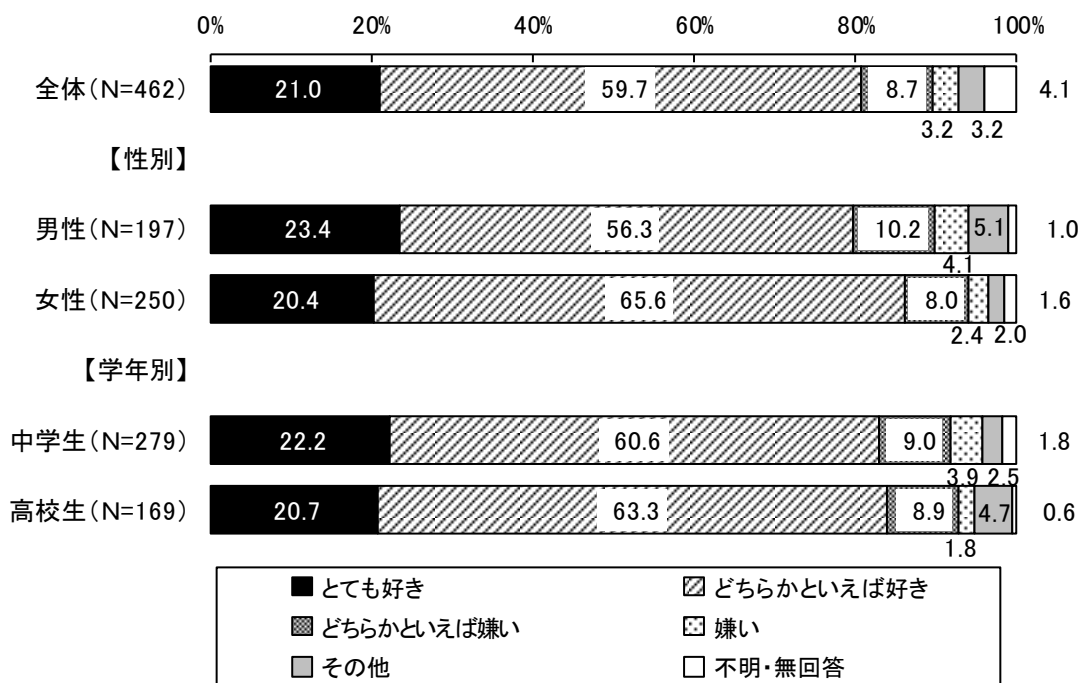
2. 各務原市への愛着や住みやすさについて

問5 あなたは各務原市のことが好きですか。(単数回答)

各務原市のことが好きかについて、「とても好き」と「どちらかといえば好き」を合わせた『好き』の割合が80.7%となっています。

性別について、女性は『好き』が86.0%で、男性の79.7%を6.3ポイント上回っています。

学年別について、高校生は『好き』が84.0%で、中学生の82.8%を1.2ポイント上回っています。



自由記述のため別途「その他・自由意見集」掲載

<問5で「1. とても好き」または「2. どちらかといえば好き」と回答した方におたずねします。>

問6 「好き」と思う理由を自由にご記入ください。

<問5で「3. どちらかといえば嫌い」または「4. 嫌い」と回答した方におたずねします。>

問7 「嫌い」と思う理由を自由にご記入ください。

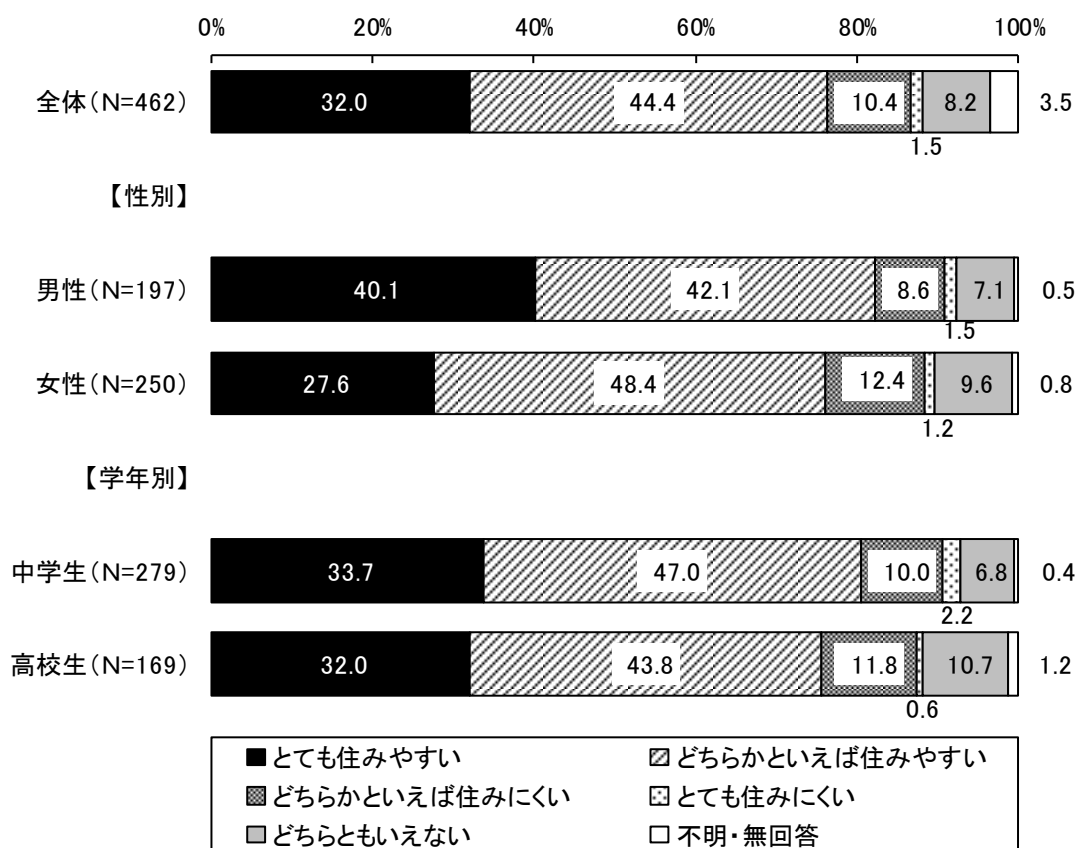
問8 あなたは、各務原市の住みやすさについてどのように感じますか。(単数回答)

【住みやすさ】

各務原市の住みやすさについて、「とても住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」を合わせた『住みやすい』の割合が76.4%となっています。

性別について、男性は『住みやすい』が82.2%で、女性の76.0%を6.2ポイント上回っています。特に男性の「とても住みやすい」は40.1%と、女性の27.6%を12.5ポイント上回っています。

学年別について、中学生は『住みやすい』が80.7%で、高校生の75.8%を4.9ポイント上回っています。

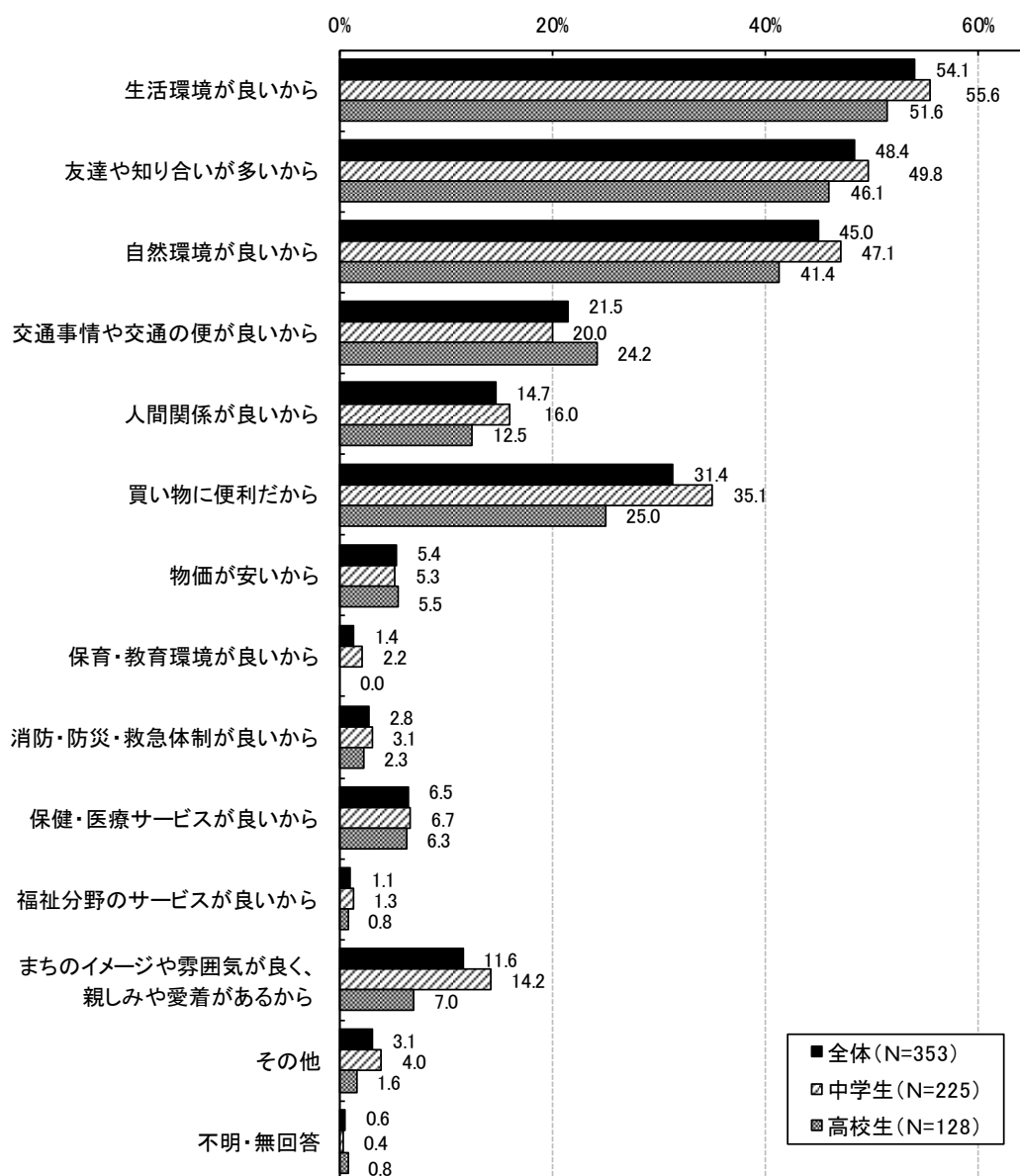


＜問8で「1. とても住みやすい」または「2. どちらかといえば住みやすい」と回答した方におたずねします。＞

問9 住みやすいと思われる理由は何ですか。(3つまで複数回答)

住みやすいと思う理由について、「生活環境が良いから」が54.1%で最も高く、次いで「友達や知り合いが多いから」が48.4%となっています。

学年別について、中学生は「生活環境が良いから」が55.6%と最も高く、高校生の51.6%を上回っています。

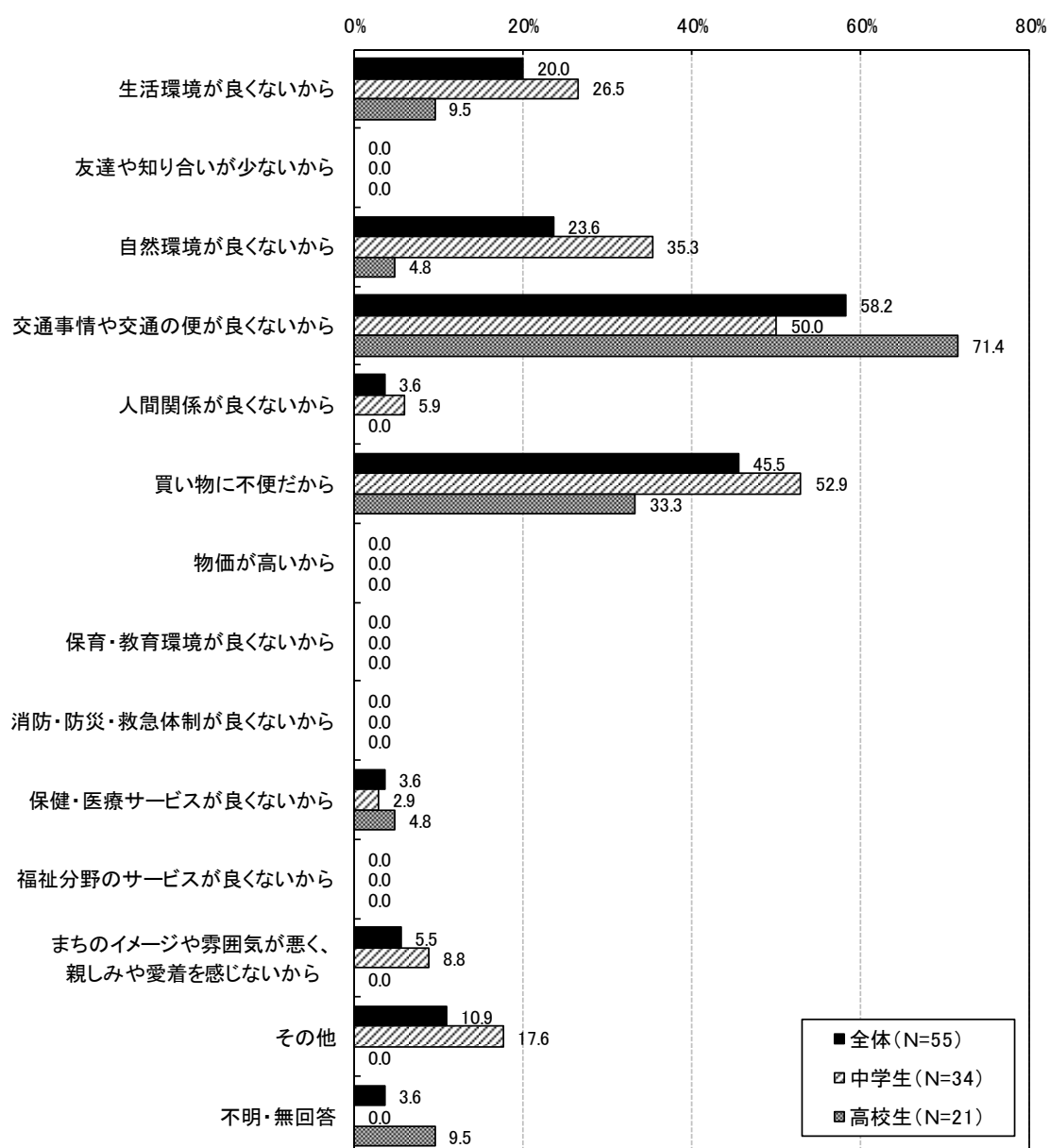


＜問8で「3. どちらかといえば住みにくい」または「4. とても住みにくい」と回答した方におたずねします。＞

問10 住みにくいと思われる理由は何ですか。(3つまで複数回答)

住みにくいと思う理由について、「交通事情や交通の便が良くないから」が58.2%で最も高く、次いで「買い物に不便だから」が45.5%となっています。

学年別について、中学生は「買い物に不便だから」が52.9%で最も高く、高校生は「交通事情や交通の便が良くないから」が71.4%で最も高くなっています。

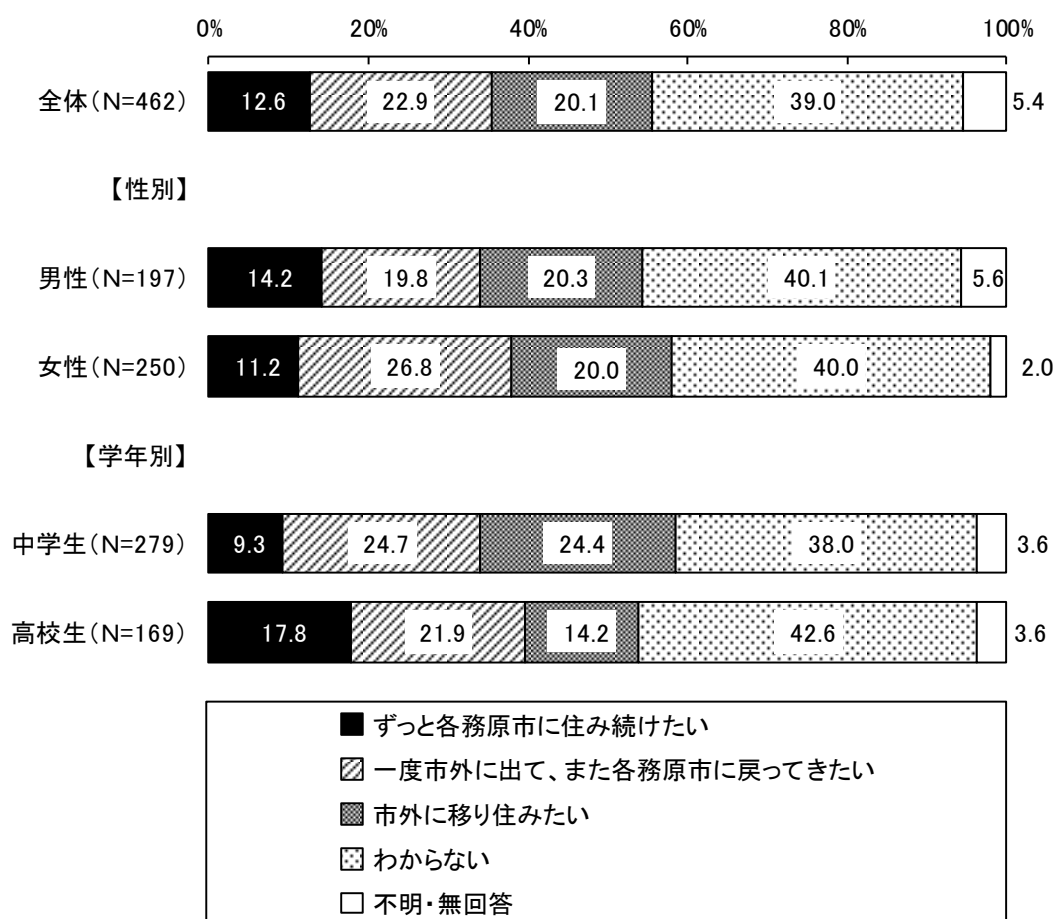


問 11 あなたは将来、各務原市に住み続けたいと思いますか。(単数回答)

将来、各務原市に住み続けたいと思うかについて、「わからない」が 39.0%と最も高く、次いで「一度市外に出て、また各務原市に戻ってきたい」が 22.9%となっています。

性別について、男性、女性ともに「わからない」がそれぞれ 40.1%、40.0%と最も高く、次いで男性は「市外に移り住みたい」が 20.3%、女性は「一度市外に出て、また各務原市に戻ってきたい」が 26.8%となっています。

学年別について、中学生、高校生ともに「わからない」が最も高く、次いで「一度市外に出て、また各務原市に戻ってきたい」となっています。また、高校生は「ずっと各務原市に住み続けたい」が 17.8%とやや高くなっています。



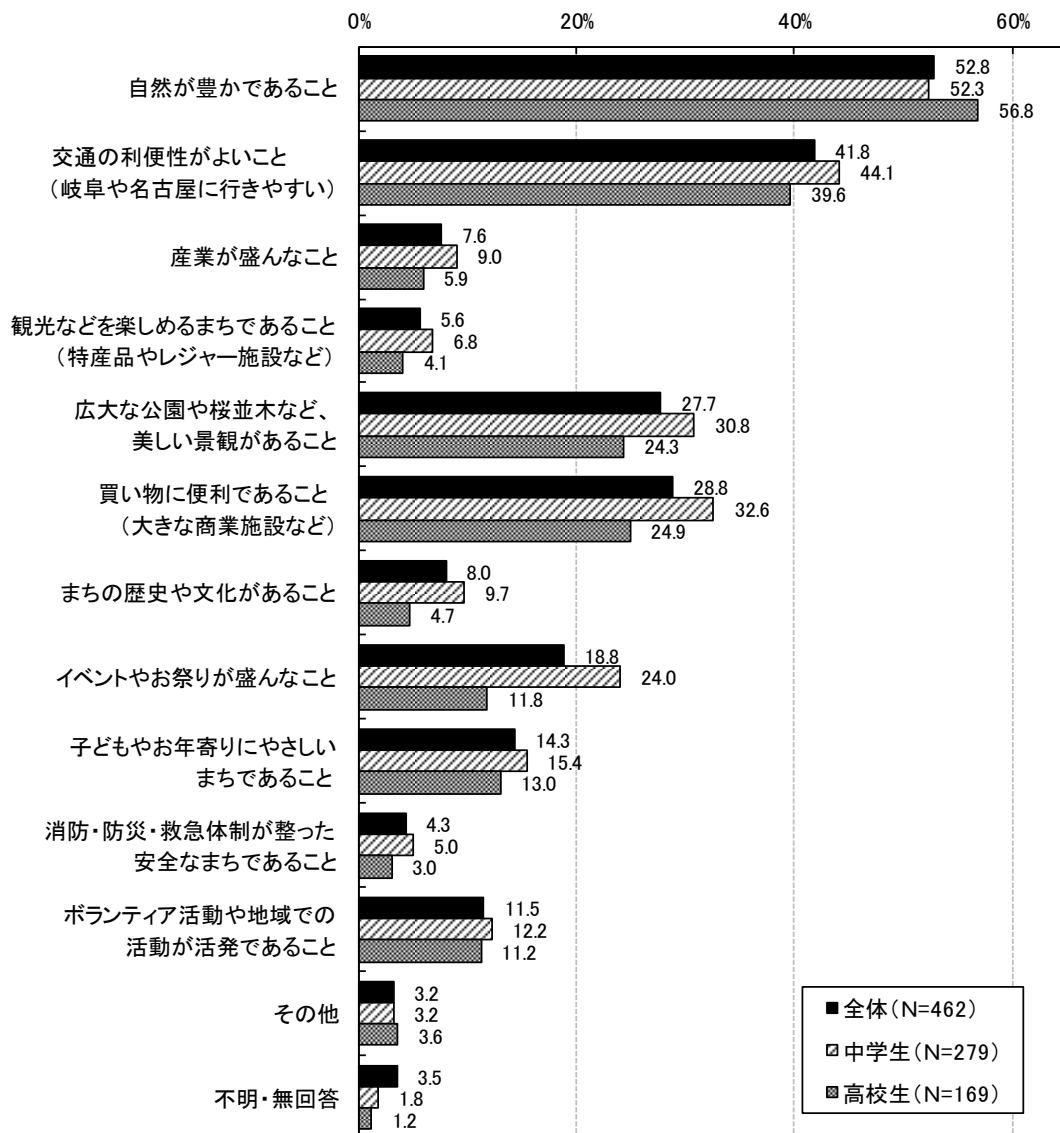
3. 各務原市のまちの魅力について

問 12 あなたが思う、各務原市のまちとしての魅力はどのようなことですか。

(3つまで複数回答)

各務原市のまちとしての魅力について、「自然が豊かであること」が 52.8%と最も高く、次いで「交通の利便性がよいこと（岐阜や名古屋に行きやすい）」が 41.8%、「買い物に便利であること（大きな商業施設など）」が 28.8%となっています。

学年別について、高校生は「自然が豊かであること」が 56.8%で最も高く、中学生の 52.3%を 4.5 ポイント上回っています。



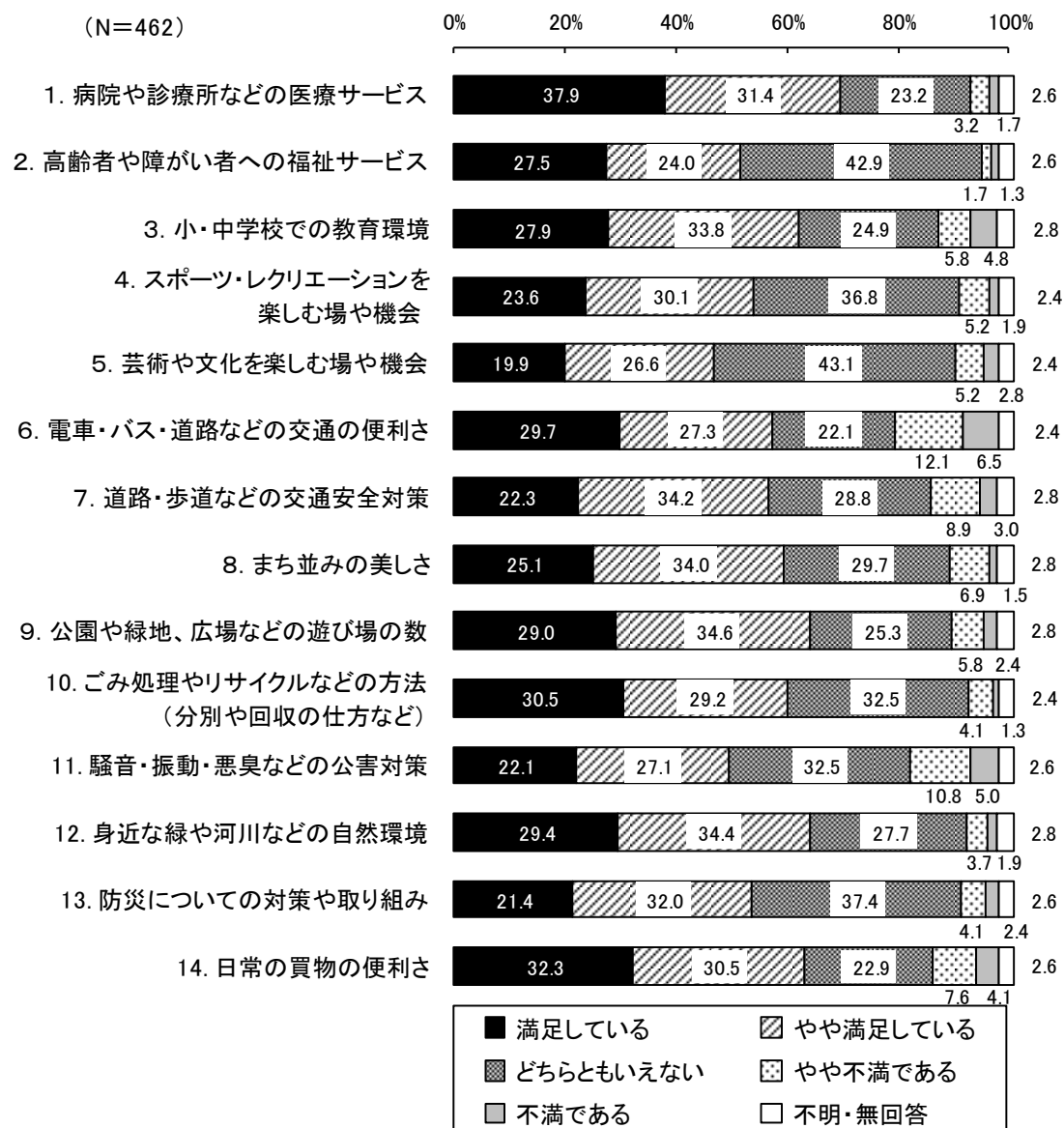
4. 日常生活における満足度について

問 13 あなたの身近な生活環境について、どの程度満足していますか。(単数回答)

【満足度】

満足度について、「1. 病院や診療所などの医療サービス」で、「満足している」と「やや満足している」を合わせた『満足している』の割合が 69.3%と最も高く、次いで「12. 身近な緑や河川などの自然環境」が 63.8%、「9. 公園や緑地、広場などの遊び場の数」が 63.6%となっています。

一方、「5. 芸術や文化を楽しむ場や機会」が 46.5%と最も低くなっています。

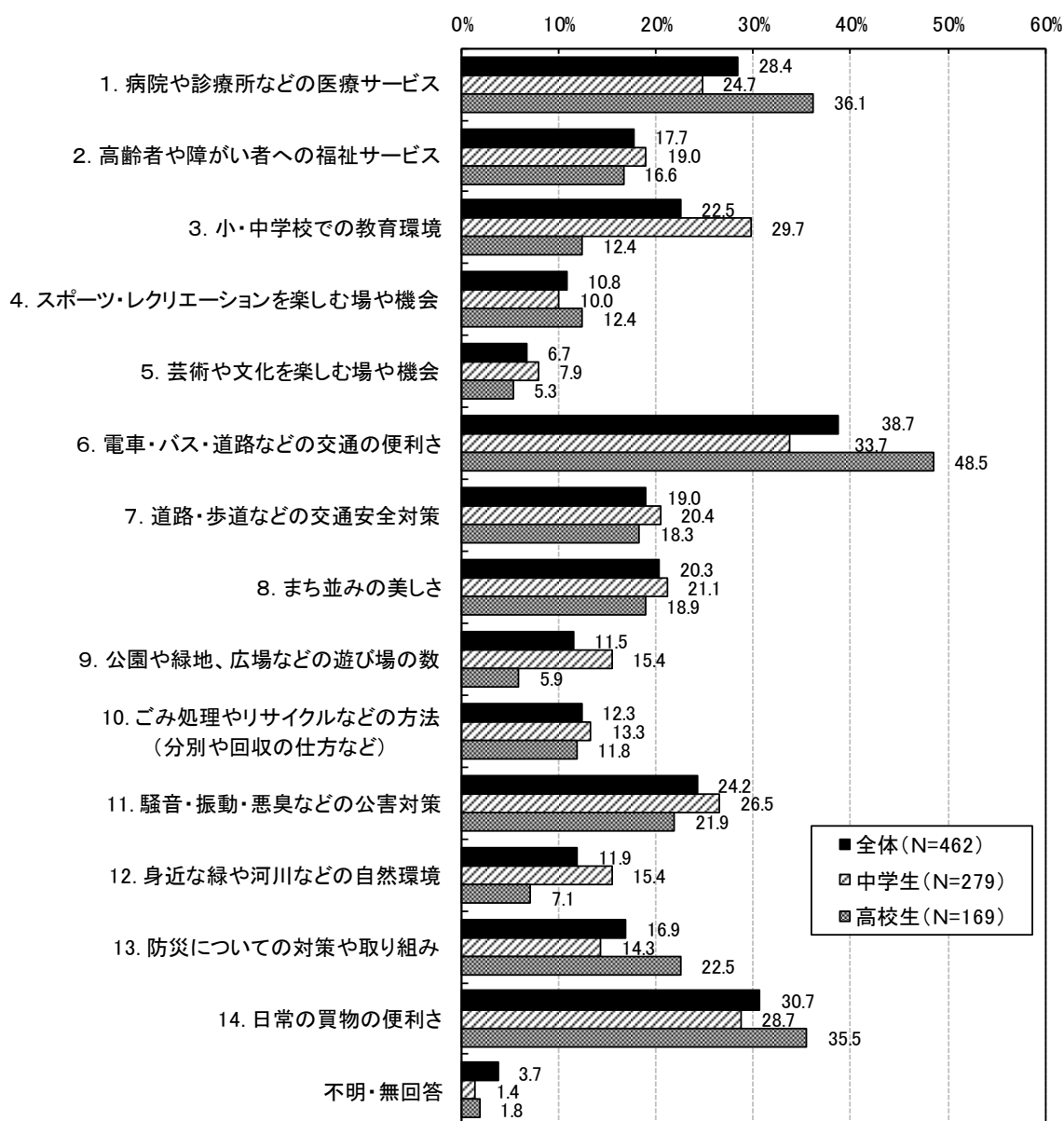


問14 あなたの生活環境がより良くなるために、問13の項目の中であなたが特に重要だと思う項目について1～14の項目番号から3つまで選び、番号を記入してください。

(3つまで複数回答)

特に重要と考える項目について、「6. 電車・バス・道路などの交通の便利さ」が38.7%と最も高く、次いで「14. 日常の買物の便利さ」が30.7%、「1. 病院や診療所などの医療サービス」が28.4%となっています。

学年別について、中学生、高校生ともに「6. 電車・バス・道路などの交通の便利さ」が最も高く、高校生は48.5%と中学生の33.7%を14.8ポイント上回っています。次いで中学生は「3. 小・中学校での教育環境」が29.7%、高校生は「1. 病院や診療所などの医療サービス」が36.1%となっています。



5. まちづくりへの関心について

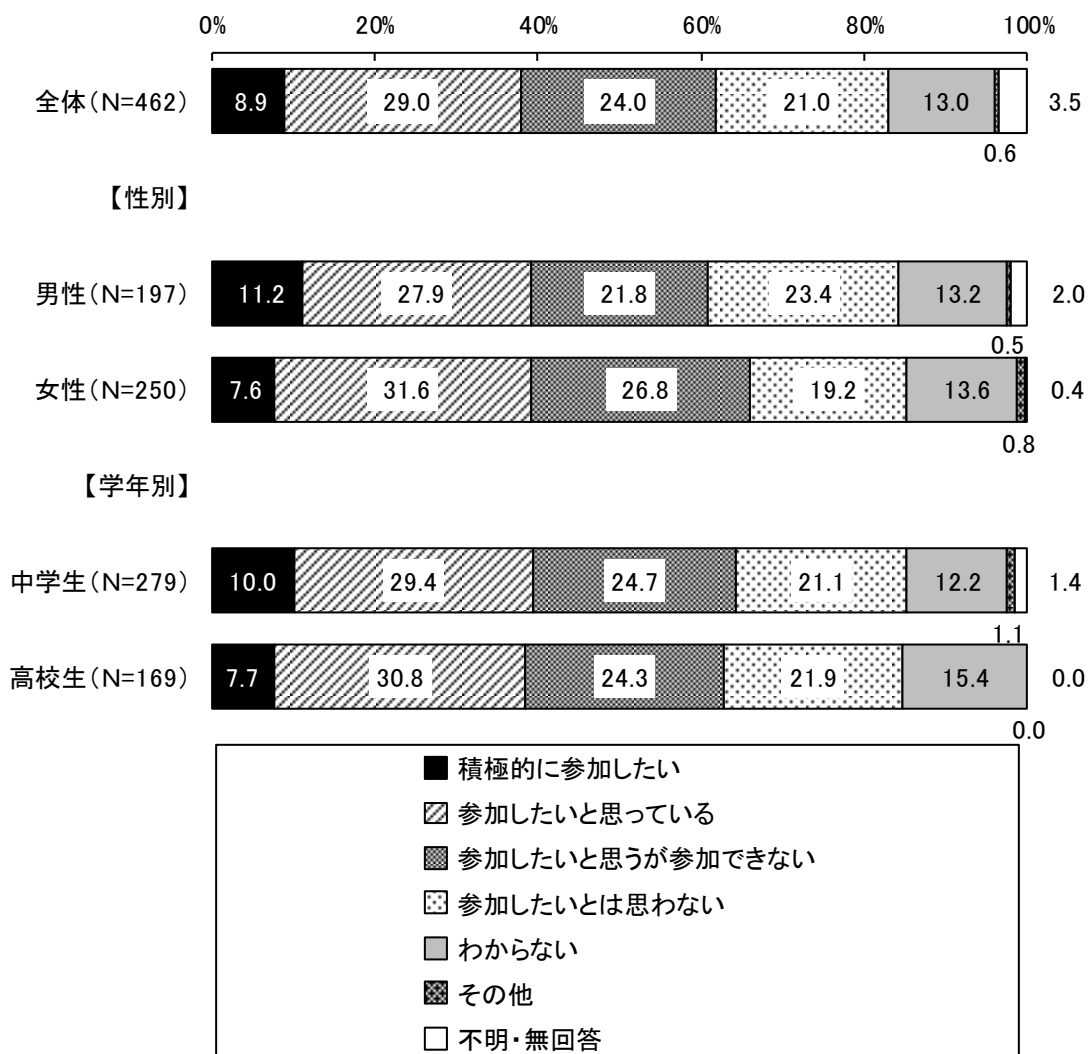
問 15 あなたは、地域でのボランティア活動や、各務原市のまちをより良くする活動に参加したいと思いますか。(単数回答)

【参加意向】

まちをより良くする活動に参加したいかについて、「参加したいと思っている」が29.0%で最も高く、次いで「参加したいと思うが参加できない」が24.0%となっています。

性別について、「積極的に参加したい」と「参加したいと思っている」を合わせた『参加したい』の割合では、男性が39.1%、女性が39.2%とほぼ同率となっています。

学年別について、中学生、高校生ともに「参加したいと思っている」が最も高くなっています。

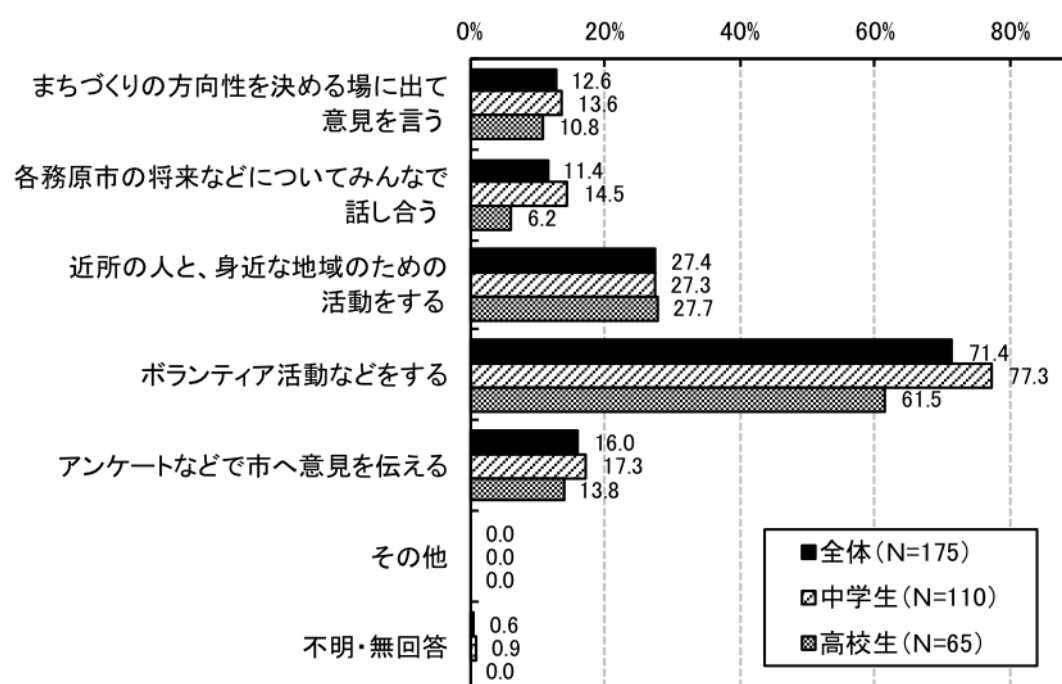


<問 15 で「1. 積極的に参加したい」または「2. 参加したいと思っている」と回答した方におたずねします。>

問 16 どのような形で参加したいですか。(複数回答)

どのような形で参加したいかについて、「ボランティア活動などをする」が 71.4%で最も高く、次いで「近所の人と、身近な地域のための活動をする」が 27.4%となっています。

学年別について、中学生、高校生ともに「ボランティア活動などをする」が最も高く、中学生は 77.3%と、高校生の 61.5%を 15.8 ポイント上回っています。

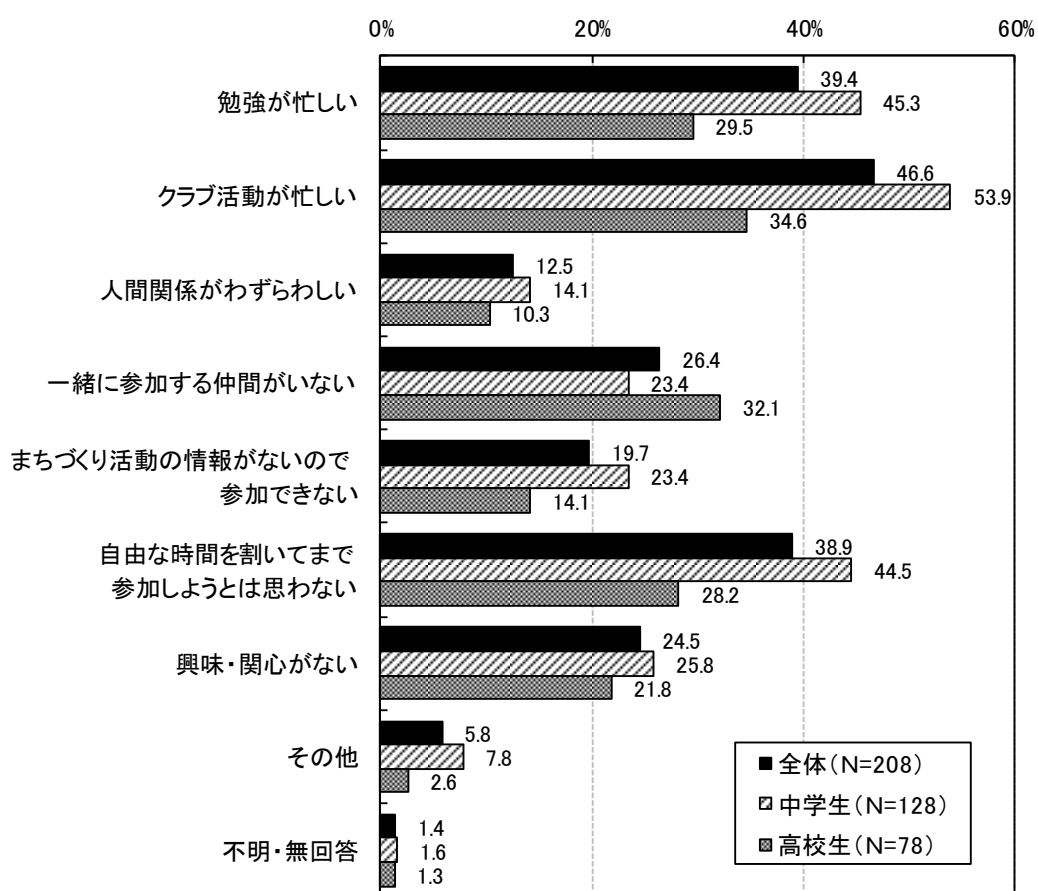


＜問15で「3. 参加したいと思うが参加できない」または「4. 参加したいとは思わない」と回答した方におたずねします。＞

問17 参加できない、または、参加したいと思わないと思われる理由は何ですか。(複数回答)

参加できないと思う理由について、「クラブ活動が忙しい」が46.6%で最も高く、次いで「勉強が忙しい」が39.4%となっています。

学年別について、中学生、高校生ともに「クラブ活動が忙しい」が最も高く、特に中学生は53.9%と、高校生の34.6%を19.3ポイント上回っています。また、中学生は「自由な時間を割いてまで参加しようとは思わない」でも44.5%と、高校生の28.2%を16.3ポイント高くなっています。



6. あなたの幸せについて

問 18 現在、あなたはどの程度幸せですか。「とても幸せ」を 10 点、「とても不幸」を 0 点として、何点くらいになると思いますか。(単数回答)

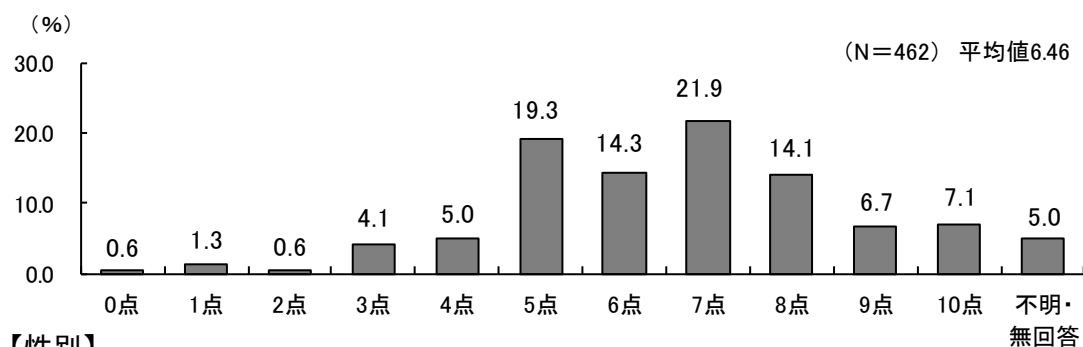
【幸福度】

幸福度について、「7 点」が 21.9%と最も高く、次いで「5 点」が 19.3%、「6 点」が 14.3%となっています。平均値は 6.46 となっています。

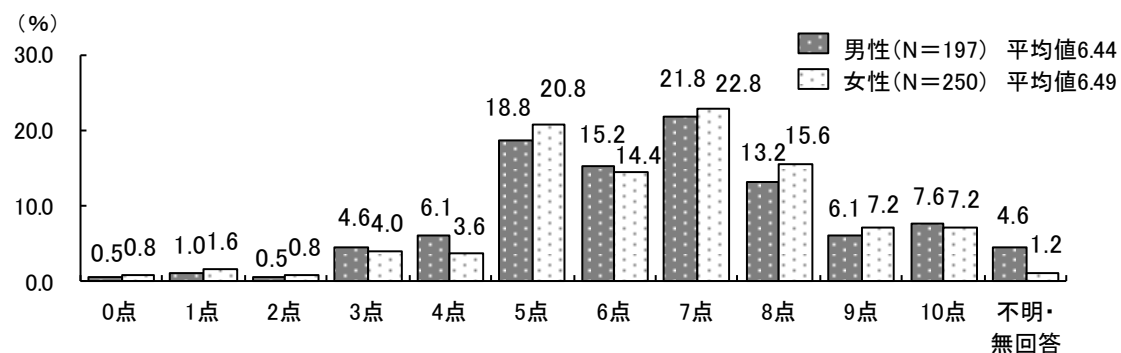
性別について、男性、女性ともに「7 点」が最も高くなっています。平均値は、男性よりも女性の方が高くなっています。

学年別について、中学生、高校生ともに「7 点」が最も高くなっています。平均値は、中学生よりも高校生の方が高くなっています。

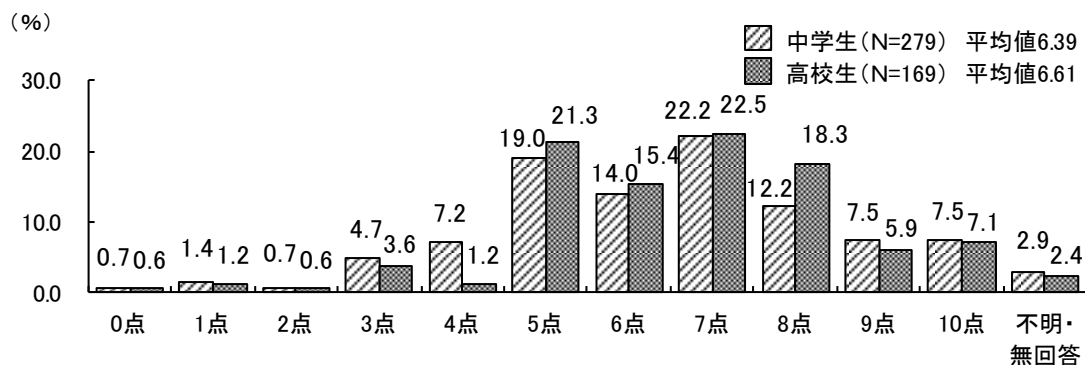
【全体】



【性別】



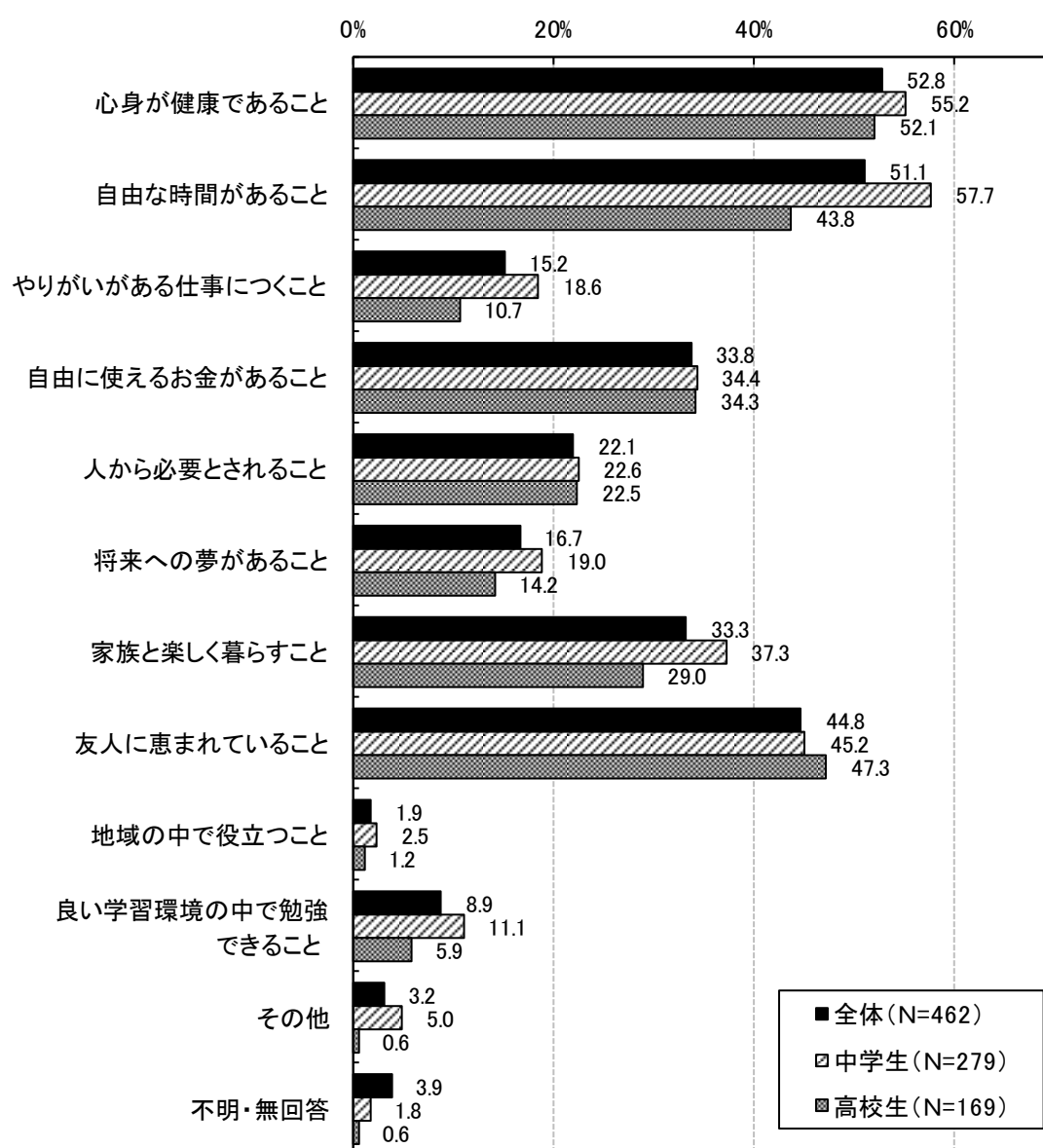
【学年別】



問 19 あなたが幸せであるために重要だと思うことは何ですか。(3つまで複数回答)

幸せであるために重要だと思うことについて、「心身が健康であること」が 52.8%と最も高く、次いで「自由な時間があること」が 51.1%、「友人に恵まれていること」が 44.8%となっています。

学年別について、中学生は「自由な時間があること」が 57.7%と最も高く、高校生の 43.8%を 13.9 ポイント上回っています。

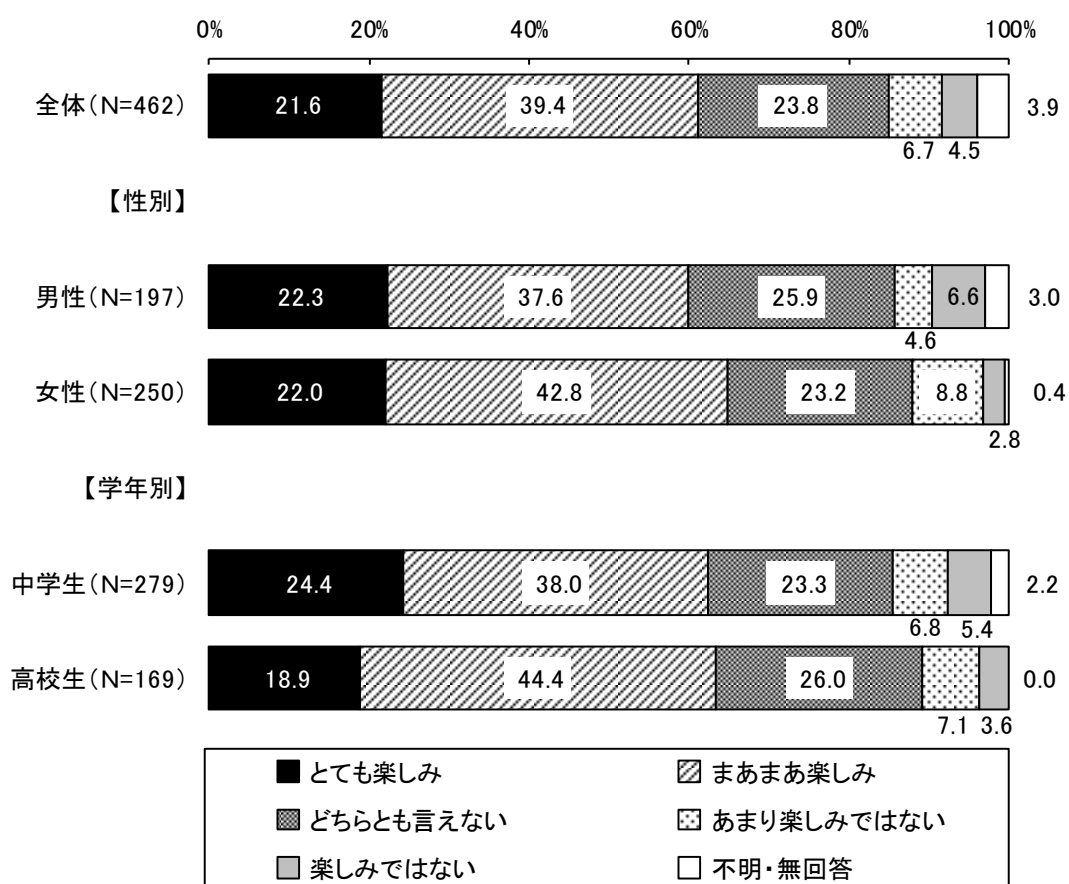


問 20 あなたは、自分の将来が楽しみですか。(単数回答)

自分の将来が楽しみかについて、「まあまあ楽しみ」が 39.4%と最も高く、次いで「どちらとも言えない」が 23.8%となっています。

性別について、女性は「とても楽しみ」と「まあまあ楽しみ」を合わせた『楽しみ』の割合が 64.8%で、男性の 59.9%を 4.9 ポイント上回っています。

学年別について、高校生は『楽しみ』が 63.3%で、中学生の 62.4%と差はみられませんが、高校生の「とても楽しみ」が 18.9%と、中学生の 24.4%より 5.5 ポイント減少しています。



7. あなたのアイデアについて

自由記述のため別途「その他・自由意見集」掲載

問 21 もし、あなたが各務原市の市長だったらどんな「まちづくり」をしたいですか。
「こんなまちを作りたい！」という思いをお書きください。

あなたが市長になったら…

- ①まちのキャッチフレーズは？
- ②何に力を入れたいですか？
- ③市民がどう感じるまちにしたいですか？